

# 乳幼児の健やかな 成長発達（ECD） への 男性の参画促進

プログラムと  
インフルエンシングのパッケージ



# 謝辞

このガイドンスの多くの章は、2016年から現在に至るまでカナダ政府の資金援助を受けて実施されているSHOWプロジェクトのために、プラン・インターナショナル・カナダとPromundoが開発したモジュールに大幅に依拠している。SHOWモジュールは、PromundoのJane Kato-Wallace、Aapta Garg、Alexa HassinkがSaadya Hamdani(プラン・インターナショナル)とともに執筆したもので、[MenCare](#)サイトと[プラン・インターナショナル・カナダのGender Equality and Inclusion Resource](#)ページで入手できる。

手引書自体は、Kate Doyle(Promundo)の技術支援を受け、Melanie Swan(プラン・インターナショナル)が作成した。指針の作成にあたり、技術的な検討と意見を提供してくれた以下のプラン・インターナショナルのスタッフ全員に、特別な謝意を表す: Nicole Rodger、Katherine Fell(オーストラリア)、Ikhtiar Khandaker、Iva Irfath、Murshid Akhtar(バングラデシュ)、Romeo Matsas(ベルギー)、Daniel Rojas(ボリビア)、Cassandra Pilla、Saadya Hamdani、Fe Nogra Abog(カナダ)、Margarita Martinez、Marcela Henao、Maribel Riaño、Icy Fernandez、Susan Herrera、Viviana Luna、Maritza Chanchi、Irina Meza(すべてコロンビア)、Santa Mateo(ドミニカ共和国)、Marco Rojas(エクアドル)、Alex Munive、Elsebeth Elo、Fatima Haas(グローバル・ハブ)、Sandra Margarita Sandoval(グアテマラ)、Shruti Mishra(インド)、Daniel Molina(南北アメリカ地域事務所)、Thomas Agnemo(スウェーデン)。男性の参加に関する検証や研修ワークショップに参加してくれたプラン・インターナショナル各国事務所とスタッフにも感謝する。

また、MenEngage AllianceとMenCare Global Campaignにも感謝する。

最後に、世界初の男性参加研修と検証ワークショップに資金を提供したプラン・インターナショナル・スウェーデン、この作業を支援するために多大な時間とリソースを提供してくれたプラン・インターナショナル・オーストラリア、そして本指針の最初の地域検証ワークショップに共同資金を提供し、開催してくれ、本書の制作を支援し、男性参加に関するプラン・インターナショナルの混合学習教材の制作を支援してくれたプラン・インターナショナルの南北アメリカ地域事務局に、感謝の意を表す。

**2021年2月**

# 略語集

ANC	産前ケア
CHW	コミュニティ・ヘルスワーカー
ECCE	幼児教育
ECD	乳幼児の健やかな成長発達
FBO	宗教団体
IMAGES	国際男性とジェンダー平等調査
IPV	親密なパートナーからの暴力
M&E	監視と評価
MNCH	母子保健
OECD	経済協力開発機構
OECD SIGI	経済協力開発機構(OECD)社会制度とジェンダー指数
PNC	産後ケア
SBCC	社会・行動変容コミュニケーション
SHOW	女性と子どもの健康成果の強化
SOP	標準作業手順
SRH	性と生殖に関する健康
UNCRC	国連子どもの権利条約
VSL	村の貯蓄貸付



## ツール

このアイコンは、プログラムパッケージに含まれるツール、チェックリスト、ワークシートを示している。



## アドバイス

このアイコンは、男性が参加する際に考慮すべき重要な情報を強調している。

# 序章

プラン・インターナショナルは、アフリカ、アジア太平洋、中東、ラテンアメリカにおいて、子どもの権利と女の子の平等を促進するために活動している独立した開発・人道団体である。乳幼児の健やかな成長発達(ECD)はプラン・インターナショナルが優先的に取り組んでいるプログラム分野である。私たちはジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチを用いて活動し、ECDのプログラミングと働きかけの機会を活用して、幼い女の子と男の子の権利を推進するだけでなく、ジェンダー平等を促進し、差別的なジェンダー規範、役割、関係を変革し、母親やその他の子どもの養育に関わる女性たちの権利とウェルビーイングを向上させる。プラン・インターナショナルでは、複数の国で、保護者、教育関係者、サービス提供者、コミュニティが、幼い女の子と男の子の最適なECDに必要な養育ケアを提供できるよう支援することを目的とした、プログラミングを促進している。

1997年にブラジルで設立されたPromundoは、ジェンダー平等は世界にとって社会的な善であり、ジェンダー不平等と家父長制を克服し、ジェンダー平等を推進することは、女性、男性、そしてあらゆるジェンダー・アイデンティティの個人にとって必要であると信じている。私たちは、保護者男性のパートナーとして、また幼い子どもたちの保護者として、公平で非暴力的な参加を促進するために、父親業と男性がケアを提供することに取り組んでいる。20年以上にわたり、ジェンダー平等な方法で男性のケア能力を向上させるための調査、提言活動、プログラムを開発してきた。私たちは世界中のパートナーと協力し、男性がケアすることに関する社会規範を変革し、女性と子どもに対する暴力を防止し、妊産婦と子どもの健康増進に貢献している。

プラン・インターナショナルとPromundoにとって、男性のECDへの参加を促進することは、以下を意味する。男性の保護者が、幼い女の子や男の子にジェンダーに配慮した養育を提供できるよう支援すること。家庭内の良好な関係を強化すること(非暴力、ジェンダーに公平な意思決定、育児や家事の再分配を含む)。男性が幼児の学習や教育に楽しい子育てで関わること。女性パートナー、女の子、男の子の健康と幸福への男性の関わりを増やし、支援すること。コミュニティやリーダーと協力し、女性と男性の態度、期待、行動に影響を与えるジェンダー規範に取り組むことを含め、男性の世話の役割を促進すること。

私たちは、男性が幼い子どものケアや発達に関わるのが、家族や子どもにとっても、女性のパートナーにとっても、そして男性自身にとっても良いことであると知っている。しかし、男性のECDへの参加を促進し、支援することは容易なことではないことも承知している。私たちは潜在的なリスクや落とし穴、特に女性や女の子の自主性や選択肢を損なうようなものに注意しなければならない。

男性がどう行動すべきか、何をすべきで、何をすべきでないかについての規範や期待、肯定的な男性性やあり方の模範となる男性の不在、貧困、失業、都市化、移住の影響により、男性が不在であったり、家族を支えることができない場合が多いこと、男性を排除したり、男性の参加や支援を可能にする環境を提供しないサービスや政策など、男性の参加を阻む障壁も複数存在する。

男性の参加を促進するECDのプログラムとインフルエンシングは、特に女の子や女性だけでなく、男の子や男性にとっても、ジェンダー不平等や、制限的で差別的な規範や役割に挑戦するための重要な入口を提供する。

プラン・インターナショナルとPromundoは、このプログラミング・パッケージを共有できることを誇りに思う。個人、組織、コミュニティ、政府、政策立案者が、男性自身が恩恵を受けるだけでなく、男性がパートナーや子どもの幸福、健康、発達を守り、支え、促進する方法を変える一助となることを願っている。



Melanie Swan

グローバル技術リード

Early Childhood Development Network



Kate Doyle

上級プログラム&調査員

Promundo-US

# 目次

ECDのための養育ケアへの男性の関与を促進するためのプログラムフレームワーク	6
<b>第1章:</b> ECDのための養育ケアへの男性の参加を促進するためのプログラム枠組み	15
<b>第2章:</b> 男性に直接働きかけ、ECDの養育ケアへの参加を促す	29
<b>第3章:</b> 幼児の学習と教育への男性の参加を可能にする	49
<b>第4章:</b> 男性の養育ケア、ECD、妊産婦の健康への関与を促進するための医療従事者や CHWsとの協働	57
<b>第5章:</b> コミュニティやリーダーと協力し、ECDの養育ケアへの男性の参加を促進する	74
<b>第6章:</b> 男性の参加を支持する、ECDおよび社会保護政策の変化への影響力	95
<b>第7章:</b> 男性のECDへの参加を促進するためのSBCCキャンペーンのメッセージ策定	112
巻末資料	127



# ECDパッケージへの男性の参加の紹介

## 背景

本書は、養育ケアやECD、妊産婦の健康やウェルビーイングへの男性の参加を増やすことを目的としたプログラムのために開発されたリソース・パッケージである。これは、男性が養育ケアや無償ケア労働、妊産婦の健康やウェルビーイングに積極的に関わることで、幼児、女性、家族、そして男性自身にもメリットがあることを示す証拠が増えつつあることを踏まえ、プラン・インターナショナルがPromundoと共同で開発したものである。従って、男性による幼児のケアと養育への参加を促進することは、プラン・インターナショナルのジェンダー・トランスフォーマティブなECDの取り組みの中心的柱であり、Promundoの優先事項でもある。

この紹介には以下が含まれる：

- 主要概念
- 養育ケアとECDに男性の参加を促すことがなぜ非常に重要なのかについての説明
- 現在、男性が幼児の養育と発育にどの程度関わっているかについての情報
- 男性の参加を妨げるさまざまな障壁が存在し、プログラムにおいて対処する必要がある可能性があることの説明。

この序章とともに、本パッケージにはいくつかの章が含まれている、

- 第1章: ECDのための養育ケアへの男性の参加を促進するためのプログラム枠組み
- 第2章: 男性に直接働きかけ、ECDの養育ケアへの参加を促す
- 第3章: 幼児の学習と教育への男性の参加を可能にする
- 第4章: 男性の養育ケア、ECD、妊産婦の健康への関与を促進するための医療従事者や CHWsとの協働
- 第5章: コミュニティやリーダーと協力し、ECDの養育ケアへの男性の参加を促進する
- 第6章: 男性の参加を支持する、ECDおよび社会保護政策の変化への影響力
- 第7章: 男性のECDへの参加を促進するためのSBCCキャンペーンのメッセージ策定

本パッケージには、多くの状況やコミュニティにおいて、男性が無償ケア労働や幼児の世話や発育に参加するのを制限しているジェンダー規範の変化を促進するために、どのように取り組むかについての特別な章は含まれていない。しかし、男性が医療や無償ケア労働、育児に関わる女性や男性の役割と責任に関して、既存の男性性の概念や規範に挑戦することを意味するという事実は認めている。そのため、規範を変える仕事は、多くの章やモジュールで検討されている。

さらに、否定的で有害な、あるいは制限的なジェンダー規範の段階的な放棄を促し、これらの規範を支えるジェンダー化された力関係の変化を促し、公平で非暴力的な父親や保護者としての男性の積極的な関与を可能にする新たな肯定的規範を創出するためのプロセスの一部として、グループ教育、社会・行動変容コミュニケーション(SBCC)、政策への働きかけなど、各章で説明するさまざまな戦略を併用する必要がある場合が多い。

## 主要概念

**態度:** 個々人が抱いている信念で、何かが良いか悪いか、神聖かタブーか、そうでないかを評価するもの。態度は、社会的文脈の外で、人びとが何を好み、何を選択するかに影響する。

**ECD:** 子どもが、身体活動、思考、感情、コミュニケーション、他者との交流など、より複雑なレベルを習得していく変化の過程。

**ECD政策とプログラム:** これらは、健康や十分な栄養、清潔で安全な物的環境、手厚い養育と遊びの機会、乳幼児教育、そして小学校へ順調に移行するための支援など、出生前から8歳までの子どもに対する包括的な支援を提供するものである。これらの中心的な側面は、保護者が養育的なケアを提供できるよう支援することである。これは、幼児の脳と身体の成長と発達に必要なケアである(下記参照)。

**父親:** 本書でいう父親とは、子どもの実父、あるいは特定の子どもにとって重要な男性保護者であるその他の男性のことである。子どもの人生における重要な男性保護者は、子どもの母親のボーイフレンドであったり、子どもの継父、祖父、叔父(例えば母系社会では母親の兄弟)であったりする。父親や男性の保護者にはさまざまな形がある。「異性愛者、同性愛者、バイセクシュアル、トランスジェンダー、パートナーとの同居、別居、両親との同居、養子縁組をしている、子どもの親権を持っているなど」<sup>1</sup>。

**家族:** 尊敬、愛、愛情に基づいて家庭を形成し、その福祉を維持するための支援を提供する個人の集団。子どもの権利委員会は、家族とは「核家族、拡大家族、その他伝統的および現代的なコミュニティに基づく取り決めなど、幼児の世話、養育、発育を提供できるさまざまな取り決めに指し、それらが子どもの権利および最善の利益と一致することを条件とする」と認識している<sup>2</sup>。

**ジェンダーと社会規範:** 社会規範とは、人はどのように振る舞うべきかという、集団の間で共有される期待や非公式なルールのことである。規範は、ある状況において人がどのような行動が一般的/適切であるかを形成するものである。人びとは、関係があるネットワークの大半の人はそれに従うと信じており、彼らにとって発言が重視される人物が規範に従うことを彼らに期待しているため、彼らは規範に従うことを望む。規範を遵守する者には社会的報酬があり、そうでない者には制裁がある。ジェンダー規範は、社会規範の重大な「部分集合」を形成している。ジェンダー規範とは、ある集団や社会で、特定のジェンダーの人に期待される行動やあり方を規定するものである。ジェンダー規範の例は、「本当の男性」はケア労働や養育を手伝わない、または争いを暴力で解決するというものだ。ジェンダー規範は、権力と特権の階層を反映し、維持するものであり、一般的に、男性的とされるものが女性的とされるものよりも優遇される。それは、女性、女の子、男の子、そして男性の(しばしば不平等な)リソースと自由へのアクセスを構造化し、その結果、彼らの発言力、主体性、権力、そして社会的地位に影響を与える。ジェンダー規範は、女の子や女性、そして彼女たちの移動、教育、意思決定力、将来への期待に制限を加えるものであり、既存の社会秩序を維持するための手段であり、権力の不平等を反映するだけでなく、強化するものでもある。

**ジェンダーの社会化:** これは、子どもが自身のジェンダーに関連する社会的期待、態度、行動について学ぶプロセスである。子どもは生まれたその日から、両親、保護者、教師、他の子ども、メディアによってジェンダーの社会化を受ける。この過程は、小学生になるまでに、女の子も男の子も、ジェンダー・アイデンティティを自覚し、その行動や役割に関して、社会の規範やアイデンティティへの期待を既に学んでいることが多く、ジェンダーに関する文化の信念(多くの国では、女の子や女性は男性よりも価値が低いという信念を含む)を同化していることが多いことを意味する。

**ジェンダーに配慮したアプローチ:** 男女がいかに社会におけるジェンダー規範を形成し、永続させているか、また、どちらか一方に働きかけるよりも、意図的かつ同調的に両者に働きかける方が効果的であることを認識する。

**ジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチ:** プラン・インターナショナルのジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチは、ジェンダー不平等の根本原因に取り組み、不平等なジェンダーと力関係を再構築することで、女の子の権利の完全な実現と、ジェンダーに関係なくすべての子ども、ユース、大人間の平等を達成することを目的としている。社会における女の子と女性の地位と価値を高め、彼女たちの状態の改善を目指す。女の子と女性が十分な情報を得た上で選択・決定し、罰の恐怖や脅威から解放されて行動できるように支援する。このアプローチは、ジェンダー規範に対する批判的な考察、疑問、挑戦を促す。また、ジェンダーに基づくリソースと役割の分配にも挑戦する。それは、女の子と女性の権利を適切に保護し、彼女たちが直面する障壁に取り組み、彼女たちの特別なニーズを満たすジェンダー平等を可能にする政策と予算的・制度的枠組みを育成することへの関心を含む。それには、あらゆるレベル(個人、家族、コミュニティ、制度や社会)で、人の生涯に渡って取り組むことが必要である。

**男性の参加:** プラン・インターナショナルは、男性の参加(男達の参加または男性の関与とも呼ばれる)を、パートナーや子どもの幸福、健康、発達を守り、支え、促進する上で男性が積極的な役割を果たすことと定義している。

この定義は、男性の持続的かつ継続的な行動変容、男女間およびパートナー間のジェンダー平等な関係というビジョンを前提としている。男性の参加は、男性の感情、動機、関係を含む広範な概念であり、単に生殖や妊産婦の健康、育児、発育(おむつ交換、食事を与えるなど)に関連する男性が参加する一連の行動や決定だけを指すものではないと考える。この広義の定義に基づけば、男性は以下のような場合に参加していることになる:

- パートナーや子どもと感情的に関わっている。
- 精神的支援、経済的支援、身体的支援を含め、パートナーや子どもの健康、幸福、発達の保護と促進に積極的に参加する。
- 仕事量(無償ケア労働、育児、家庭外での仕事を含む)についてパートナーと共同責任を負い、幸せで、尊敬に値する、非暴力的で、健康的で、思いやりのある夫婦関係を築く。
- パートナーとともに十分な情報に基づいた意思決定を行い、パートナーの自律的な意思決定をサポートする。
- 意見の相違や潜在的な対立を暴力なしに解決し、愛、愛情、尊敬、積極的なコミュニケーションを促進することによって、暴力の連鎖を止めるための積極的な努力をする。

**養育ケア:** 幼児がその可能性を最大限に伸ばすために必要なケアと支援であり、特に親と家族によって提供されるものと定義される。養育ケアには、良好な健康と栄養を促進するための実践、子どもが安全、安心で、暴力や事故から守られることの保証、きめ細やかなケア、早期学習と遊びの機会などが含まれる<sup>3</sup>。



**SBCC:** 社会的・行動的变化を支援し、個人の信念、態度、実践だけでなく、社会的・ジェンダー的規範や期待、それらを支持・強化するあらゆる政策にも影響を与えるよう設計されたコミュニケーション戦略である。メッセージング、マスメディアやソーシャルメディアの利用、対人コミュニケーション、教育娯楽などが含まれる。

**無償ケア労働:** 家事労働(食事の準備、掃除、洗濯、水や燃料の収集)、家庭やコミュニティで行われる人(子ども、高齢者、障がい者、健常成人を含む)の直接的な世話を含む。

## なぜ男性の関与が重要なのか

男性が子どもの世話や発育に関わることは、さまざまな理由から重要である。

### 男性の関与は子どものためになる

父親は重要である。父親と子どもの関係は、それが肯定的な、否定的な、あるいは欠落しているかにかかわらず、あらゆるコミュニティで、また子どもの人生のあらゆる段階において、子どもに生涯続く深く広範な影響を与える。

父親レポート 2015<sup>4</sup>

男性が子どもの人生に関与することは良いことであるという見解と多くの記述的証拠がある<sup>5</sup>。思いやりがあり、暴力的でない男性の関与の高さは、子どもにとって次のような好ましい結果と関連している:

- ➔ 心身の健康増進
- ➔ より良い認知発達とより高い教育的成果
- ➔ より良い仲間関係、より大きな共感能力
- ➔ 伝統的な性別役割分担に疑問を投げかけ、労働や育児に対する非伝統的な考え方に寛容になる
- ➔ 男の子の行動上の問題が減り、女の子の心理的問題が減る
- ➔ ユースでは、自尊心と人生満足度が高く、抑うつ、恐怖、自分不信が低い
- ➔ 犯罪や薬物乱用の割合が低い。

また、次のようなことも示唆されている<sup>6</sup>:

- ➔ 父親が重要なのは、子どもの成長に伴うものであり、人生の初めの数年間だけに限らない。思いやりがあり、関与してくれる父親を持つことは、思春期の子どもにとって特に重要である。
- ➔ 肯定的な親子関係の利点は、男性が子どもと一緒に住んでいるかどうかに関係なく存在する。
- ➔ 父親が男性的な存在であるとか、男性のロールモデルであるとか、男性特有のことをしてくれるとか、そういうことが重要なのではない。子どもが成長し、学び、情緒的に安心できるようになるためには、少なくとも1人の保護者との安定した愛着が必要である。現在では、性別に関係なく、複数の保護者がいる方が子どもは成長しやすいという研究結果が出ている。父親が重要なのは、父親も母親と同じように、対応力のある愛情深い保護者になれるからである。この事実を反映して、赤ちゃんは女性と同じように男性とも簡単に結ばれることがわかっている。

## 男性の関与は女性パートナーのためになる

多くのコミュニティでは、男性が家庭レベルでの意思決定権力のほとんどを握っており、家族の資源の貯蔵、支出、投資の方法を決定する上で最も発言力がある。また、産前ケア(ANC)や出産を含め、女性が妊産婦保健サービスをどのように利用するか(または利用しないか)を決める際にも、男性が大きな役割を果たすことが多い<sup>7</sup>。

妊娠中の父親としての男性の参加は、妊産婦の健康とウェルビーイングの妨げとなる根本的なジェンダー不平等に取り組み、カップル関係を改善する入り口を提供する。男性の参加と妊産婦の健康状態との直接的な関連性についての証拠はまだ限定的だが<sup>8</sup>、男性の参加と出産適齢期の女性による母子保健(MNCH)サービスの利用増加との関連性は、世界的な文献で確立されている。最近の低・中所得国の研究分析によると、男性の参加は専門の技能を持つ分娩助産者による出産や産後ケア(PNC)の利用の改善と有意に関連していることがわかった<sup>9,10</sup>。さらに、妊娠中や出産時の危険な兆候について教育を受けている男性は、産科緊急時にパートナーが適切なケアを受けられるようにできることがわかった研究もある<sup>11,12</sup>。また、妊娠プロセスでの男性の関与によって、パートナーが産後うつ病を発症する可能性が低くなることもわかっている<sup>13</sup>。子どもの父親からサポートされていると感じている母親は、育児ストレスが少なく、負担を感じない、より前向きに子育てをし、生活満足度も高い。

## 男性の参加は、男性自身にとっても有益である

育児に積極的に関わっている男性は、自身の生活に満足を感じ、健康増進のための行動を取り、アルコールや薬物の摂取を抑える可能性が高い。また、ストレスが少なく、病気になりにくく、事故が少なく、長生きしやすく、コミュニティとの関わりも深い<sup>14</sup>。男性に対する質的調査では、世話に関わることで、男性の他者との感情的なつながりの能力が高まることが分かっており、男性は保護者としての役割を感情的に充実したものであると述べている。

## 男性の参加は家族のためになる

世話をすることで、男性は家庭レベルで新しい交流の方法、つまり他者に対して権力を行使したり、暴力を振るうこととは無縁の方法を学ぶことができる。これは、伝統的なジェンダー的役割の制約から男性を解放するものである<sup>15</sup>。男性のケアへの参加は、**カップル関係**の改善にもつながる。夫婦関係に対するパートナー双方の満足度の向上、家族内のストレスレベルの低下、意思決定における平等性の向上、家庭内暴力の発生率の低下などである。また、体罰の減少や子どもへの性的虐待リスクの減少など、**父子関係**の改善にもつながる<sup>16</sup>。

男性の参画は、ECDや妊産婦の健康と幸福のためだけでなく、コミュニティや社会におけるジェンダー的な関係や役割、ジェンダーの社会化プロセスを変革する鍵でもある。これによって、女の子や男の子が、あり方や振る舞いに関する制限的でステレオタイプなジェンダー的態度や期待から解放されて成長することができるのだ。

## 男性は幼児のケアにどの程度関わっているのだろうか？

一部の文化では、男性は長い間育児に欠かせないパートナーであり、多くの場合、子どもの年齢に応じて役割が明確に定義されている。しかし、より一般的な知見として、男性は、無償ケア労働と育児の責任を分担することに強い抵抗を示し続けている。これは、多くの国で女性の労働参加が増え、女性が直面する世話の負担が増大しているにもかかわらず、である<sup>17</sup>。

- 世界的な統計によると、家庭内で女性が無償ケア労働の大部分を負担している。2019年のOECDの社会制度・ジェンダー指数(SIGI)によると、すべての対象国(低所得、中所得、高所得)において、女性の無償ケア労働やボランティア活動への日常的な貢献は男性より大きい。値が高いほど男女間の不均衡が大きいことを示す比率で示され、無償労働の不均衡比率は1.26(スウェーデン)から10.00(カンボジア)の範囲である<sup>18</sup>。女性と男性が有償労働と無償ケア労働に費やす時間を合計すると、世界中のどの地域でも、平均して女性は男性に比べて毎日より多く働いている<sup>19</sup>。
- また、ほとんどの国で、男性は女性に比べて子どもと過ごす時間が短い。特に乳幼児期はそうで、男性は通常、世話(例えば、授乳やおむつ替え)や家事の手伝いにはほとんど関与しない。関わるとすれば、子どもが大きくなって、遊んだり、宿題を手伝ったりする時間であることが多い<sup>20</sup>。
- 同様に、プラン・インターナショナルが活動する多くのコミュニティでは、母子の健康は「女性の領域」とみなされている。

とはいえ、状況は変わりつつある。男性が妊産婦の健康や子どもの養育にどのように関わっているかという点で、国や文化によって大きな違いがあることが、研究によって明らかになっている。低・中所得国での研究によると、ケア労働や育児に対するジェンダー平等の意識が高い男性は、たいてい若く、教育水準が高く、都市部に住んでいる<sup>21,22</sup>。多くの研究やプログラムも、多くの男性が子どもと関わることを望み<sup>23</sup>子どもとの親密な関係を楽しんでいる<sup>24</sup>ことを明らかにしている。しかし彼らの多くは、ジェンダー規範による制約や、制度的・政策的障壁などの理由から、思うように活動できないでいる。

## 幼児の世話と発育に男性が関与することの障害

個人としての私たちの行動や習慣は、多くの場合、個人的、社会的、物質的、制度的要因の複雑な相互作用の影響を受けている。これらには以下のようなものがある。

### 個人的要因

- 特定の慣行/行動に関する知識(潜在的な利益や悪影響を含む)
- その行動/実践に対する個人的な態度:それを肯定的に捉えるか、否定的に捉えるか(善か悪か)、そしてその結果、自分自身や他の人びとがすべきことだと考えるかどうか。こうした態度は、道徳的価値観や文化的・宗教的信条に影響されることが多い。

i このことを示すために、ブラジル、チリ、クロアチア、インド、メキシコ、ルワンダでのIMAGES調査(International Men and Gender Equality Survey:国際男性・ジェンダー平等調査)によれば、(インドを除く)すべての国で、男性の半数近くが1つ以上の家事で同等以上の役割を果たしていた。しかし、ほとんどの場合、典型的な女性とみなされる仕事(掃除、洗濯、食事の準備)ではなく、典型的な男性とみなされる仕事(家の修理、請求書の支払い)に参加している。同様に、幼児を持つ男性の半数近くが、日常的に何らかの世話をしていると報告しているが、食事やおむつ替えなどではなく、遊びに関わっている傾向があった。Barker, G., et al. (2011) *Evolving Men: Initial Results from the IMAGES*. International Center for Research on Women (ICRW).

- 個人として、新しい行動や習慣を取り入れるスキルや自信があるかどうか

#### 社会的要因

- 社会的規範とジェンダー規範 – 他の人びと(私たちにとって重要な人びと)が何をするのか、そして彼らが何を正しいと考えるのかについての信念。ジェンダー規範の場合、こうした信念や期待はジェンダーによって異なる。

#### 物質的要因

- この行動を支援する資源(時間を含む)やサービスへのアクセスがあるかどうか

#### 制度的要因

- その行動を禁止または支持する法律や政策があるかどうか

さまざまな状況や文化において、男性がECDや妊産婦の健康や幸福に積極的に関与するためには、個人的、社会的、物質的、制度的なさまざまなレベルの障害が存在する。**男性の参加を促進するためには、現地の状況にどのような障壁が存在し、どのように対処し克服していくかを明らかにする必要がある。いくつかの障壁を以下に詳述する。**

### 夫や父親としての男性に対するジェンダー規範/期待

多くの社会では、男性は依然として家族の守護者であり、稼ぎ手であり、家族の長であることが期待され、意思決定を行い、家族の収入を確保する責任を負っている。男性は世話や家事に携わることは期待されていない。これらは女性の仕事とみなされることが多く、有償労働よりも社会的評価が低い。男性は権威主義的で規律を守る役割を期待され、女性は精神的なサポートやケアを期待される。異なる行動をとる男性は、社会の期待に従わないとして嘲笑され、辱められる「制裁」を受けることもある。

性差別や、社会的スティグマ、タブー、特に妊娠・出産といった「女性の問題」とみなされることに関連することも、男性が妊産婦の健康に関わっていく上で重要な障壁となっている<sup>25</sup>。男性は、伝統的に女性に割り当てられてきた仕事を引き受けると、女性パートナーに支配されているように見えるのではないかと心配するかもしれない。また、公的機関に子育ての支援を求めることに消極的で、支援の必要性を失敗のしるしとみなし、自身の男性性観に反すると考えるかもしれない。

### 世話人としての男性の能力に関する認識

多くの社会では、「男性は保護者に向いていない」、「生物学的に子どもに必要な愛情や世話をすることができていない」と考えられている。父親、特に若い父親は、しばしば不適切で、無責任で、危険で、せいぜい任意の「おまけ」とみなされる。この「欠乏の視点」は、父親が不在や無関与を選んでいるように描かれることの多いメディアを通じて促進されている。それは社会保護政策(条件付現金給付を含む)やマイクロファイナンス・プログラムにも及んでいる。マイクロファイナンス・プログラムは、女性や母親が男性よりも多くの収入を家計に回しているという調査結果に基づいて、伝統的にほとんど母親だけに焦点を当ててきた。

ケアをする人としての男性に対する否定的な認識は、サービス提供にも反映されている。どの地域でも、就学前教育の労働力は圧倒的に女性<sup>ii</sup>が多く、多くの場合、低学年の教師の大半も女性である。このことは、乳幼児教育プログラムにおいて子どもの模範となる男性がほとんどおらず、教師がジェンダー平等で肯定的な関係を模範とする機会もほとんどないことを意味する。

<sup>ii</sup> 例えば、2018年には、全世界で就学前教員の94%が女性であり、ラテンアメリカと南・西・東アジアでは就学前教員の95%超が女性であった。サハラ以南のアフリカでは、就学前教師の80%近くが女性だった。出典: UNESCO Institute for Statistics, <http://data.uis.unesco.org/index.aspx?queryid=178> アクセス 2020年2月



このような乳幼児教育(ECCE)の役割もまた、自発的なものであることが多く、報酬は低く、教育レベルの高さの見合わない低賃金である。このような状況は、ケア労働は女性の仕事であり、幼い子どものケアは年上の子どもの教育(または他の種類の正規雇用)よりも社会的価値が低いという思い込みと期待を強化し、反映している。

しかし、調査によると、若い父親は良い父親であることの意味をよく理解し、それが家族への物質的な支援を確保する以上の意味を持つことを知っていることが多い。さらに、父親となるための大きな障壁に直面しているにもかかわらず、若い父親の子育てへの参画は年配の男性よりも進んでいる可能性がある<sup>26,27</sup>。加えて、「子どもの世話をするように生物学的にできているのは女性だけだ」という考え方にも異論がある。米ノースウェスタン大学政策研究所の研究によると、父親となることで、男性にホルモンの変化(テストステロンの減少など)が生じ、父親の身体は、赤ちゃんとの生物学的・心理学的な強い結びつきを育むことをより受け入れるようになる<sup>28</sup>。赤ちゃんや幼児と密接な身体的接触を持つ男性は、バソプレシンなど他のホルモンの増加も示し、これが子どもとの絆を支えている。従って、男性も女性と同じように、子どもにしっかりした愛着を持ち、養育し、保護する能力があると研究チームは主張している。女性にできて男性にできないことといえば、母乳を与えることだけである。

## 男性のロールモデルの不在

男性の参加を阻むこうした障壁は、世代を超えて影響を及ぼす。男性は、自身の父親を含め、父親としての参加の参考になるものが自身の人生にない場合、父親として参加する可能性が低くなる。低・中所得国におけるIMAGESの調査結果は、父親の参加は、男性の子ども時代の有害な体験によって否定的な影響を受けることを示している。特に、親密なパートナーから母親への暴力を目撃した男性は、その後の人生でパートナーに暴力を振るう可能性が高く、ケア労働に参加する可能性も低かった。一方、ボスニア、ブラジル、チリ、クロアチア、インド、メキシコの調査では、父親が兄弟の世話に参加しているのを見たこと、生まれた家庭で子どもの世話をするように教えられたこと、ジェンダー平等な考え方を持っていることはすべて、男性の世話への参加レベルの高さと関連していることが示唆されている<sup>29</sup>。

## 主要サービスからの除外

男性は、母子保健サービスを含め、子どもや家族に関するサービスから消極的に(時には積極的に)排除されており<sup>30</sup>、さまざまな理由から専門家や実務家によって見過ごされがちである。これには以下が含まれる。

- 先に述べたように、男性の親としての役割に関するジェンダー規範/期待が、男性の親としての能力に関する否定的な認識や、男性の親としての関与が重要かどうかに関する否定的な認識とともにある。
- 男性が参加できる時間帯にプログラムやセッションを提供しないなど、男性の参加を歓迎しない、あるいは支援しないサービスが多い。
- 男性が性と生殖に関する健康(SRH)/妊産婦保健サービスにより深く関わると、女性が自分の身体について選択する自由や、医療を受ける自由が妨げられるという懸念。

このようなサービスの「供給側」の欠乏は、男性自身のサービスに対する需要の減少につながる。サービスは「女性の仕事」とみなされ、サービスに参加する数少ない男性は、恥ずかしさや威圧感、場違いさを感じる人が多いのだ<sup>31</sup>。

## 貧困と失業、都市化と移民

これらは、男性が子どもの養育にどのように関わるかに影響し、しばしば否定的な影響を与える。

南アフリカでは、多くの男性が他の土地に出稼ぎに出ており、実父と一緒に暮らしている幼児は、3人に1人しかいない<sup>32</sup>。他の国のコミュニティでは、実家で暮らしている10代の若い母親の両親が、娘の夫が経済的に家族を養えない場合、積極的に若い父親を追い出そうとする。父親がいる場合でも、経済的な制約や硬直的な就労形態のために仕事を休めず、パートナーや子どもを医療や教育サービスに付き添わせることができないことが、大きな障壁となることがある。

## 有効な政策環境の欠如

OECDは、育児休暇を「政府が親の行動に直接影響を与えるために利用できる...数少ない政策手段のひとつ」としている<sup>33</sup>。父親に育児休暇を取得する機会を与えるだけでは、男性が子どものケアに従事することを保証するのに十分ではない。スウェーデン、ノルウェー、アイスランド<sup>34</sup>のように、男性の育児休暇が公共政策とすることで、社会が男性のケア労働を評価しているという力強い公的メッセージになるのだ。育児の初期段階を「脱ジェンダー化」し、雇用主が女性を雇用のリスクと見なすことも減少させる（長期の産休を提供すると、女性の雇用コストが高くなり、魅力的でなくなる可能性があるため）。

配偶者出産休暇が家族にもたらすメリットは複数報告されている。育児休暇を取得する父親は、育児に従事する可能性が高く、その期間も長ければ長いほど、健康的な生活を送る可能性が高く、パートナーはうつ病になりにくく、母乳による育児の可能性が高い。だが、世界銀行グループの「2019 Women, Business, and the Law」報告書によると、父親の有給育児休暇を国家が認めているのは、187カ国中90カ国（48%）に過ぎない<sup>35</sup>。認めている国ですら、休暇規定が3週間未満であることが一般的である。さらさらに、たとえ配偶者出産休暇が存在しても、休暇を取得する父親は少数である<sup>36</sup>。加えて、出産休暇も配偶者出産休暇もフォーマル経済の労働者に限定されているため、たとえ休暇が存在しても、大半のひとがインフォーマル経済に従事している状況では、休暇を取得する権利を持つ男女はほとんどいないという課題もある。

最後に、社会保護の施策は、ケア労働に関するジェンダー規範や期待を強化することが多い。条件付現金給付を含め、広く採用されている社会保護施策は、女性が母親であり保護者である（誰がケア労働を担うのかというジェンダー規範やステレオタイプを助長している）という理由で、女性を受給者として対象化し、枠にはめていること、無償ケア労働のような分担責任を含め、男性を参加させる努力をほとんどしていないこと、「貧しい」男性を排除することが、信頼できず無責任であるというステレオタイプ的な認識に基づいていることなどが批判されている<sup>37</sup>。

## 結論

上記で説明したように、男性が養育ケアやECD、無償ケア労働、妊産婦の健康に積極的に関わることは、幼い子どもだけでなく、女性や家族、男性自身にもさまざまな恩恵をもたらす可能性がある。しかし、多くの国々で男性のECDへの参加は限定的であり、参加に関心のある男性も複数の障壁に直面している。

ECDプログラムが男性の参加を促進し、男性の参加を阻む障壁に対処するための体系的な取り組みを行わない場合、不平等なジェンダー規範や、誰が養育の責任を負うのかという固定観念が強化される危険性がある。育児介入の効果や影響も影響を受けるだろう<sup>38</sup>。次の章/モジュールでは、どのように障壁を特定し、どのように障壁に対応した男性の参加プログラムを設計するかについての指針を示す。



## 第1章：ECDのための養育ケアへの男性の参加を促進するためのプログラム枠組み

本章では、養育ケア、ECD、妊産婦のウェルビーイングへの男性の関与を促進するためのプログラム枠組みを紹介する。以下の通りである：

- ECDへの男性参画の変化理論
- さまざまなアクターに主要な成果レベルの変化を示す成果枠組み
- ECDのプログラムとインフルエンシングにおける男性の参加に関する主な考慮事項と原則
- ECD介入における男性の参加を計画するための提言
- 男性がECDに参画するための主な介入策と戦略、そしてそれらの子育て、早期学習、MNCHのプログラムにどのように統合できるか。



## 男性参画活動の変化理論

序章で説明したように、人びとの行動や習慣は、個人的、社会的、物質的、制度的な複数の要因が複雑に絡み合って影響を受けることが多い。どの要因が最も重要かは文脈によって異なる。その結果、効果的な男性参加型プログラムは、以下のような複数の要因に取り組む必要がある。

### 個人的要因

- パートナーのウェルビーイング、そして幼い子どもの健やかで総合的な発達を支援するための、男性の自信、知識、スキル。
- 男性の保護者としての能力に関する、男女間、家族内、コミュニティ内、そして社会全体における信念。

### 社会的要因

- 無償ケア労働、育児、家庭と健康の意思決定に関する男女の責任と役割に関わるジェンダー規範（男女、家族、コミュニティメンバー、社会全体が共有する非公式なルールと行動への期待）。
- ジェンダー規範や期待を支える、夫婦や家族内のジェンダー化された力関係。
- 男性とその家族が利用できる社会資源で、男性の参加を支援するもの-コミュニティ/宗教的リーダーシップ支援やピアサポートネットワークなど。

### 物質的要因

- 保健や就学前教育サービスにおいて、男性をパートナー、父親、保護者としてどのように関与させるかに影響する、保健・教育サービス提供者の態度や技能。
- 子どもと女性のためのサービス、特に保健、栄養、教育が、男性の養育ケア、ECD、無償ケア労働への参加を促進し、積極的に参加できるように適応されているかどうか。

### 制度的要因

- 男性の参加を支援する社会的保護政策の存在（例えば、適切な有給・代替不可の出産休暇に加え、適切な期間の有給・代替不可の育児休暇など）<sup>39</sup>。
- 子どもの養育と発達への男性の積極的な参画を支援するECD政策と関連サービス規制の存在。

**社会生態学的モデルのアプローチ**は、男性の行動に影響を与えるさまざまな要因を分析し、個人、人間関係・関係性、コミュニティ、社会・構造レベル、つまりジェンダー規範が学習され、内面化され、再生産され、強化されるさまざまなレベルで、有害なジェンダー規範に挑戦するための多くの入り口を想定するのに役立つ。このモデルは、ジェンダーの不平等と差別、そして男性の参加の重要性についての啓発、そして男性の参加を支援する肯定的なジェンダー規範の促進を図るために、協働する必要があると思われる多様なアクターを特定するのに役立つ。これは、男性の参加を促進することは長期的なプロセスであり、男性に「良い」父親やパートナーになる方法を「教える」だけでは達成できないという事実を明らかにするものである。通常、以下のいくつかのアクターと複数のレベルで取り組む必要がある。

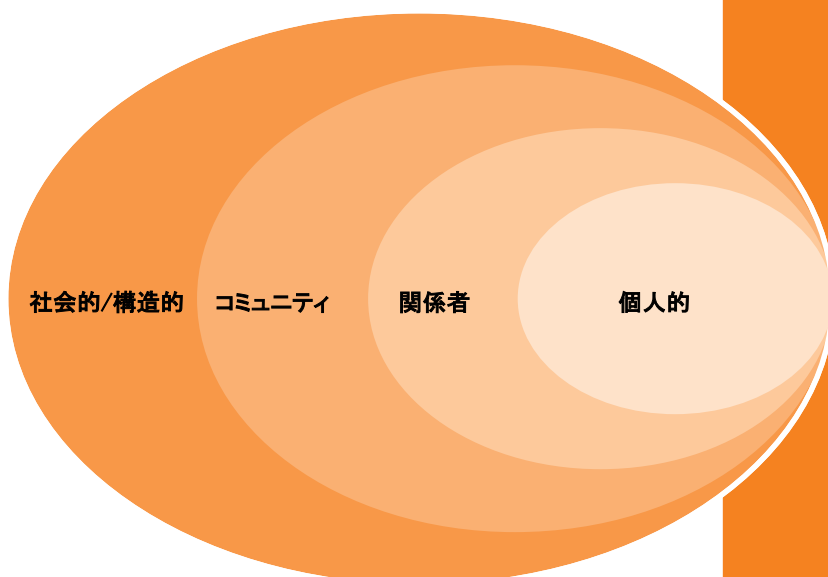


- MNCH、ECD、ジェンダー平等に関する法律や政策の制定、実施、監視、資金調達に責任を持つ、**国、州レベル、地方レベルの政策決定者**であり、養育ケア、ECD、妊産婦の健康と幸福への男性の参加を可能にしたり、障壁となったりする可能性のある人びと。
- **サービス提供者、特に保健サービス提供者や早期教育/就学前教育者は**、女性や男性のMNCHや就学前サービスへのアクセスや関わり方を管理することが多く、これらのサービスを利用する経験に影響を与える。
- **コミュニティ、宗教、伝統的なリーダー**は、多くのコミュニティで尊敬され、模範とされ、影響を与える存在である。彼らが関与しなければ、プログラムを妨害したり、反対したりするおそれさえある。彼らを支援に関与させることができれば、彼らは重要な同盟者であり、「トレンド・セッター」である。リーダーが率先して行動しているのを見れば、男性もそれを見習う可能性が高くなるのだ。
- **男性、その妻/パートナー、家族、コミュニティ、「参照グループ」のメンバー**。男性、そのパートナー、そしてその参照グループのメンバーと共に、ジェンダー化されたケア労働の配分と、女性の制限された主体性と自律性について考え、その根底にあるジェンダー規範と価値観を特定し理解することは、徐々に期待や信念を変え、ジェンダー平等な関係を築き、養育ケア、ECD、妊産婦の健康と幸福への男性の参加を支援する新しい肯定的な規範を作り出す鍵となる。

#### 参照グループとは何か

私たちが社会的規範やジェンダー規範に従って行動することを選ぶのは、他人の評価や、自身の行動や振る舞いが私たちにとって重要だからである。私たちは、自身のグループやコミュニティに溶け込み、受け入れられ、尊重されたいのだ。「参照グループ」とは、ある特定の行動や状況において、その意見が私たちにとって重要であり、それゆえに私たちの行動に影響を与える人で構成される。通常、家族(義理の両親や祖父母を含む)、隣人、コミュニティや宗教指導者などが含まれる。これらの人びとのなかには、規範や行動や習慣によって、他の人よりも重要で影響力のある人もいる。

#### 男性が育児の参画に影響を与えるアクターや要因の例



#### 社会的/構造的

- 男性の参加を促進または妨害する法律、政策、サービス規制
- 男性の関与を制限するジェンダー規範

#### コミュニティ

- 男性の育児参加に関する規範を共有し、期待される行動様式の模範となるコミュニティリーダーや影響力を持つ人びと
- サービスが男性を歓迎するか否かに影響を与えるサービス提供者(教育/保健)

#### 関係者

- 男性のパートナー、家族、友人で、養育世話人としての関わりを支持したり、阻止したりする可能性のある人たち

#### 個人的

- 父親/男性保護者である男性の、育児に関する知識、態度、技能、自信

# 育児、ECD、妊産婦のウェルビーイングへの男性の参画に関する結果の枠組み

## 男性の参加に向けたECDの包括的目標<sup>iii</sup>

1. 脆弱で排除された集団に属する8歳未満の女の子と男の子が、差別的なジェンダー規範や期待から解放され、生き延び、健やかに成長し、可能性を最大限に伸ばすために必要な養育ケア、支援、サービスを受ける。
2. 母親は栄養が十分で、心身ともに健康で、自身の人生、身体、家族について決定する権限を与えられていると感じている。



## 父親の成果レベルの変化

- |  |   |  |
|--|---|--|
| 1. 父親は、ジェンダー平等な方法で、パートナーの健康と幸福、そして幼い子どもの健全で総合的な発達を支援する自信、知識、スキルを高めている。 | 2. 父親は、ケア労働、育児責任、家庭の意思決定、女性と女の子の権利について、ジェンダー平等な態度と期待を有している。 | 3. 父親は、妻やパートナーと意思決定、無償ケア労働、育児責任を分担し、女性自身の幸福のために重要なサービスへのアクセスを支援する。 |
|--|---|--|



母親、その他の家族	コミュニティの宗教的/伝統的リーダー、コミュニティ・ボランティア、男性有力者	法律と政策立案者	公共サービス関係者、プロバイダー	メディア関係者
4. 母親や他の家族たちは、ケア労働、育児、意思決定についてジェンダー平等な態度と期待を持っており、育児ケアやECD、ケア労働、妊産婦の健康への男性の参加を支援している。	5. コミュニティリーダーは、ケア労働、育児、意思決定についてジェンダー平等な態度と期待を持ち、養育、ECD、ケア労働、妊産婦の健康について、男性の関与と責任分担を促進する。 6. コミュニティ・ボランティアは、地域に根ざしたECDの介入が男性の参加を可能にし、促進することを保証する。 7. 影響力のあるコミュニティの男性メンバーは、ケア労働と育児に関してジェンダー平等な態度と期待を持っており、新しい行動を積極的に取り入れ、他の男性がケアに従事するように指導したり支援したりする。	8. 法律・政策立案者は、ケア労働と子育ての男女間の責任分担を促進する法律、政策、プログラムを練り上げ、承認する。	9. 保健当局は、男性の参加を可能にし、支援するために、MNCHサービスが適応され、強化されるようにするための措置をとる。 10. 医療従事者は、男性の参加を可能にするジェンダーに配慮したMNCHサービスを提供する。 11. 教育当局は、幼児の学習・教育への男性の参加を増やすための措置を講じる。 12. ECD者は、父親が子どもの学習に参加できるように、またそれを支援できるように、乳幼児教育や就学前教育のサービスを調整する。	13. メディアの専門家は、男性の養育ケアやECD、ケア労働、妊産婦の健康への関与を促進するメディアコンテンツを制作する。

14. 男性の行動に影響を与えるジェンダー規範や、ケア労働、育児、家事の責任を分担する度合いに前向きな変化をもたらす。

<sup>iii</sup> これらは、プラン・インターナショナルのECD成果フレームワークからの引用である

## 男性の参加プログラムおよび影響力のための主な考慮事項と原則

以下は、ECD プログラムにおける男性の参加のために推奨される主な考慮事項と好事例の原則である。

- ジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチを用いる
- 「危害を加えない」という原則を守る
- 現地のニーズや文化に敏感である
- 「ポジティブな逸脱」、強さに基づくアプローチを用いる
- 男性の世話の多様性を認識するとともに、父親が存在する家族構造の多様性を認識する
- 女性の権利団体や運動に対する説明責任を果たす

### ジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチを用いる

男性の参加は自動的にジェンダー・トランスフォーマティブなものになる訳ではない。男性参加プログラムの中には、根本的なジェンダー規範や不平等を問うことなく、妊娠・出産時や幼児の世話において男性が母親に提供できる直接的な支援や、ECDや妊産婦の健康のための具体的な実践（食事や子どもとの遊びなど）を促進することに重点を置いているものもある<sup>40, 41</sup>。男性に育児をどのように手伝えるかを話し合うことは、男性が育児に参加するための良い出発点となり得るが、介入はそれだけで終わってはならない。というのも、男性が家事や育児に「形だけ」参加する場合、男性はケア労働への参加を女性への「好意」、あるいは単に「援助」するものとみなす可能性があるからである。このようなアプローチは、家庭内での決定権を持つ男性を対象にすることが多いが、実際にはジェンダー不平等を助長するような形で、女性や子どもの生活に対する男性の支配力を強めることになりかねない。家庭生活や福祉の「伝統的に」女性主導の分野に男性がより深く関わるようになり、意図せず家庭内での男性の意思決定力を強化してしまう危険性がある。ケア労働に対する考え方に真の変化を起こせず、それが依然として女性に与えられた地位の低い仕事とみなされることを意味する。



© Plan International Ecuador



加えて、このようなアプローチは、ジェンダー化された労働分配（無償ケア労働と育児を女性の独占的責任とする）と意思決定への女性の限定された自主性と参加の両方を支えるジェンダー規範を反省し、それに挑戦する機会を逃している。従って、こうしたジェンダー規範を支えている、「男性に比べて女性の価値が低い」という考え方に反省し、異議を唱える機会も逃している<sup>42</sup>。こうしたジェンダー規範や考え方に異議を唱えなければ、男性の家事責任への参加は増えても、力関係や家庭内の主要な意思決定者としての男性の役割には何の影響もない<sup>43</sup>。

男性の参加に対するジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチは、その代わりに、ジェンダー規範、関与、力関係に長期的で前向きな変化を促し、以下の結果を生み出す。

- 男性がパートナーや子どもとの関係を改善する
- パートナーや父親としての行動や役割を強化する
- ジェンダー平等を推進する上で、女性たちの味方になるよう彼らを動員する<sup>44</sup>

ジェンダーの役割や規範について男女の間に批判的な認識を促し、不平等な規範や行動に挑戦することを支援する。男女間の資源配分や役割分担に挑戦し、両者の力関係に取り組むことで、女性のエンパワーメントを支援する。

たとえ男性に対するアプローチがジェンダー・トランスフォーマティブであったとしても、それは、同じ介入（例：カップルを対象とした活動）の一部であれ、別のものであれ、女性に対する補完的で同期化されたジェンダー・トランスフォーマティブな活動が進行している場合にのみ着手されるべきである。女性を対象とした、または女性にアプローチしている現在のプログラムが変革的であると思わないことが重要である。多くの場合、子育てプログラムは情報を提供するだけであり、女性がジェンダーに関する態度や規範を振り返り、それに異議を唱える同じ機会を提供することはできない。

ジェンダー・トランスフォーマティブな男性の参加介入では、男性と女性は、**社会における男性であること、女性であることの意味を考え、積極的に問いかけ、不公平なジェンダー規範と力の不均衡に挑戦する安全な場**が提供される<sup>45</sup>。彼らは、無償ケア労働と子育ての不公平な分担の根底にあるジェンダー規範と信念（そして、子どもの発達と母親の健康と幸福の向上の障壁となるもの）を特定し、実践的な解決策を共に開発する機会を与えられる。この種のアプローチは、男女が厳格なジェンダー規範に従おうとすることが、いかに男性や周囲に害をもたらすか、また、男女がどのように振る舞い、「何をすべきか」というジェンダー規範や信念を変えることが、いかに子どもや母親、家族、そして男性自身に利益をもたらすかを考え、認識するのを助けることを目的としている。

ジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチの中で、男性参加構想と活動は、不平等なジェンダー規範を変革し、女性と女の子の主体性とエンパワーメントを支援するという、より広範な目的の中で実施されるべきである。男性の参加に焦点を当てる際には、平等に関する包括的な目的を見失わないことが重要である。

## 「危害を加えない」という原則を守る

男性の参加は、「いかなる個人または集団にも危害を加えない」という原則を守らなければならない。つまり、男性参加型の介入を計画する際には、潜在的なリスクや否定的な結果を特定し、それらを予防・管理するための対策を講じるべきである。複数の状況において確認された2つの主要なリスクは、以下のボックスに記載されている。



## 男性参加の潜在的リスク

ジェンダー規範にそぐわない行動をとる男性への制裁/処罰は、その妻やパートナーへの制裁/処罰となる。多くのコミュニティでは、ジェンダー規範によって、男性は子どもの世話や発育に関与したり、パートナーや家庭内の他の女性の健康や幸福に関与したりすることは期待されていないと考えられている。幼い子どもの世話や妻/パートナーのウェルビーイングへの関与を高めたプログラムに参加した男性は、恥ずかしいと感じたり、親戚や隣人などから積極的に辱められたり嘲笑されたりしたと報告している<sup>46</sup>。さらに、育児を分担する、ジェンダー規範に反した行動をとるパートナーを持つ女性は、「夫を支配している」、「魔女になって夫に魔法をかけたり毒を盛ったりしている」と非難されたりする。男性の関与の増加は、姑と嫁の間の嫉妬など、世代間の対立にさえつながっている。なぜなら、若い女性の母親としての経験やパートナーからの扱われ方は、姑の経験とは異なるからである。

**女性の自律性と意思決定力の低下** 多くの状況において、男性は、たとえ自身が保健サービスに同行しなくても、パートナーや子どもがいつ保健サービスを受けるかを既に決めている。男性がパートナーとともに保健サービスに参加することを促進する取り組みの中には、不注意にも、決定に対する責任は男性にあると考えたり、女性の同意がなくてもサービスに参加できると考えさせたりするものもある。パートナーと一緒にMNCHサービスに参加する女性は、パートナーが同席している場合、セックス、HIV、性感染症(STI)、家庭内暴力などのデリケートな問題について話しにくいと感じることもある。また、陽性となればパートナーから暴力を振るわれることを恐れて、HIVやSTIの検査を恐れている場合もある。さらに、保健サービスでは、パートナー同伴の女性を先に受診させる「first and fast」サービスが提供されているが、その結果、独身女性がサービスを利用することをためらったり、男性パートナーなしで受診した女性がANCサービスから実際に追い返されたりしている<sup>47</sup>。

最後に、多くのコミュニティで親密なパートナーからの暴力(IPV)の割合が高いことを忘れてはならない。パートナーから暴力を受けたり、虐待を受けたりする女性は、当然のことながら、自身の健康管理や子どもの世話に、パートナーがより深く関与することを望まないことが多い。

危害を加えないという原則に従って活動をするということ

- プログラムが男性個人(または小集団の男性)だけに焦点を当てたものでないこと。プログラムは彼らの家族、コミュニティ、影響力のあるリーダーたちに働きかけ、男性がECDに参加し、世話や子育ての責任を再分配するための肯定的なジェンダー規範を促進するためのさまざまな戦略を用いなければならない。
- ジェンダー平等、女性の権利、女性の主体性を促進するためのより広範な取り組みの中でのみ、男性参画の介入策を実施すること。男性との直接的な活動には、ジェンダー規範と役割に関する批判的な考察を含め、プロジェクト・サイクルのすべての段階において女性が積極的に参加し、意思決定を行うようにしなければならない。
- パートナーとともに男性をサービス(特に妊産婦保健サービス)に参加させるための措置は、女性の同意がある場合にのみ講じられるようにする。



本章の最後にワークシートがあり、潜在的なリスクと軽減策を特定するのに使える。

## 現地のニーズや文化への配慮

男女がパートナーや親としてどのように振る舞うかは、個人の道徳観や宗教的信条、子どもとして育てられた経験、コミュニティや文化のジェンダー規範に影響されることが多い。これらの要因は、パートナーや親としてどのように見られたいかにも影響する。父親と母親では、親になることへの期待も違えば、不安も違うし、自分自身が子どもの頃、母親や父親、その他の保護者からどのように養育されたかという経験も違う。

男性の関与への介入は以下の点を考慮すべきである。

- 育児、介護、妊産婦の健康に関する男性の役割と責任について、人びとが抱いている信念を深く理解すること、そしてその信念が人びとの知識や態度、ジェンダー規範からどのような影響を受けているかを理解すること。
- 各コミュニティにおいて、男性やパートナーとしてのあり方や男らしさの表現が多様であること、また、個々の男性が異なる文脈で異なる行動をとる可能性があることを認識した上で、設計すること。プログラムのデザインは、男性、女性、カップル関係、家族構造の多様性を認識するものでなければならない。
- 男女が不平等なジェンダー規範や期待について考え、それに挑戦し、自身のニーズや優先事項に応え、コミュニティのメンバー間で重要視され共有されている価値観に沿った、新しい規範や在り方、振る舞い方を見出すことを支援するように設計されていること。
- 「ジェンダー」用語や言葉をどのように使い、導入するのが最善であるかに敏感であること。



議論を「ジェンダー」に限定して始めることは、文脈によっては物議を醸すか、逆効果になることを認識することが重要である。この用語が不正確に使用されていたり、男女の問題ではなく女性だけの問題であると解釈されていたり、西洋人や部外者によって「押しつけられた」問題とみなされていたり、男性に対してのみ否定的な意味合いをもっていたりする場合は特にそうであるかもしれない。「ジェンダー」という用語は、時間の経過とともにその過程から現れるだろうが、その用語が現地の文脈の中で理解されるよう、焦点の明確な対話過程に基づいて、有機的に起こるのが最善である。

## 「ポジティブな逸脱」、強さに基づくアプローチを用いる

多くの男性は、当然のことながら、自身を「問題」として描き、その弱点や、社会集団としての権力や特権の不当な行使に焦点を当てるような活動には参加したがいらないだろう。介入は、男性が子どもを大切に思い、子どものために最善を尽くし、親として子どものために最善を尽くしたいと思っているという前提から始めなければならない。多くの場合、男性は既に実践している行動こそが、良い父親/パートナーであることを意味すると考えるだろう。なぜなら、良い父親であることに関する既存のジェンダー規範や期待に従っているからである。

育児と発育への男性の参加に焦点を当てた介入は、多くの男性が親としての男性をめぐる社会の否定的な認識を「鵜呑み」にしている可能性があることを認識する必要もある。男性は母親よりも、保護者としての自身の重要性を高く評価する傾向が弱く、養育的ケアを提供する自身の能力に自信を持っていないことが多い。そのため、父親であり保護者である男性のためのプログラムでは、男性の親としての価値と影響力を強化すること、男性自身が変われるようにケアとサポートを提供することに重点を置くこと、保護者になる自信をつけることに投資することが必要であろう。

一方、「積極的逸脱者」は、ほとんどすべてのコミュニティで見かけることができる。こうした人びとは、男として、父親としてあるべき姿についての有害でステレオタイプな概念を拒否し、同じ資源や条件を持つ他の男性よりも、よりジェンダー平等な父親/保護者、パートナーになれるような態度や行動をとる男性である。

例えば、すでに家庭内で妻やパートナーと意思決定や育児の責任を分担している男性である。このような男性は、男性の参加にとって特に重要な味方となりうるため、特定し、支援する必要がある。

以下のことが推奨される。

- 前向きな言葉を使い、家族に対する責任と男性の抱負に焦点を当てる。集団的な非難や集団的な罪悪感ではない。すべての男性を一般化することは避ける！
- 男性がどこから来て、すでにうまくやっていることから始める。肯定的な伝統的な父親のあり方を特定し、それを土台とする。自信をつけるように努力する。時間をかけて、徐々に差別的なジェンダーの態度や期待に挑戦し始める。
- 男性とともに、変化は難しいものであることを認識する。男性がどのように行動すべきかについて、ジェンダー規範や文化的な信念を批判するのではなく、それらを反省の出発点とする。子どもにとって何が最善かについて、男性自身が理解を深めるのを助ける。
- 男性が集まり、それぞれの役割、懸念、抱負について話し合い、互いに学び、支え合うことができる「安全な場」を提供する。男性たちがまだ若いうちに、そして父親になる前に、こうした機会を提供するのが理想的だ。
- 変化を起こすことができた男性を特定し、話を聞く。形成的調査では、このような男性を特定することができ、男性グループに参加してもらったり、グループのファシリテーターとして研修を受けたり、コミュニティ・キャンペーンや動員活動においてジェンダー平等の擁護者として関わってもらったりすることができる。ただし、「擁護者」の選定には注意が必要である。こうした人物を重用すると、かえってプロジェクトの理想を損なう恐れがあるからである。というのも、目的は、すべての男性が変わりたいと思うように支援すること、そして、彼らは変われると信じられるように自信をつけさせることだからである。

## 男性の世話の多様性を認識し、あらゆる形でサポートする

すべての男女が、男女カップルの中で親や保護者となっているわけではない。核家族であれ拡大家族であれ、ひとり親、養父母、非居住の父親、思春期の父親がいる家族であれ、異性愛者家族であれ同性愛者家族であれ、多様な家族構成のニーズを認識し、それに対応した行動をとらなければならない。また、無償ケア労働と子育ての責任を分担することは、必ずしもそれぞれの仕事を女性パートナーと等分に分担することを意味しないことも理解すべきである。それぞれの家庭やカップルによって、何が一番良いかは異なる。重要なのは、男性や家族が、愛する人とのより良い、より有意義なつながりを可能にする父親/世話の新しいあり方を再定義できるよう支援することである。

## 女性の権利団体や運動に対する説明責任の保証

ジェンダー・トランスフォーマティブで、幼児の親や保護者である男性を参加させるために活動している組織や個人は、女性運動や女性の権利の組織や活動家に対して説明責任を果たすような約束を示し、行動すべきである。MenEngage Allianceは、説明責任を「(女性の権利団体や他の社会正義運動と)対等に耳を傾け、相談し、提携し、男性や男の子を参加させる活動が社会正義とジェンダー平等に本当に貢献することを保証する責任」と定義している<sup>48</sup>。これには以下が含まれる。

- 男性との協働が女性のエンパワーメントと権利擁護に貢献することを保証すること
- 自らの権力と特権を批判的に認識し、建設的な批判を受け入れること
- 女性のリーダーシップを促進すること
- ジェンダー平等と人権の原則に反する個人や組織の慣行に対処するための行動をとること
- 女性の権利団体との体系的な協議とパートナーシップ



MenEngage Alliance 説明責任訓練ツールキットは、男性や男の子と共に活動する組織が、説明責任のある実践を促進し、その活動において説明責任の文化を育むことができる多くの方法を示している。男性の養育と ECD への参加を促進するという文脈では、以下のような内的・外的な実践が含まれる。

- 男性の参加アプローチの設計について、現地の女性の権利団体と協議または提携し、団体や個人が参加に対する報酬を受け、対等なパートナーと見なされるようにする。
- 男性の権力と特権を含むジェンダー規範と力関係について、スタッフ間の批判的な考察と対話を促進し、ジェンダー平等の原則に責任を持つ方法を話し合うこと。
- コミュニティ内の個々の男性との活動が真にジェンダー・トランスフォーマティブであり、特権と権力についての批判的な考察と対話も含まれるようにすること。
- 内外を問わず、女性のリーダーシップを育成し、男性に焦点を当てることで、プログラムにおける女性の役割やリーダーシップが損なわれないようにすること。

## 男性参加型の介入を計画する

### 状況をよく理解した上で、具体的な目標を定める

男性参加型の介入策を考案する前に、スタッフは、妊娠、子育て、男女関係、父性と母性について、女性や男性が語ることに耳を傾ける時間を取らなければならない。男性の行動に影響を与える要因をよく理解し、分析するために、形成的調査や参加型学習・行動法の利用を検討すべきである。

- さまざまなタイプの家族と関わること
- 子どもたちの成長に対する彼らの抱負と期待
- 男らしさ、父親であること、そして男性としての活動をめぐる、ジェンダー化された期待や信念
- 子どもや子育てに対する期待に影響を与える、コミュニティの価値観の共有
- ジェンダー規範が、ケア労働や育児に関する男女の役割に影響を与えるかどうか
- コミュニティの人びとの心に響くような言葉やメッセージ

さらに、詳細なプロジェクト設計、予算編成、実施計画を開始する前に、プログラム・スタッフは以下を検討すべきである。

- 当該社会と文化の中で、女性として、あるいは男性として育てられた個人的な経験、そしてそのことが自身の価値観や期待、ジェンダー平等に対する理解にどのような影響を与えたかについて、自ら紐解き、考える機会を持つこと。
- 内的なもの（Champions of Change など）、外的なもの（Program H や Promundo の P など）を問わず、男性/男の子の参加戦略に関する過去の経験と、そこから得られた結果や学びを検討すること。
- ECD における男性の参加の重要性について考える機会を自ら持ち、男性の参加がなぜ重要なのか、また、それぞれの状況においてそれがどのような意味を持つのかについて共通の理解を持つこと。
- 政策分析を行い、既存の保健、ECD、社会保護政策が、どのように男性の参加を促進し、また障害となっているかを評価し、取り組みのための潜在的な政策提言目標を特定すること。
- 仕事の目的と目標を共に定めること。



- ➔ どのような関与を促進し、個々の男性にどのような新しい行動を促したいのか
- ➔ 男性のECDへの参加を促進するためには、どのようなジェンダー規範を変える必要があるのか
- ➔ 男性のECDへの参加を促進するためには、どのようなジェンダー規範を変える必要があるのか

介入の内容( **主要なテーマ、メッセージ(および使用される文言)や活動**)は、常に現地の状況、対象者、共有されているコミュニティの価値観に合わせて調整することが不可欠である。このため、男性参加型の介入活動は、常にコミュニティの男女からの助言に基づき設計されなければならない。

### 男性が参加しやすくなるよう、スタッフは準備とサポートを受けるようにする

プログラム実施スタッフが十分な準備をし、サポートされ、これからの旅路のために力を与えられるようにすることが不可欠である。

- 介入コミュニティと接触するスタッフは、男性も女性も、父親として、またパートナーとして、今後推進される男性の新しいモデルを理解し、それを信じる必要がある。彼らの多くは父親であり母親であり、同じ規範の影響を受け、以前コミュニティで確認された「良い」母性や父性についての信念や期待と同じものを共有している可能性がある。
- プロジェクトが始まる前に、全員が一貫して同じメッセージを業務で推進できるよう、スタッフの内省と学習のプロセスをサポートする必要があるかもしれない。
- 最後に、男性の関与が限定的であることが、ジェンダー規範や、男性がどのように子育てをすべきかという期待を反映していることを確認した場合、チームは、ジェンダーや社会規範を変えるための戦略に関する研修を受ける必要があるかもしれない



© Plan International Cambodia

## 男性の参加活動が、女性とのジェンダー・トランスフォーマティブ活動を伴うものであり、取り組みに対する潜在的な抵抗に対応するものであることを確認する。

男性に対するジェンダー・トランスフォーマティブ活動は、女性に対するジェンダー・トランスフォーマティブ活動も補完的かつ同期的に実施されない限り、同じ介入の一部として(例:カップルへの働きかけ)、または別々に実施されるべきではない。

また、この**取り組みへの抵抗**が生じた場合、どのように対応するかを当初から計画しておくこと。すべての人が、ECDと妊産婦の健康への男性の参加を促進するというアイデアに賛同するわけではない。母親、家族、教師、学校管理者、保健ワーカー、コミュニティリーダーなどから抵抗があるかもしれない。父親であることや男らしさについて、男性が社会的に遵守するようになった規範と同じものが、パートナーや家族、コミュニティでも共有されていることが多いことを忘れないこと。以下を行うことを推奨する。

- コミュニティ、宗教、伝統、政府・地方公共団体など、地元の男女リーダーの支援を活動の初期段階から得ること。主要なリーダーを計画策定会議に招き、介入の全体的な目的と活動の構成要素を共有する。男性性、権力、ジェンダーにまつわる信念、期待、偏見を探る時間をとる。男性やそのパートナーへの介入と並行して、これらのリーダーを関与させ続ける。カップル関係における肯定的な変化の模範的事例を紹介する対話会を定期的に開催する。平和で健康的かつ生産的な社会を促進するために、こうしたさまざまなリーダーの願望を活用する。
- 男性参加型の介入策の設計段階から実施に至るまで、常に女性が参加するようにすること。男性が参加する取り組みを確実に支援するためだけでなく、プログラムがジェンダーステレオタイプを強化したり、女性やその子どもにリスクを生じさせたりしないようにするためである。
- 男性の参加は、妊産婦の健康や幼児のウェルビーイングと発育にとって重要で有益であること、また、男性の参加が彼らの家族や彼ら自身にプラスの影響を与える可能性があることについて、明確な証拠を伝えることに投資すること。**現地の状況や文化**において最も説得力があり、現地の母親と父親が子どもの発育、カップル関係、妊産婦の幸福のために抱く主な期待を反映したメッセージの短いリストを作成するのが最善である。メッセージングは常に、男性の参加と**ジェンダー平等**の両方を促進するものであることを確認し、広く使用する前に試行を行うこと。これについては、SBCCIに関する第7章を参照。
- 影響力があり、男性の参加を支援することも阻止することもできる祖父母や義理の両親を参加させること。彼らを支援プログラムや、男性の参加の重要性に関する啓発活動に参加させるべきである。

最後に、男性の ECD や妊産婦のウェルビーイングへの参画を促進するために、どのような戦略を採用し、どのように ECD のプログラミングや影響力の行使に統合していくかを定めること。男性の有意義な参加を阻むさまざまな障壁を認識し、複数の戦略に投資する必要があることを忘れないこと。これらは次のセクションで説明する。

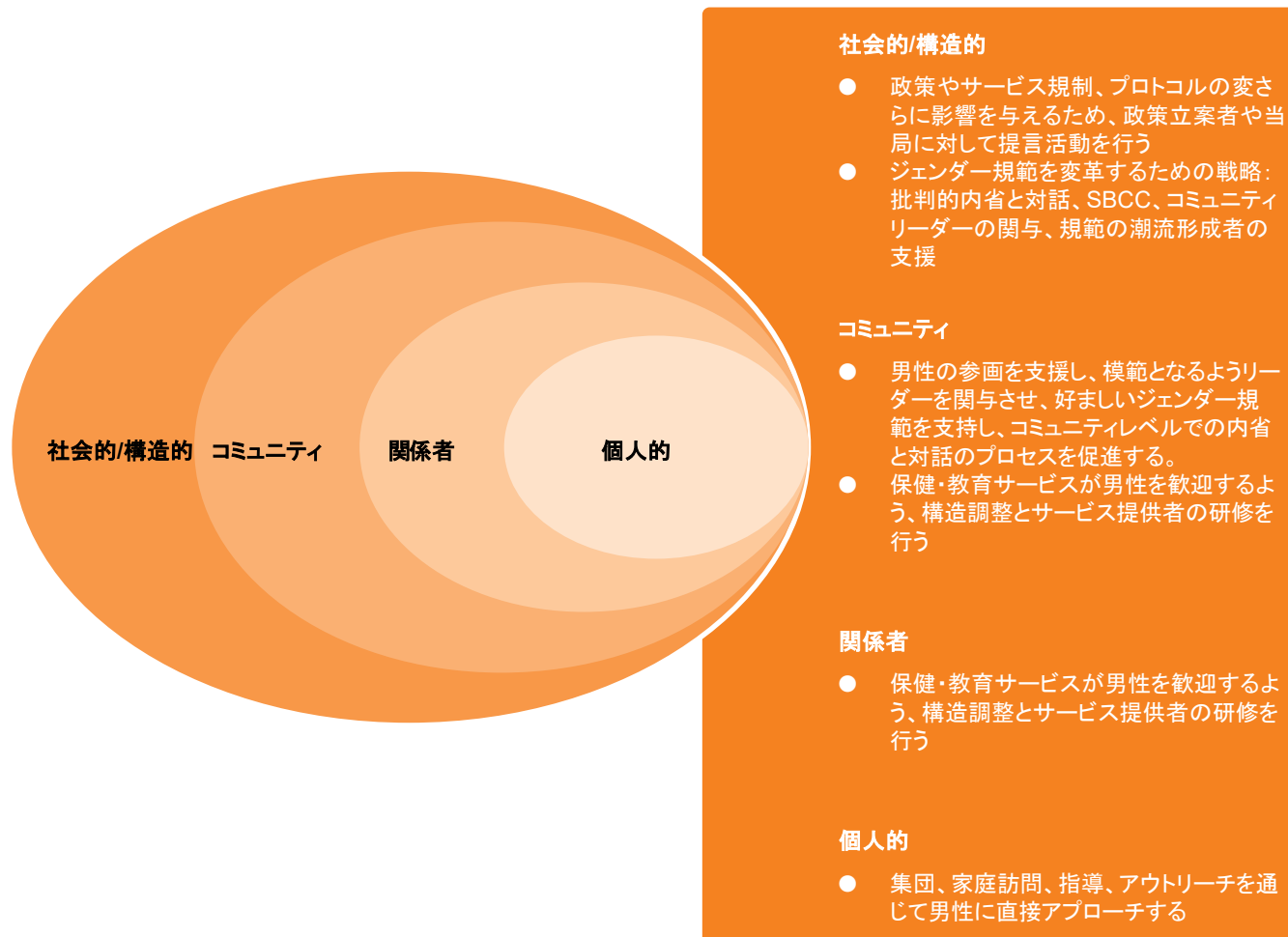
# 男性の関与を促進するための戦略

どのような戦略を優先させるかは、男性の行動や関わり方に影響を与える主な要因やアクターの分析、またECDプログラムが特定の目的(子育て、早期学習、MNCHなど)を持っているかどうかによって異なる。有効な戦略としては以下のとおりである。

1. 男性に対する相互学習、対話、批判的反省、スキル構築、支援。グループ教育アプローチ、家庭訪問などを通じて、男性に直接働きかける。[第2章参照](#)。
2. 男性の参加を可能にし、支援するために、保健・ECDサービスを強化すること。例えば、規範/規制の変更、サービス提供者の訓練、構造調整などを通じて。[第3章および第4章参照](#)。
3. コミュニティ住民と協力してコミュニティの対話と内省を支援し、コミュニティリーダーコミュニティリーダーや規範の「潮流形成者」を関与させること。[第5章参照](#)。
4. 男性の参加を促進する法律、政策、規制の強化のための政策提言。[第6章参照](#)。
5. 効果的なSBCC戦略とメッセージングの開発。[第7章参照](#)。

多くのコミュニティでは、ジェンダー規範の変化に影響を与え、男性の行動に影響を与える他の要因に取り組むために、戦略を組み合わせる必要があることを忘れないこと。可能な限り、異なるレベルで、異なるアクターとともに実施されるそれらの異なる戦略間のつながりを構築するよう努めるべきである。

**男性の行動に影響を与えるさまざまな要因に効果的に対処するには、いくつかのレベルでさまざまな戦略を用いる必要があるかもしれない**







## ワークシート: 潜在的リスクと軽減策の特定

このワークシートは、ECD プログラムにおける男性の参加に関連する潜在的なリスクを特定することを目的としている。特定された各リスクについて、リスクやその影響を軽減するために取ることでできる軽減策や行動を少なくとも一つ挙げていく。また、それぞれの軽減策をどの段階で実施する必要があるか(実施前、継続中、実施中 など)を特定することも可能である。

### 潜在的リスクの特定

潜在的リスク	リスクの内容	リスクレベル(低、中、高)	軽減策	実施スケジュール
1. 私たちのスタッフやパートナーのスタッフは、プログラムの目的を理解し、それに同意し、その実施をサポートする準備ができていないか。スタッフの準備不足によるリスクはないか				
2. 男性参加型の活動/プログラムの結果、女性の保健サービスへのアクセスにリスクが生じるか				
3. 男性の参加活動/プログラムが、女性の自主性や意思決定力を損なうようなリスクはあるか				
4. 男性参加プログラムに参加し、行動を変えた男性に対する「制裁」や反発のリスクはあるか				
5. パートナーが男性参加プログラムに参加し、行動を変えた女性への「制裁」や反発のリスクはあるか				
6. 男性の参加を支援し、自ら模範となり、支持するコミュニティのリーダーやメンバー、政策立案者等に対する「制裁」や反発のリスクはあるか				
7. プログラムの進行や実施に責任を負う、自組織やパートナー組織のスタッフに対する「制裁」や反発のリスクはないか				
8. 自身の状況、または他の状況において、(上記の特定されたリスクと)類似したリスクの事例を把握しており、そこから学ぶことができるか				





© Seth Chase Promundo Rwanda

## 第2章：男性に直接働きかけ、 ECDの養育ケアへの参加を促す

本章では、養育ケア、ECD、妊産婦の健康への父親や男性保護者の参加を促進するために用いることのできるさまざまなアプローチや戦略について説明する。この章では、集団、家庭訪問、メンタリング、その他男性の参画に関する議論や対話を生み出すことを目的としたアウトリーチ・アプローチを通して、男性（そして潜在的にはそのパートナーや家族）に直接働きかけることに焦点を当てている。

本章は以下のセクションで構成されている。

- 序論と一般的考察
- 男性グループまたは混合育児グループに対する具体的な考慮事項
- 「アウトリーチ」アプローチを通じて男性に非公式に接触する際の具体的な考慮事項
- 男性またはカップルの家庭訪問における具体的な考慮事項
- メンターシップのアプローチに関する具体的な考慮事項。

## 序論と一般的考察

多くの国で、男性のECDへの参加を促進するプラン・インターナショナルの活動は、グループ教育活動や家庭訪問を含む、より「伝統的な」子育てプログラムから始まった。多くの場合、従来は主に（あるいは専ら）女性を対象としていた。男性の参加促進活動は、女性と同じ活動に男性を招待することから始まった。時が経つにつれて、「夫/父親のための学校」、「父親クラブ」、「家庭訪問」など、男性に特化した活動が追加されてきた。しかし、状況によっては、男性グループへの男性の勧誘と維持が難しいこともある。同様に、日中に行われる家庭訪問を通じて男性に働きかけることも難しいかもしれない。男性にアプローチするためには、男性自身がどのような切り口が最適だと考えているかに基づいて、別の方法を用いる必要があるかもしれない。男性に個別にアプローチする方法、グループで活動する方法、これらを組み合わせた方法など、さまざまな方法がある。以下のようなものがある。

### 1) グループでの教育・支援活動

- 既存の育児・世話プログラムを「男性向け」にアレンジし、男性の育児セッションへの参加を促進する。
- 保健部門を通じて、男性（とそのパートナー）を対象としたグループ教育介入を実施する。例えば、妊産婦カップル・グループを立ち上げたり、ANCの訪問と並行して男性とカップル向けのセッションを開催したりする。
- 男性が参加する活動や、男性が関心を持ちそうな活動に、男性の参加に関するセッションを組み込む。例えば、収入創出活動やVSLグループのセッション、モスクでの金曜説教後のセッションなど。
- 職場環境における男性向けの集団教育（これは、仕事を求めてコミュニティから移住してきた父親には特に有効なアプローチとなる）や、技術・職業教育の取り組みの一環として実施する。

### 2) 他の空間や場所を活用し、より臨機応変に対話や議論を始める （男性グループと、または個人的に）

- 理髪師、タクシー運転手、喫茶店の店主、スポーツのコーチなど、他の男性と話すことができる男性に、男性が集う場所や空間で男性と会話を始める方法を訓練し、支援する。
- 宗教リーダーが、結婚前のカップルへのカウンセリングや説教の中で、男性の参加に関する議論やメッセージを盛り込めるよう支援する。

### 3) 家庭訪問を通じた男性個人へのアプローチ（例：コミュニティ・ヘルスワーカー（CHW）や児童発達促進員による家庭訪問の一環として）

### 4) メンターシップ・プログラムは、年配の男性が若い男性のメンターとして活動できるよう訓練・支援するものである（通常、個人または小グループで活動する）。

### 5) 父親になることを検討する前の若い男性との活動に、父親としての自覚を組み込む 例え ば、プラン・インターナショナルの「Champions of Change」モデルや Promundoの「Programme H」アプローチなど。

どのアプローチが最も理にかなっているかは、どのような男性にどれだけリーチしたいのか、そのような男性がすでにどの程度情報を持ち、意識しているのか、プロジェクトの踏み台として利用できるプラットフォームが既に存在するのか、ECDの父親として、またパートナーとしての参加を促進するために、どのような規範、期待、信念、行動に影響を与えたいのかによって異なる。

i 本章では、今後「母親/女性保護者」と「父親/男性保護者」という言い方の代わりに、「母親」と「父親」という用語を使用する。私たちの定義によれば、これらの用語はそれぞれ、あらゆる多様性を持つ女性と男性の主たる介護者を包含している。



万能のアプローチは存在しない。しかし、以下はすべてのアプローチに関連する推奨事項である。

## すべての男性にアプローチしたいのか、特定の男性にアプローチしたいのかを決める

「普遍的」なアプローチ(例えば、すでに幼児がいる、あるいは出産を控えている、コミュニティに住むすべての男性(またはカップル)に働きかける)か、**対象を絞ったアプローチ**(例えば、最も脆弱な家庭の男性、初めて父親になった男性、若い父親など、特定の男性グループに焦点を当てる)か、決定する必要がある。男性にMNCHや就学前サービスなどの主要なサービスに参加してもらうことを目的とする場合は、普遍的なアプローチを用いることを推奨する。これは、すべての父親/男性保護者が歓迎され、招かれていると感じることが望ましいからである。ターゲットを絞ったサービス提供は、一部の男性にしかアプローチできず、優先されるグループが汚名を着せられる可能性があり、男性の参加意欲を削ぐことになる。

どの男性と仕事をするにしても、以下のことが推奨される。

- 可能な限り、できるだけ早く、できれば子どもが生まれる前に、男性の参画を促進するよう協力する。父親が子どもと早くから絆を深め、関わることで、その関わりは通常長く続くからだ。(母親にとっても、心身の健康や幸福、母乳育児への支援など、重要な利点がある)
- コミュニティ内で影響力があり、尊敬され、良いモデルであり、早くから取り込み、他の人に影響を与える可能性のある男性を特定し、最初から参加させる。参加した男性たちの行動が目に見えて変わること、関与する父親であることに伴うコミュニティ内のスティグマがより早く軽減され、他の男性も積極的に行動を変えるようになるかもしれない。

## 一緒に仕事をする男性のことをよく理解していること

男性との活動には、子どものため、そして父親としての彼らのニーズ、懸念、願望を反映させる必要がある。始める前に、対象となる男性の現在の習慣、行動、関わり方、父親として自分自身や子どもへの期待、父親として直面している課題や障壁、父親やパートナーとしての役割について彼らが何を学びたいのかについて、よく理解しておくこと。

男性(とそのパートナー)にアプローチする戦略もまた、コミュニティ内でもコミュニティ間でも、男性や家族の多様性に対応できるように調整する必要がある。例えば、プラン・インターナショナルでは、一夫多妻制や早すぎる強制された結婚が一般的な慣習となっている多くのコミュニティで活動している。どちらも女性や女の子に対する男性の権力を維持する結婚慣行である。また、一夫多妻制の家庭では、一部の女性が他の女性よりも権力を持つ場合があることも注目に値する。このため、一夫多妻制の家庭の男女は、しばしば個別の介入や勧誘戦略を必要とする。例えば、男性とそのパートナー2人(またはそれ以上)と一緒に子育てグループに招待することが望ましいかもしれない。そのような場合、これらのパートナー間の権力と尊敬の共有という考えを促進することができる。このような結婚慣行が広まっている地域で働くファシリテーターは、このようなテーマに敏感にアプローチする準備も十分にしておかなければならない。男性が彼らの文化や伝統、特権が攻撃されていると感じれば、このような慣行やジェンダー平等への影響について話し合う際に反発に遭うかもしれない。

## 男性と一緒に働く人を選ぶ<sup>ii</sup>

男性と一緒に働く適切な人材を選ぶことが成功の鍵である。男性と直接仕事をするのに「ふさわしい」人物とは、状況によって異なるかもしれない。しかし、どのような状況においても、以下のような人物を見つける必要がある。

- 批判的でなく、男性の話に耳を傾け、やる気を起こさせることができる人であること
- 男性または男性グループの変容のプロセスを支援するために、喜んでエネルギーを投入する人であること
- 男性やグループメンバーとの間に信頼と尊敬を築くことができる人であること
- 男性に質問し、経験を共有し、異なる、時には相反する意見を表明することに十分な安心感を与えることができる人であること

状況によっては、CHWや地域の保健委員会、児童保護委員会のメンバー、地域のリーダーなどが、既に過重な負担を強いられていなければ、優れたファシリテーター/メンターとなりうる。プラン・インターナショナルを含め、さまざまな組織が、自らも父親であるコミュニティの男性との協力でも成功を収めている。このような男性は、十分な訓練と継続的な支援が与えられれば、優れた動員役となり、仲間にとって親近感の持てるロールモデルとなりうる。異なる状況の組織も、男女両方のファシリテーターと協力して成功を収めている。あなたの状況において何が最も効果的かを選択し、男性(またはカップル)自身が最も心地よいと思うことの提案に耳を傾けること。

ファシリテーター、メンター、家庭訪問者などを選ぶ際には、以下のことを推奨する。

- 尊敬され、かつ親近感のある人を選ぶこと。同じコミュニティや周辺地域の出身者であれば、より受け入れられやすく、離れたたり、脱落したりする可能性が低くなる(ただし、「部外者」の方が、新しい情報源として信頼できるとみなされる場合もある)。コミュニティ外から人を選ぶ場合は、地元の方言や言語を話すことができるようにする。
- 男性の積極的な参加や意見表明の意欲を脅かしたり制限したりするような権威ある立場の人、あるいは男性の行動を叱りつけるような人物を選ばないようにすること。

## 男性と直接働く人材の研修、動機付け、サポート、確保に十分な投資を行う

介入の質は、男性と共に活動する人びと(グループ・ファシリテーター、メンター、家庭訪問者)に提供される研修と継続的な支援の質と同等になる。これらの人びとは、ECD(そして関連する場合は妊産婦の健康)についての知識があることが理想的だが、専門家である必要はない。より重要なことは、ジェンダー平等と肯定的な男性性についての訓練を受けており、保護者に対応でき、成人教育の進行スキルを持っていること、つまり、内省、対話、参加者が自身の疑問と解決策を見出すことに焦点を当てた、動的でグループ中心のアプローチを促進できることである。必要に応じて、異なる専門家(助産師、栄養士、早期教育の専門家、医療従事者/CHW)を招き、特定のテーマについてより深く話し合うこともできる。

ii 変革ファシリテーターの担い手には、次のような資質があり、男性と協働する人を選ぶ際にも役立つだろう。1. 変革の担い手: ジェンダー規範に挑戦することで定評があり、ジェンダー平等に対する自らの姿勢を継続的に強化する意欲のある人、2. ジェンダーへの意識: ジェンダー不平等の原因と結果について深く理解し、ジェンダー平等に対する信念を持っている人、3. リーダー: 女の子/男の子と、またその仲間や保護者と積極的にコミュニケーションをとることができ、リラックスして自信に満ちた態度をとることができる人、4. 親しみやすい人: 女の子/男の子と心を通わせることができ、彼らはその人となら心を通わせることができると感じることで、女の子/男の子が好きなおことや経験していることに通じている人、5. 前向きなロールモデル: 理想的には女の子/男の子に適応してもらいたいことを体現している人、6. 信頼性: 擁護者チームの審査を受け、プラン・インターナショナルの子どものセーフガーディングに関する研修を受け、参加者と誠実でオープンなコミュニケーションをとることができる人、7. 楽しさ: エネルギーに満ち、魅力的で、好奇心が強く、そのプロセスや使命に情熱を持っている!



男性と共に働くさまざまな人びとを訓練するために、私たちは以下を推奨する。

- 研修は複数回行い、ファシリテーターが自分自身のジェンダーの態度や行動を振り返り、自分自身の認識や実践を変容させ、介入内容を習得する機会を持てるよう、十分な期間を確保すること。また、最初のグループを実施する前に、ファシリテーターとそのパートナー自身がグループ介入に参加する機会を設けるとよいであろう。「持っていないものを与えることはできない」という論理に従うこと<sup>49</sup>。
- 定期的な再研修を実施すること（再研修は、プログラムを軌道に乗せるために問題を特定し、解決策を実施する重要なモニタリングの機会にもなり得る）。
- ファシリテーターが男性（またはカップル）と接する最初のうちは、より直接的なサポートや同伴を行い、その後は彼らに任せて活動させるようにすること。また、新人ファシリテーターと経験豊富なファシリテーターをペアにして、彼らが活動を開始した当初に指導できるようにすること。
- 脱落者/離脱者のための計画を立てておくこと。ファシリテーターは、時間の経過とともに介入から離れたり、脱落したりする可能性がある。脱落の要因となる可能性のある要因を特定し、ファシリテーターの選定と研修中に検討し、実施中に再評価する必要がある。また、選抜されたグループ参加者がファシリテーターとして卒業し、既存のファシリテーターに代わって、または既存のファシリテーターの仕事量を軽減するような、段階的または連鎖的な体制も検討するとよい。

このような人たちは、定期的に男性（場合によっては女性とも）と接し、助言を与え、時には大変な話を聞くことになることを忘れないこと。これは困難で、疲弊し、精神的に消耗する。適切なサポートがなければ、こうした人材を長期的に維持し、意欲を高めることは難しくなる。この点については、以下の戦略が役に立つだろう。

- 個人の既存の仕事量と、実施可能なグループ/セッション/家庭訪問などの数を考慮すること。ファシリテーターに金銭的なインセンティブや補助金がない場合、週1グループ/セッションしか実施できないかもしれない。
- ファシリテーター、家庭訪問者、メンターには、グループの数が多すぎたり、移動が多かったり、事務作業が多かったりして、負担をかけすぎないようにすること。介入の準備、実施、モニタリングに費やす時間を計算し、配慮すること。特定の作業に時間がかかりすぎる場合は、プログラムと事務手続きを簡素化するよう、彼らと協力すること。



- 介入を成功させるために必要な資材が提供され、入手に苦労しないようにすること。環境によっては、レインブーツ、傘、フラッシュライトなど、自明でなかったり入手できなかったりするものも含まれる。
- 月1回または四半期に1回、報告会を開き、良い経験も悪い経験も一緒に話し合い、共通の問題に対する解決策を練り上げるよう助け合うこと。
- 互いのメンターシップの機会を促進し、より強力な共同ファシリテーターと組み合わせることで、苦戦している人をサポートすること。
- 心理社会的支援を必要とするファシリテーター/家庭訪問者/メンターが心理社会的支援を受けられるようにし、すべての人にセルフケアの重要性を教育し、再認識させること。
- 長続きと定着に報いること。例えば、賞状の授与、Tシャツやその他の品の贈呈、ファシリテーターやその家族、コミュニティとの祝賀会の開催など。
- 現場を観察し、対話の促進、グループ教育のためのマニュアルの使用、ジェンダーに無関係に誰もが参加できるようにするために直面する可能性のある課題を特定すること。この観察の後、彼らが実践を変えるのを実現するために、どのような支援ができるかを話し合う。



「Prevention Collaborative's Practice Brief: Training and Mentoring Community Facilitators to Lead Critical Reflection Groups for Preventing Violence Against Women (予防共同体の実践概要 女性に対する暴力を防止するための批判的反省グループを指導するコミュニティ・ファシリテーターの養成と指導)」は、コミュニティ・ファシリテーターの採用、訓練、指導、支援に関する推奨事項を示している。この概要は、特に女性に対する暴力のプログラミングのために作成されたものであるが、この活動がジェンダーの力関係やジェンダー規範についての考察も含むことから、推奨事項のほとんどは同様に関連するものである<sup>50</sup>。

### 少なくとも1人の他の人と、話し合った内容について話すよう、あなたと直接接触した男性に勧める

男性が、友人、パートナー、家族など、身近な人たちと、学んだことや話し合ったことを、彼らにとって意味を成し、彼らの現実を反映するような言葉や例を用いて共有することは、プロジェクトによって直接的にアプローチされることはなくても、その人たちの考えや期待にも影響を与える可能性がある。「組織化された拡散」と呼ばれるこの過程によって、より多くの人びとへのアプローチを拡大し、より大きな規模で成果を達成できる可能性がある<sup>51</sup>。

## 男性グループまたは混合育児グループに対する具体的な考慮事項

### なぜ男性グループなのか

- 男性(とそのパートナー)のためのグループは、男性が父親、保護者、パートナーになることを支援するリソースである。このような介入は、男性が妊娠の段階、医療を受けることの重要性、幼児がその可能性を最大限に伸ばすために必要なケア、支援、サービス、パートナーや子どもとの愛情ある関係を育み、重要な支援を提供する方法などについて学び、理解するのに役立つ。
- グループは、貴重な相互支援も提供できる。グループの中で他の男性が自らの態度や行動を変えていることを知れば、自身も変わりたいと思うようになるかもしれないし、変わったときに周囲から嘲笑や否定的な反応を受ける心配も減るだろう。
- 従って、グループは、集団的な変化を触媒し、凝り固まったジェンダー的な態度や規範を振り返り、それに挑戦するための重要な手段となりうる。

## 男性グループに誰を招くかを定める

- 集団教育的介入は、初めての父親、父親になる予定の者、経験豊富な父親を対象とすることができ、カップル、男女別々、あるいは男性のみを対象として実施することができる。
- 変化に対して公然と抵抗を示す男性を、最初からグループに招くかどうかは、慎重に検討する必要がある。彼らは、定期的に参加したり、建設的に参加したりする可能性が低い。また、セッションを妨害したり、変化に前向きな男性を軽蔑したり、意欲を削いだりする可能性もある。場合によっては、グループとファシリテーターの安全を脅かす危険さもある。彼らを参加させるのは、後の段階にするか、別の介入を行うのが最善かもしれない。
- また、参加者間の類似点や相違点が、積極的な活動を促進したり、反対に阻害することも考慮したい。例えば、ある状況では、若い男性が年配の男性の前で話すことは社会的に受け入れられないかもしれない。また、ある状況では、年配の経験豊かな父親が、若い父親やこれから出産を控える父親に助言を与えることで、グループにとってプラスになることもある。同様に、親類の男性が同じグループにいることが不利な場合もあれば、支援ネットワークを促進するのに有益な場合もある。個人の背景や生活習慣によって、その人が特別視されたり、孤立したり、仲間はずれにされたりする状況は避けるべきである。しかし、それが特定の個人を介入から完全に排除する理由にはならない！

## 対象男性のニーズや優先事項に合わせてグループ介入を調整する

対象グループを特定したら、彼ら自身に、いつ、どのようなプログラムを利用したいかを尋ねるべきである。彼らからのフィードバックに基づき、介入を魅力的で、意義深く、受け入れられやすく、実現可能で、それゆえに利用される可能性が高いものは何かを特定する必要がある。例えば、以下のことが挙げられる。

- 現実的な問題：男性が通常参加できる曜日や時間帯、雨季や乾季は男性の参加に影響するか、便利な場所はどこか、介入に参加するのは誰か（男性だけか、男性と女性か）、男女どちらかのファシリテーターを希望するか（またはその組み合わせ）。
- 内容：男性は何を議論することに興味があるのか。父親やパートナーとしての役割について、男性は何を学びたいのか。セッションの時間はどれくらいにすべきか？（すべての育児介入と同様、通常は2時間が上限とされる。平均して1時間のセッションを計画するのがよいかもかもしれないが、これは地域の状況や対象者によってかなり異なる）。
- 男性が集まる既存のグループや空間（集会や説教後のモスクなど）はあるか、またそのようなグループや空間を利用して、ECDや男性の参加に関する議論を行うことは可能か。

## 男性だけか、それとも男女か



ジェンダーの価値観や役割、人間関係の変化を、男性だけ、あるいは女性だけで促進することは可能である。しかし、ジェンダーは関係性であり、ジェンダー平等は一方のジェンダーだけで進めることはできない。カップル関係、そしてそこでの力関係は、母親の幸福、カップルの子どもの幸福と発育に影響を与える。女性も男性もジェンダー規範を永続させているのであり、ジェンダー規範を変容させるためには、男女共に変わる必要がある。このような理由から、Promundoとプラン・インターナショナルは、グループ教育のセッションにジェンダーを同期させることを推奨している。つまり、男女別のセッションもあるが、男女が一緒に集まるセッションも必要だということだ。



- 「同性」セッションは、男性や女性が異性の前では話しにくいデリケートな問題について話し合う機会を提供する。男女が他の男性や他の女性と連帯ネットワークを築いたり、ピアサポートを受けたりする機会にもなる。また、少なくともジェンダー化された規範や行動を理解し、内省し始めるまでは、多くの文脈において、男性が混合グループでの話し合いを支配してしまうという事実にも対処する。
- 合同セッションは、男女が現在のジェンダー的役割と力関係、それを支えるジェンダー規範、そしてこうしたジェンダー的役割、規範、力関係が子どもや女性、そして男性自身に及ぼす否定的な影響について一緒に考える機会を提供する。慎重に進められれば、男女がこのような規範や役割に異議を唱え始め、どのように変えていくかを考える場を提供することができる。男女と一緒にコミュニケーションや意思決定、目標設定に取り組む場にもなる。また、多くのコミュニティでは稀なことだが、男性が女性の声に耳を傾ける機会にもなる。

## 網羅したい内容を特定する

教育セッションで取り上げたい主な内容は、男性参加活動の目的と重点によって、また、上述したように男性自身の優先事項によって異なる。

- 妊産婦の健康への男性の関与、ANCの受診や出産準備への男性の関与に重点を置くのであれば、合併症の兆候を見極め、出産計画や母乳育児を支援し、パートナーが分娩に技能を持つ人の立ち会いを受けるために必要な情報を提供すべきである。
- ECDにおける男性の関与を重視するのであれば、おそらく以下のような内容を含めるとなお良い。
  - ➔ 子どもがどのように発達し、学んでいくのか、彼らがその可能性を最大限に伸ばすためには、どのような養育、保護、サービスが必要なのか、そして父親である男性は、子どもの健全な発達と幸福をどのように支援することができるのかについてのセッション。
  - ➔ 男性が育児や発達に関与することがなぜ重要なのか、男性の育児の仕方を形成しているものは何か、父親から受けた男性自身の経験などを取り上げるセッション。
  - ➔ 幼児期に子どもはどのようにジェンダー化された規範や態度に社会化されるのか、また、人生において重要な大人たちから異なる扱いを受けた場合に、女の子と男の子の人生過程や可能性がどのように影響されるのかについて、議論と考察を行う。

プロジェクトの焦点に拘らず、以下のことを推奨する。

- グループ教育セッションは、**カップルコミュニケーション**、**カップル関係**、**共同子育て<sup>iii</sup>**に関する内省と対話を支援するものであるべきである。理想的には、ファシリテーターは、参加者が、その文脈における良好でつながりのあるカップル関係とは何か、既存の関係に対する満足度、カップルコミュニケーションと問題解決、共同子育てを強化するためとカップルの対立を減らすための戦略について内省するのを支援するよう備えておくべきである。

<sup>iii</sup> 高所得国の研究では、産後1年間は大多数のカップルにとって困難な時期であり、カップル関係の満足度は3組に1組のカップルで著しく低下することが確認されている(Cowan, C.P., and Cowan, P.A. (2000). *When Partners Become Parents*. Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum Assoc.). 他の研究によると、男性は子どもを持つことが母親との関係に与える影響を心配している場合がある。具体的な疑問(たとえば、性的関係をいつ再開するのが適切か)を持つこともある。母親が子どもとの絆を深め、子どもに専念することで、彼らとの時間が減り、取り残されたと感じるかもしれない。他の研究結果から、カップルの問題やカップル関係を強化する方法について話し合う機会を提供することが、長年にわたる子育て介入の有効性にとって重要であることが示唆されている。Cowans 夫妻の研究によると、カップル関係に焦点を当てたセッションのみを提供したプログラムでも、子どもの成長という点ではプラスの結果が得られた。ブラジルで行われた別の研究では、子育て教育の長期的な効果は、特定の実践よりもむしろ一般的な家庭環境の改善によってもたらされることがわかった。これらの知見にもかかわらず、妊産婦教育が共同子育てやジェンダー役割、カップル関係の問題を取り上げることは稀であり、ECDの子育てグループにも必ずしも含まれていない。McAllister et al. (2012) *Fatherhood: Parenting Programmes and Policy - A Critical Review of Best Practice*. London/Washington D.C.: Fatherhood Institute/Promundo/MenCare. を参照。



- 家庭内での役割と労働の分配、家庭内暴力の影響、ジェンダー平等関係の重要性、母親の幸福、母親のうつ病などを考慮しながら、父親が母親にどのように实际的・精神的支援を提供できるかを具体的に検討すべきである。
- 参加者が互いに学び合い、公平で暴力的でない、父親やパートナーになるために積極的に前進している男性から話を聞く機会を作ること。グループ教育のセッション自体に、(形成的調査の段階で明らかになった)共通の課題に直面している家族の話を取り入れる。
- 彼らのニーズに応え、彼らの共感を得やすい内容を盛り込み、これを入りに男性の参加について話し合う。例えば、家計や経済的な安定は、親としての男女の関心事であることが多い<sup>iv</sup>が、ECD や妊産婦の健康プログラムでは必ずしも取り上げられていない。子どもへの投資と意思決定の共有に重点を置いた家計の発展に関するセッションを組み込むことを検討する。
- 男性が実践的な活動を好む可能性があることを、子どもの発達支援に参加してもらうための入り口として利用する。例えば、プラン・インターナショナルが活動している多くの国では、父親が(母親と一緒に)おもちゃ作りや遊び場づくりなどの活動に積極的に参加しており、これは、年齢に合ったさまざまなおもちゃを使って遊びを刺激することの重要性など、子どもの発達に関する新しい知識を男性が活用するための実践的な方法であることが証明されている。しかし、こうした介入策では、遊びだけでなく、子どもの世話に男性が参加することの重要性を強調することが重要である。
- セッションの最後には、男性(個人またはグループ)が、その日に話し合ったことを、次のセッションまでの期間にどのように実践するかについて合意する。



iv 子どもを持つことは、カップルの関係や家庭にかなりの負担をかけるかもしれない。ライフサイクル分析では、一般的に、子どもが人生の最も若い時期に、家計は最も貧しくなる

© Seth Chase Promundo Rwanda



プログラムの内容によらず、ファシリテーターが対話、体験学習、能動的学習、実践、内省に重点を置き、「専門家」として他者に教えるのではなく、互いに学び合うという成人教育的アプローチを用いることが不可欠である。

父親向け、あるいはカップルや親子向けのセッションを含む新しいマニュアルの作成に投資する前に、まず、最初の状況評価に基づいて、一緒に活動する予定のコミュニティの男性(および女性)に対する一般的かつ具体的な学習目標を明確にすることを推奨する。次に、すでに開発されているマニュアルやリソースに目を通し、可能な限りそれらを適応させて使用することを推奨する。活用できる可能性のある既存のリソースのリストは、以下のボックスに含まれている。

これらを適応させるには、以下を考慮すべきである。

- ▶ あなたの適応が、原本の原則や中核的価値観と一致していること。
- ▶ コミュニティに共鳴し、コミュニティの優先事項や価値観と可能な限り一致するような文言やメッセージを使用すること。
- ▶ セッションは、ファシリテーターが「正しい」情報を参加者に「伝える」のではなく、能動的な学習アプローチを支援するようにする。例えば、グループで話し合えるような質問を取り入れたり、さまざまな練習や行動を取り入れたりすることで、これを行うことができる。
- ▶ ジェンダーの規範、役割、ステレオタイプに関する考察が、さまざまなセッションに組み込まれるようにする(下記参照)。
- ▶ カリキュラムの内容や活動が、参加者とファシリテーター両方の識字レベルに適合していること。識字率の低い人向けにアレンジしたものを作成する必要があるかもしれない。
- ▶ 教材を広く使用する前に、試験的に検証し、改訂するための資金を確保しておくこと。

## セッションのトピックとガイド

以下にいくつかのマニュアルを挙げる。そのほとんどは、10～20セッションのプログラムを説明したもので、各セッションの学習目標、使用できる手法、必要な資源などが明確に示されている。その多くには、子どもの発達、子どもの権利、妊産婦の健康関連の一般的なセッションとともに、以下のトピックが中心的な内容として含まれている:

- 父親としての役割に対する男性の期待、父親としての社会的期待(そして現代社会で父親として活動することの難しさ)
- 男性自身が父親から受け継いだもの、そして父親が果たした役割に対する彼らの感情や認識
- 妊娠、出産、家族計画、養育ケア、ECDに男性の参加が重要な理由 - 男性が果たしうる役割と、男性の積極的な参加がもたらす影響
- 世話の責任分担、共同養育の重要性、養育ケア、無償ケア労働、家事の意思決定の責任を分担すること
- IPVの影響と非暴力による対立解決の重要性
- 薬物乱用

Plan Canada/Promundo (2017) [Fathers Club Manual: engaging men in M NCH and SRH](#). このマニュアルは、カナダ政府の資金援助を受けて2016年から現在まで実施されている多国間の女性と子どもの健康成果の強化(SHOW)プログラムのために作成されたもので、以下の6つのテーマについて、1時間以内で実施できる19の実践例が含まれている: 無償無償ケア労働の格差、男性、ジェンダーと権力、妊娠、出産とその後、人間関係、将来の計画。このマニュアルは[英語](#)でオンラインで入手できる。

REDMAS/Promundo/EME [Program P: A Manual for Engaging Men in Fatherhood, Caregiving and Maternal and Child Health](#). この重要な資料のセクション2には、1回約2時間の11セッションの男性グループ向けプログラムのファシリテーター・ガイドが掲載されている。R

RWAMRECとMenCareの[Facilitator's Manual: Engaging men as Fathers in Gender Equality, Maternal and Child Health, Caregiving and Violence Prevention](#). RWAMRECとPromundoによって作成されたこの手引書は、ルワンダの状況に合わせたプログラムPをアレンジした15セッションのプログラム(合計45時間の介入)について説明したもので、子育て、妊娠、世話、暴力、家族計画について考える新しいカップルやこれから出産を控えているカップルを支援するために考案されたものである。セッションの中には、男性のみを対象としたものもあれば、カップルを対象としたものもある。この介入の実施は[無作為化比較試験](#)で評価され、女性のANC出席と男性の同伴意欲、カップルの近代的避妊具の使用、IPV、子どもへの暴力、家庭の意思決定に重要な影響があることが示された。

[プログラムH](#): 15歳～24歳のユースがジェンダーについて批判的な考察を行い、より力づけられた公平な方法で行動するためのスキルを身につけるのを助けるために開発された。プログラムHのマニュアルには、ジェンダー、セクシュアリティ、生殖に関する健康、暴力防止、心の健康などに関する約70のグループワーク活動が含まれている。5つのモジュールのうち、1つは特に父親業と世話に焦点を当てている。

MenCareのパートナーによってさまざまな状況や言語に適応されたその他のリソースは、MenCare Globalのウェブサイト([www.men-care.org](http://www.men-care.org))で参照のこと

## 男性グループセッションの一環としてジェンダーについて話し合う

ジェンダーの役割、規範、または平等についての話し合いは、複数の理由から、グループ教育介入における単一の「ジェンダー」セッションやそのブロックに限定されるべきではない。

- ジェンダーの規範と関係は、男女の日常生活のあらゆる側面、特にケア労働、幼い子どもの養育、妊産婦の健康に関する役割に存在し、影響を与えている。従って、ジェンダーの期待、役割、関係性についての考察を各セッションに組み込むべきである。
- 男性がジェンダー平等を促進するための明らかな努力に疑念を抱くのは、女性が権利を得る（あるいは力を得る）と、男性が損をすると考えるからである<sup>52</sup>。セッションが「ジェンダー」に関するものであるとラベル付けされると、男性は参加に消極的になったり、守勢に回ったりすることがある。
- 最初のセッションから、社会における男女の役割や立場についての議論を慎重に組み込むことで、むしろ、介入が進むにつれて、男性（および女性）がジェンダー平等についてのより直接的な議論やジェンダー規範を振り返ることに心を開き、受容的になるような土台を作ることができる。

ジェンダーが議論される方法も重要である。状況によっては、ジェンダーやジェンダー平等のような用語を使わず（上述した理由により）、代わりに地元で理解され受け入れられている用語を使うことが重要かもしれない。どのような状況においても、男性を非難したり、男性の特権だけに焦点を当てるのではなく、ジェンダー不平等や特定のジェンダー規範が、女性や男性、子どもや家族全体にどのような悪影響を与えているのかについて、最初から内省を促すことを目指すこと。また、より複雑なテーマ（例えば、カップル関係や家庭内暴力など）に進む前に、グループ内の自信と信頼を築くために、あまり慎重さを要しないテーマ（例えば、育児実践など）のセッションから始めるとよい。常に次のことに焦点をあてること。

- ➔ ジェンダー平等は、皆にどのような利益をもたらすか（より良い人間関係、より幸せな子どもなど）
- ➔ 男性が望んでいる変化と、彼らの願望について
- ➔ 男性が世話人やパートナーになることで得られる喜びや楽しみについて
- ➔ 社会的な期待よりも家族や人間関係を大切にする男性を励まし、称えることについて
- ➔ 少なくとも当初は、より簡単でスティグマになりにくい行動の変化を促進することについて

## グループの規模、セッション数、ファシリテーターの数などを適正な規模にすること

グループ教育活動は、全員が積極的に参加できるよう、およそ10～15人の小グループにすることを推奨する。カップルのためのセッションを計画した場合、そのセッション中はグループが2倍になることを忘れてはいけない。理想的には、1人か2人のファシリテーターが、10～15人の男性（適切な場合はそのパートナーも含む）の小グループを担当する。グループの人数が多くなると、ファシリテーターのスキルと経験によっては、2人以上のファシリテーターが必要になることもある。多くの場面で、男性は、話を聞き、同時に模範となる男性のファシリテーターとの対話が望ましい。男性（または女性）の話し合いへの積極的な参加を制限しないと考えるのであれば、グループに対して尊重し公平なジェンダー関係の見本となることができる男性と女性のファシリテーターを一緒に使うことを検討すること<sup>53</sup>。



集団教育プログラムは、提供されるセッションの数だけでなく、各セッションの長さもさまざまである。「適量」(セッションの数と長さ)についての推奨は、ある程度、文脈に固有である可能性がある<sup>v</sup>。

- ➡ Promundoは、内容にもよるが、1時間半から2時間のセッションを少なくとも10回から15回行うことを推奨している。一般的には、参加者の注意力、都合、仕事や家事の責任を考慮し、また、セッションによっては非常に感情的で「重い」ものになることもあるため、セッションの長さは2時間を超えないようにする。
- ➡ Promundoはまた、**週1回のセッション**を推奨している(特に介入開始時)。それは、参加者がグループ内で議論されたトピックについて考え、日常生活に適用し、その後グループに戻って対話を続ける時間を確保するためである。また、男性は週1回のセッションの間に、パートナーとトピックについて話し合う時間を持つことができる(男性のみ、または男女別のセッションを実施する場合)。これらすべてが、好ましい結果を生む可能性を高める。
- ➡ セッションの頻度は、週1回から2週間に1回、最終的には月1回と、時間をかけて徐々に減らしていくことができる。プログラムの終わりに向けてセッションを徐々に減らしていくことで、グループメンバーの間に継続性と支援の意識が芽生え、参加者が期待、信念、行動に前向きな変化をもたらし、それを持続させることができる。

## 安全で学びを支援するグループを作る

「安全な空間」を作ることは、ジェンダー・トランスフォーマティブ・グループ教育を成功させる鍵であり、同性グループ内でも、また男女間でも、オープンで正直な対話を可能にする。一般的に、安全な空間とは、生物学的性別、人種/民族、性的指向、性自認や性表現、文化的背景、宗教的所属、年齢、身体的・精神的能力などを理由に、不快に感じたり、歓迎されないと感じたり、危険だと感じたりすることなく、グループのメンバー全員が自分自身を十分に表現できる場所のことである<sup>54</sup>。ファシリテーターは、最初のセッションから直ちに、このような「安全な空間」の創設に重要な役割を果たす。

ファシリテーターは、以下の方法で、安全な空間を作り出すことができる。

- グループの各メンバーを知り、名前を呼んで歓迎すること
- 参加者が自ら問題を発見し、解決策を見出すことができるよう、参加者同士の対話を促進するスキルを持つこと。ファシリテーターは教えたり説教したりしない!
- グループとともに基本的ルールを策定し、それを尊重しながら実施すること
- 参加者に感謝し、積極的に認めることによって、参加者の貢献を認めること
- グループ内で生じたジェンダーに関する不公平な見方やステレオタイプに敏感に対抗すること
- 各セッションの終わりに、そのセッションが参加者のニーズによりよく応えるにはどうしたらよいか、フィードバックを求め、既存のプログラムの制約の範囲内で妥当な修正を行うこと

## 男性グループへの男性およびそのパートナーの勧誘

保護者グループへの男性の勧誘は難しいことで知られており、確立されたプログラムであっても、参加者の3分の1以下であることが多い。グループ教育セッションにどのように男性を勧誘するかは、介入策によって大きく異なる。保健セクターを通じて実施するのか、コミュニティで実施するのか、既存の男性グループ(スポーツクラブや宗教クラブなど)で実施するのか、あるいは既存の介入策(例えばECDのための子育てプログラムや村の貯蓄貸付(VSL)グループなど)を通じて実施するのか。また、男性だけに働きかけるのか、男性とそのパートナーに働きかけるのかによっても異なる。

<sup>v</sup> 例えば、ある研究では、持続的な態度と行動の変化を達成するために、グループ教育の最も効果的な「量」は、週に2時間から2時間半のセッションを10週間から16週間続けることであることがわかった。他の研究では、わずか2~6回のセッションで態度を変える効果があることが示されている。Barker, G., Ricardo, C. and Nascimento, M. (2007). *Engaging Men and Boys in Changing Gender-based Inequity in Health: Evidence from Programme Interventions*. Geneva: World Health Organizationを参照のこと。

一般的に、男性に参加を呼びかける際には、変化に対する男性自身の関心を引き出し、言葉遣いに注意することが重要である(例えば、ジェンダー用語の使用については、上述のポイントを参照のこと)。男性を勧誘するスタッフは、グループセッションが「健全な家族と子ども」「平和な家庭」「より良いカップル関係」「父親の参加」などを促進するものであることを強調することが多い。これは、グループがもたらす前向きで期待される成果と、男性が主体的に参加することの重要性を強調する言葉である。そのメッセージは、男性が家族のため、人間関係のために長期的な目標を持つような、意欲的なものでなければならない。

男性参加型介入のために男性を勧誘する場合、以下の方法を推奨する。

- 男性やそのパートナーの共感を得られるよう、募集メッセージや戦略の立案に、ファシリテーターやコミュニティ住民を参加させること。
- 男性を招待するのに最適な場所と戦略を検討すること。これは、直接訪問、女性パートナーを通じる、保健センターからの手紙、電話、SMS、WhatsApp、チラシ、コミュニティ行事などである。場合によっては、サッカー場、VSLグループ、農民組合の会合、喫茶店、モスクなど、男性が集まったりくつろいだりする場所でアプローチするのも効果的だ。正式なグループでの話し合いを提案する前に、まずこのような場所で何週間かかけて非公式な話し合いをする必要があるかもしれない。これについては、本章の次のセクション、アウトリーチ・アプローチによる男性への非公式な働きかけを参照のこと。
- 可能な限り、宗教的/伝統的/コミュニティのリーダーだけでなく、地元当局(保健ワーカー、ソーシャルワーカー、コミュニティ開発担当者など)を巻き込んで、男性を特定し、募集する手助けをしてもらうこと。男性が、自身と同じように父親や保護者である他の男性からプロジェクトについて聞くことを好むような状況では、他の男性にその取り組みについて話してもらうよう依頼する(口伝えの採用を行う)。
- 例えば、子どものための新しいコミュニティ遊びグループのためのおもちゃを作ったり、産科合併症を持つ女性のためのコミュニティ単位の緊急搬送システムを立ち上げるなど、コミュニティの優先課題に対応する実践的な活動に参加させることで、男性に関心を持ってもらうことができないかを考えること。そうすることで、男性はグループとしての達成感を得ることができ、継続的な参加への関心を高めることができる。
- 憶測や誤解を避けるため、男性に招待の理由を明確に伝えること。これは特に、男性に「悪い」行いをしたから招待されたのだと思われぬようにするために重要である(その場合、男性は出席を敬遠するかもしれない)。
- 単に「親」を招待すると、「要は母親を招待している」と解釈されかねないので避けること。女性だけでなく男性にも、あるいは「母親と父親」に直接招待状を送ること。

## 男性が通い続ける動機づけ

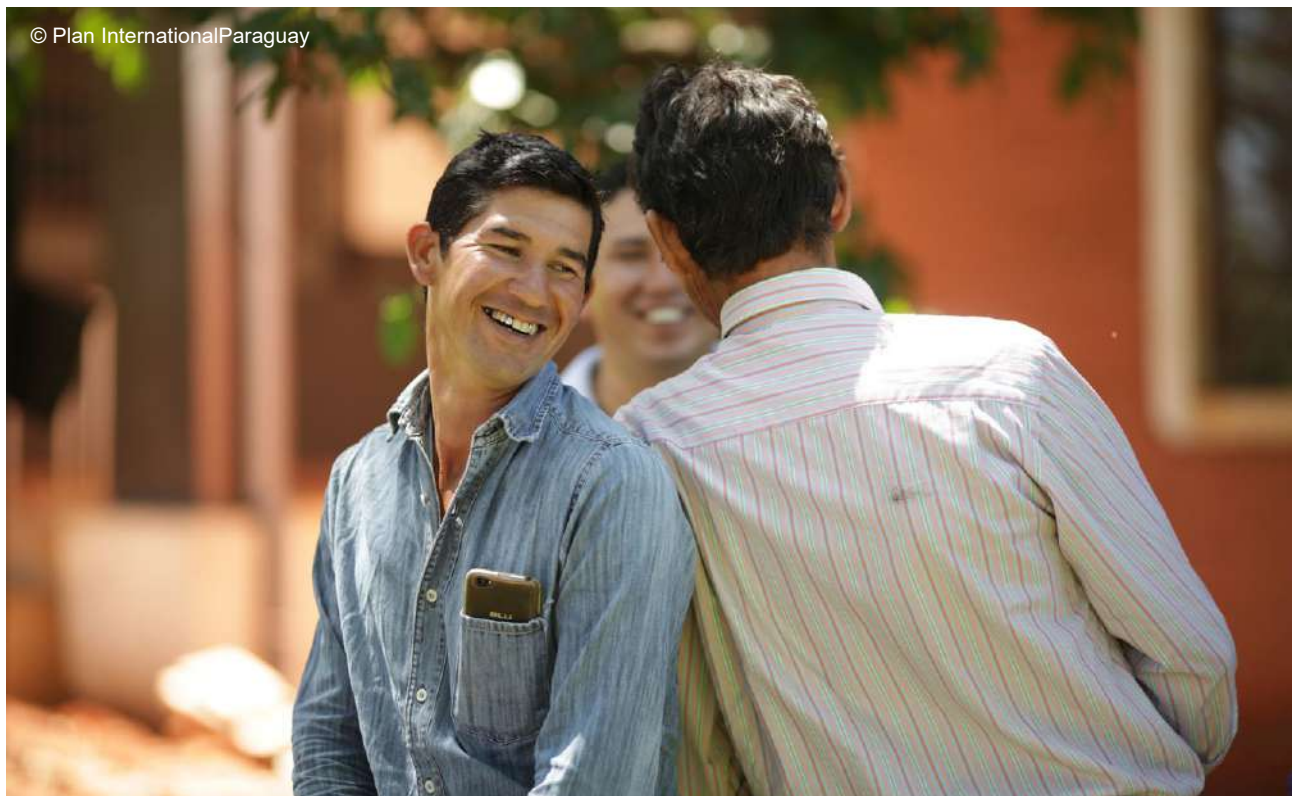
さまざまな状況において、男性はよく、自身や家族に影響を及ぼす問題について話し合うために、他の男性たちと集まるという貴重な機会を大切にしている。安全な空間がうまく作られると、男性は毎週グループに戻ってくる気になり、プロジェクトが終わった後も集まり続けることがよくある。男性が顔を出し、出席を続ける動機づけとして、さまざまな優遇策を用いることもできる。しかし、スナック菓子、交通費補助、Tシャツ、通信時間/電話料金の控除、証明書、その他の資料など、物質的または金銭的な優遇措置は、時として高額になり、参加を継続する努力を損なうことがある。また、既存の介入策において、男性にはこのような優遇策を提供し、女性には提供しないことで、ジェンダー不平等が一層強化されたり、男性の時間や子どもの生活への関わりがより重要であると受け取られる可能性があることを考慮することも重要である。

男性の参加の動機づけ、報奨、価値を高める方法は他にもある。例えば、参加者の社会資本やコミュニティでの地位を築く戦略を実施したり、男女の態度や行動の変化がコミュニティのメンバーやリーダーからいかに評価されているかを示すことができる。

ある状況下でPromundoは、コミュニティリーダーが介入に関与し、目に見える形で支援することで、参加者が誇りと強い結びつきを持つ、認知可能な「ブランド」が形成されることを発見した。この「ブランド」が男性がその理想に忠実であろうとする動機付けとなり、他の男性も参加したいと思うようになった。

男性に継続的な出席を促し、意欲を高めるために、以下のことを推奨する。

- 男性が住んでいる場所の近くや、すでに男性が集まっている場所で、コミュニティの男性にとって都合のよい時間に活動を実施すること。そうすることで、定期的に参加しやすくなる。男性が自由に話せそうな場所を選ぶ。バーや食堂、コミュニティリーダーの家などは避ける。
- ファシリテーターが参加者に電話をかけ、次回のセッションへの出席を促すようにすること(そのための放送時間やテレフォンカードなどの資源をファシリテーターに提供する)。
- 「家族の日」や家族セッションを企画し、男女が時間をかけて話し合い、家計のやりくりをし、家族の将来像を共有すること。
- 例えば、グループ参加者の功績を称えるなど、介入の知名度を高めるために地元のリーダーを関与させること。コミュニティの男女が評価するような表彰の種類や手段を検討する。これまでに実施された例としては、修了証書を授与して公開の卒業式を行う、SBCCの資料(ポスター/テレビスポットなど)に「アドボケイト」として参加した男性/カップルの写真を使用する、参加した男性同士で切磋琢磨し、料理や洗濯(その他、伝統的に女性の仕事と考えられてきた活動)が得意な男性に賞品を与える、などがある。
- 参加者を経済的な機会や収入を得る機会につなげたり、参加者(男女を問わず)が経済的な問題に対処できるよう支援できる情報を提供したりすること。例えば、グループの活動に貯蓄や融資の活動を組み込むことで、グループメンバーが参加を継続するための短期的・長期的な動機付けを提供することができる。
- コミュニティ・キャンペーンを企画・実施したり、コミュニティ活動チームを作ったりする際に、グループメンバーを積極的に参加させること。キャンペーンポスターやビデオ、ラジオ番組などで、パートナーや子どもとの良好な関係を示す参加者(およびファシリテーター)を紹介し、ECDに男性が関わることの利点についての認識を高める。



© Plan International Paraguay



- コミュニティの発展に貢献する社会奉仕や自発的な活動に参加者を参加させること。こうした機会は、参加者同士の社会的なつながりを築き、コミュニティとの結びつきを強める。
- コミュニティや タウンホールミーティング、その他のイベントで、自身の変容のストーリーを他者と分かち合おうとする男女を支援すること(これらは、将来のグループへの勧誘の機会にもなる)。

また、男性(またはカップル)グループのファシリテーターの監督と支援を担当するプロジェクトスタッフやチームメンバーが、定期的にグループセッションに同行し、観察することも有効だ。そうすることで、参加している男性からグループについてのフィードバックを得たり、グループセッションをどのように強化できるかについて知ることができる。また、ファシリテーターがどの程度グループセッションを実施できているか、この役割にどの程度自信を持っているかを評価し、ギャップや課題があればそれを特定し、どのように対処すればよいかを一緒に話し合う機会にもなる。

## 男性グループの持続可能性の促進

グループ教育介入を設計する際には、プロジェクト設計の質と忠実性を確保しながらも、長期的に持続的に拡大したり、公共サービス(例えば、保健サービスや教育サービス)の中に組み込んだり(「制度化」)するにはどうしたらよいかを考えるようにすること<sup>55</sup>。

最初から、グループ教育介入は、参加者がお互いにつながりを築き、支え合い、他の男性やカップルに働きかけを行い、ECDへの男性の参加やジェンダー平等の推進に関する信念や期待、規範を変えることに積極的に関与するよう促す方法で設計されるべきである。

資金面でグループ参加者との長期的な関わりが妨げられる場合もあるが、介入を突然終わらせることは避けた方がよい。グループの構造とそれが提供する支援が失われることで、男性やそのパートナーの、行動や態度の変化を維持したり新たに起こそうとする努力が損なわれる可能性がある。プログラムの支援や参加者との交流を徐々に減らすと同時に、コミュニティや 家族の参加を促進する戦略を用いることで、この移行を乗り越えることができる。

Promundoの経験では、参加者は、自身の経験を理解し、自己の変容を評価し認めてくれる他者と共有できることを望んでいる。グループ参加者、家族、隣人、コミュニティリーダーなど、介入終了後にこのような支援や承認をしてくれる人たちのネットワークを作ることは、特に、このような変化を嘲笑したり排斥したりするコミュニティ住民に直面した場合、男性が世話人や パートナーとして活動を続ける動機づけとなる。

以下は、グループによる介入とその影響の持続可能性を促進するための措置である。

- グループセッションは、毎週、2週間に1回、そして毎月と、徐々に縮小していく。毎月の会合の合間に、グループメンバーが非公式に会合を開くよう奨励する。コミュニティで会合を開いたり(会合を開くための空きスペースを探す手助けをする)、メンバーが交代で自宅で会合を開いたりすることもできる。
- セッションの終わり近くに、男性(とそのパートナー)に、家族の行動計画や、子どものため、二人の関係のために達成したい主な目標を立ててもらおう。グループメンバーに、これらの目標を達成するために互いに支え合える方法を特定するよう求める。
- 卒業式を開き、男性またはカップルの家族や友人、コミュニティリーダーを招き、グループメンバーの功績を祝う。参加者が歌やロールプレイを創作して共有したり、協力的な父親やパートナーになることを誓ったりする例もある。また、1日または1泊の家族リトリートを企画し、継続的な変容を祝福し促しているところもある。

- 介入終了前にグループメンバー間で支援ネットワークを形成し、父親として、またパートナーとして、引き続き会って支え合うよう参加者に奨励する。これには、輪番で集まったり、子どもの誕生を祝うために家族を訪問したりすることも含まれる。参加者は、WhatsAppグループを作ったり、テクノロジーを利用してつながりを保つこともできる(該当する場合)。
- ファシリテーターとなる技能と意欲を備えた参加者を特定し、彼らがコミュニティで新しいグループを進行できるようにする。
- 介入のモニタリングと支援にコミュニティリーダーや 地元当局を関与させ、参加者を既存の公衆衛生の取り組みや機構につなげる。地方自治体によっては、参加者にCHWIになってもらったり、MNCH、家族計画、暴力防止に関するコミュニティ活動支援を依頼しているところもある。
- 男性には、コミュニティの他の男性を動員するために、自らコミュニティ活動チームやクラブを作ったり、既存のコミュニティ保健委員会やその他の関連団体に参加して、コミュニティに変化をもたらし続けることができるよう奨励する。

## 家庭訪問を通じて男性にアプローチする際の具体的な考慮事項

### なぜ家庭訪問なのか

男性のECDへの関与を高めることを目的とした家庭訪問によるアプローチは、いくつかの理由から有用である。

- 家庭訪問は、家庭の状況における男性を観察し、より深く知る機会となる。また、家庭生活の動態やカップル間の相互作用について、より現実的な見方ができる可能性がある、そして、問題やニーズについて、より個人的な話し合いができるようになる。家庭訪問者は、父親と子どものやりとりを観察し、幼い子どもとともに、両方の親/保護者と協力する機会を得ることができる。
- 男女を問わず、年配の家族に参加してもらう機会を得ることで、幼い子どもの世話や発育、妊産婦の健康に男性が関与することへの抵抗を減らし、支持を得ることを目的とする。



© Plan International Jordan

同時に、家庭訪問は労働集約的であり、時間がかかるため、プログラムの潜在的な網羅率が低下する可能性がある。また、男性同士が学び合い、ピアサポートネットワークを構築する機会も少なくなる。このような理由から、家庭訪問がより有用となるのは：

- 男性グループと組み合わせる。
- グループセッションから脱落した男性や、より個別的なサポートが必要な男性をサポートする。
- 自治体や保健制度などを通じて組織された男性グループに対して不信感を抱いている男性など、接触が難しい男性にアプローチする。

## 家庭訪問の時期と頻度を計画する

- 可能であれば、父親との交流は子どもが生まれる前に始めるか、出産直後や帰宅後の母子訪問の一環として行う。
- 可能な限り、父親も家にいる時間を見計らって、子育てプログラムの家庭訪問を計画するようにする。
- ある調査では、最低でも月に2回、30分以上の訪問を推奨している<sup>56</sup>。

## 訪問の内容とアプローチを計画する

子育てプログラムの家庭訪問と同様に、内容やアプローチを計画する必要がある。

- 男性は実用的な活動を好む場合があることを忘れてはならない。家庭訪問者は、訪問を話をする機会としてだけでなく、男性が新しい実践を試す機会としても利用すべきである。例えば、父親と一緒に赤ちゃんのマッサージをやって見せる。また、おもちゃや安全な日用品を使って赤ちゃんに触れ合ったり遊んだりする様子をビデオに撮り、そのビデオを後で一緒に確認し、肯定的な触れ合いや行動を褒めたり、手厚いケアを提供するための「コーチング」を行う機会として活用することもできる<sup>57</sup>。これらのアプローチはいずれも、子どもの発育に重要なスキルを父親に教える上で効果的であることが示されている<sup>58</sup>。また、男性の子どもに対する愛着を強める機会にもなる。
- 訪問者は常に肯定的で励ます存在でなければならない。カウンセリングの開始時には、男性が頑張っていることについて話をし、その後にアドバイスに移るべきである。

## 訪問者が訪問のために十分な訓練を受けているようにする

- 訪問者は、訓練を受けたコミュニティのボランティア/準専門家であっても、公共サービス提供者であってもよい。訪問者が誰であれ、教師としてではなく、カウンセラーやサポーターとして行動し、共に学ぶことを促し、男性の自信を育むために、上記のような態度とスキルを備えていることが必要である。また、訪問者は、料理や掃除などの活動も含め、子どもの世話に関する責任の分担について、親/保護者間の対話を促す心構えができていようにする必要がある。

多くの状況において、CHWは家庭訪問を通じて家族に直接働きかけることが最も多い人びとである。男性が養育ケア、ECD、妊産婦の健康や幸福に関与するためにCHWと協力するのに役立つ詳細やリソースについては、第4章を参照のこと。



# 支援アプローチの具体的な考慮事項

## なぜ支援活動なのか

男性にグループへの参加を呼びかけたり、家庭訪問で連絡を取ったりすることが難しい状況では、訓練を受けたファシリテーターが男性が集まる場所に出向き、そこに偶然居合わせた人と非公式な話し合いや「簡単なおしゃべり」を始めるよう支援することが、男性にアプローチする数少ない方法のひとつかもしれない。この方法は、より正式なグループ活動に男性を招待する前に、数週間にわたる最初の活動として使うこともできる。

## 男性ともしっかり非公式な話し合いができる場所を特定する

- 最初に、男性と非公式な話し合いができそうな場所を特定する必要がある。例えば、屋台<sup>59</sup>や喫茶店、スポーツクラブ、理髪店、交通の要所、地元の教会やモスクなどの場所について、コミュニティの男性に尋ねて、男性が集まって話をしたり、社交をしたりする場所を地図に示してもらうのである。
- このような空間の管理者や所有者、あるいは信仰指導者に働きかけ、その空間を男性の参加型支援活動に使ってもいいかどうかを確認する必要がある。彼ら自身が、議論や簡単なおしゃべりのファシリテーターとしての訓練を受け、サポートしてもらいたいかもしれない。
- 結婚前にカップルが相談することが、その地域の宗教で義務づけられているかどうかを確認したほうがよい。もしそうであれば、信仰指導者に働きかけて、このプロセスの一環として、男性の婚約、カップル関係/コミュニケーション、共同養育についての相談を盛り込む用意があるかどうかを確認することが適切かどうかを判断する。これに関する詳しい指針については、第5章コミュニティとそのリーダーとの協働を参照のこと。

## 議論のテーマの決定とファシリテーターの準備

先に説明したように、支援活動のファシリテーターに十分な訓練とサポートを提供することが不可欠だ。ファシリテーターは、さまざまな男性との短い話し合い(多くの場合、最長で10~20分程度)を開始し、管理するための十分な準備が必要である。以下のようなことを検討するとよい。

- 話し合いのための優先テーマを特定し、ファシリテーターが会話を始めるために使える質問と、有用な場合に提供できる情報に焦点を当てた、適合したカリキュラムを開発する(このアプローチでは、演習やグループワーク活動などは実行不可能であることを認識する)。
- 毎週または2週間ごとに、ファシリテーターが集まり、異なるテーマやトピックについて議論し、学び、ロールプレイを通じて、そのテーマについての議論を進行する練習をする「Learn and then do」トレーニングプログラムを企画する。
- ファシリテーターを訓練し、可能な限り「フック」、つまりコミュニティや地元で起こったこと(出産中の地元女性の死など)を会話のきっかけにする。

# メンタリング・アプローチの具体的な考慮事項

## なぜメンタリングなのか

男性のメンタリング・アプローチは、パートナーであり父親/男性保護者である若い男性のメンターや助言者として行動する、尊敬できる年上の男性を特定し、訓練し、支援するものである。ジョージタウン大学の生殖衛生研究所が主導した、3歳未満の子どもを持つ16~25歳の父親を対象とした「REAL(責任ある、熱心な、愛情深い)父親計画」(IPVと子どもへの暴力の防止に焦点を当てたもの)など、さまざまな状況において効果的なアプローチであることが分かっている。このメンタリング・プログラムでは、選ばれたメンターが若い父親と12回の接触(個人セッション4回、カップルセッション2回、3人のメンターと彼らの教え子によるグループセッション6回)を持つよう支援された。各セッションでは、宿題として新しいスキルを実践することに重点を置き、改良されたカリキュラムが使用された<sup>60</sup>。

対象グループが若い男性であれば、メンタリング・アプローチが有効かもしれない。このアプローチでは、グループ内の男性の募集と維持、グループセッションの予定表の作成といった点で、課題が少ない可能性がある。さらに、一旦メンターが訓練を受け、サポートされれば、時間をかけて他の若い男性をサポートできる可能性がある。しかし、メンタリング・モデルは、少なくともプログラムの一部に1対1のサポートが必要であるため、資源集約的である可能性がある。

## 男性の選出、メンターの選出

- このような対象を絞ったアプローチでは、コミュニティリーダーがプログラムに参加する若い男性/父親を選ぶことが望ましい。
- 同様に、あなたがメンターを選ぶべきではない。その代わりに、若い男性/父親(とそのパートナー)には、彼らが尊敬し、助言を求めることができる人物の資質について考える機会を与え、コミュニティからメンターとなる男性を選ぶようにする。

## メンターが適切な訓練を受け、サポートされているようにする

先に説明したように、メンターに対する十分な研修と支援が不可欠である。REAL Fathers活動では、メンターは1週間のセッションを2回受講した。

## カリキュラムとサポート教材の適応

- 男性グループと同様に、メンターのための「カリキュラム」/議論ガイドが関連性があり、コミュニティの共感を得られるものであること、そしてメンターが共有する情報ではなく、**議論のための質問**が含まれていることを確認する必要がある。また、対象コミュニティの識字レベルに合ったものである必要がある。
- 議論中のテーマやメッセージと同じ内容の大型ポスターなどの啓発資料を準備し、コミュニティのあちこちに掲示する。他の男性との会話のきっかけになったり、複数のメンターやメンティーとのセッションの材料になったりする。



© Plan International Ecuador

## 第3章：幼児の学習と教育への男性の参加を可能にする

本章では、2つの観点から、男性のECD・学習への関与の促進に焦点を当てる。

1. 父親や男性保護者の幼児の学習・教育への関与をより支援するために、既存の早期学習プログラムを適応させる。
2. コミュニティ単位または正式なECCEプログラム、あるいは就学前教育における男性保護者/教育者の割合を増やすなど、男性の養育専門職への登用を促進するための措置を講じる。

それは以下を網羅している。

- 就学前教育やコミュニティに根ざした早期学習の場への男性の参加を促し、可能にする根拠
- 父親をより巻き込むECDプログラムを支援するための提言とその手順
- 幼児期の保護者・教育者に占める男性の割合を増やすための提言と対策

男性のECDや学習への関与の拡大を推進する場合、早期学習機関(およびそこで働く個人)は、その機関が組み込まれている社会を反映していることを認識することが重要である。そのため、早期学習プログラムは、幼児の世話は「女性の仕事」であり、母親や女性の保護者が行うのがよいという観念など、既存の不平等なジェンダー規範や役割を強化したり、定着させたりする可能性がある。その結果、こうしたプログラムは、男性が子どもの学習や教育、そして幼児の教育や世話の専門家として関与することを妨げる可能性がある。



# 幼稚園やコミュニティに根ざした早期学習の場への 男性の関与を促進し、可能にする根拠

## 父親を歓迎し支援するために、なぜ早期学習プログラムを適応させるのか

このガイダンスの序文では、遊びや、学習、探索、周囲の世界との交流の機会の提供など、幼い子どもの養育と発達に男性を参加させることの利点が述べられている。

しかし、父親や男性の保護者<sup>i</sup>は、母親よりも子どもの学習や教育に関与していないことが多い。全く関与せず、早期学習・就学前コミュニティに関わらない人もいる。これにはいくつかの理由がある。

- 早期学習プログラムは、保護者とのやりとりや、働きかけに際し、母親だけを対象にしている（あるいは意図的にしていないにせよそうになっている）可能性がある。
- ECD関係者は、序章で述べたような理由から、子どもの教育への男性の関与に両義的な態度をとる場合がある。また、一般的に、親の関与について、正式な教育や研修がほとんどなく、男性の関与についてはなおさらである<sup>61</sup>。
- ECD関係者は、多くの場合、その大半が女性であり、子どもの母親や女性の保護者保護者とコミュニケーションをとることに、女性であるほうが安心感を覚えるかもしれない。
- 父親は、子どもの学習や教育については母親が責任を持つべきであると考えたり、母親が子どもの学習や教育をサポートするのに適していると考えたり、あるいは、自身には能力のなさを感じたり、不十分さを露呈することを恐れる。
- 母親は「門番」のような役割を果たし、父親が子どもの教育に関与することを妨げたり、思いとどまらせたりする。

したがって、コミュニティに根ざした乳幼児教育センターや正式な就学前教育機関が、父親をより支援し歓迎するように努めることは、他の章で述べた戦略と同様に、子どもの養育と発達への男性の全面的な関与を促進するための重要な戦略となりうる。この取り組みは、子どもの保護者や家族構成の多様性を認める形で実施されるべきである。あらゆるタイプの親や保護者をより多く受け入れることを支援し、異性愛者の家族構成を優遇する規範を強化することは避けるべきである。

## なぜプレイグループ、ECCEセンター、プレスクールで男性保護者/教育者の割合を増やすのか

インフォーマル（コミュニティ密着型）、または正式な公立ECCEセンターやプレスクールにおいて、保護者/教育者として男性が参画することが有益であることを示す証拠がある。男性の保護者/教育者の存在は、さまざまなプラスの効果をもたらす<sup>62</sup>。

- これは、子どもに肯定的な男性のロールモデルを提供するものであり、早期学習の場以外では公平で暴力的でない男性のロールモデルを持たない子どもにとって特に重要である。
- 子どもは、女性だけでなく男性も保護者として関わっているのを見ることができる。その結果、育児や世話を「女性の仕事」とみなす伝統的な規範やステレオタイプを学ぶ可能性が低くなる<sup>ii</sup>。

i 本章では、「母親/女性保護保護者」と「父親/男性保護者」という言い方の代わりに、「母親」と「父親」という言葉だけを私用する。私たちの定義では、これらの言葉はそれぞれ、あらゆる多様性を持つ女性と男性の主たる保護者を包含していることを認識するためである。

ii そうなるためには、保護者/教育者は、互いの関わり方、役割の中で担う責任や仕事の種類において、互いの中で公平な行動を示し、模範となる必要がある。

- 異なるスキル、視点、資質を専門職にもたらすことで、カリキュラムの幅を広げ、サービスの質を高めることができるだろう。
- このようなプログラムやサービスに多くの男性が従事することで、ケア労働や就学前教育の認知度や価値が高まり、そのような職業の報酬が上がる可能性もある。

このような利点が認識されているにもかかわらず、ほとんどの国で男性はプレスクール教員の10%未満に過ぎず、プレプライマリー教員の4分の1超を占めるケースはほんの一握りである<sup>iii 63</sup>。これにはいくつかの理由がある。

- ECDは伝統的に、幼い子どもの世話や養育と同義であり、その結果、「女性の仕事」と広く見なされ続けてきたから。
- 就学前教育は、高レベルの教育(初等教育以上)よりも低い地位に置かれることが多いから。就学前教育に携わる教師は、初等教育以上の教師よりも地位が低く、資格もなく、給与も低く、報奨金や研修の機会も少ないことが多い。このため、就学前教師は男性にとって魅力的な職業とはいえない。児童教育に携わる男性は、より高いレベルや管理部門で働くことが多い。
- 多くの国では、監督者や保護者は、幼い子どもの世話や教師としての男性に否定的な態度をとり、男性が女性と同じように仕事をこなせるかどうか疑問視することがあるから。また、幼い子どもの親密な世話に携わる仕事をする男性の動機に疑問を抱くこともあるから(この疑問は、男性教師は幼い子どもを虐待する可能性が高いという信念に関連している)。
- その結果、ECD者として働き始めた男性は、孤立感やスティグマを感じて退職することが多いから。

## 父親の参加を促すECDプログラムを支援するための提言とその手順<sup>64 65</sup>

**最初に、プレスクールで起きる出来事に影響力を持つさまざまなステークホルダーを特定し、アプローチすることで、男性の参画に関連する彼らの態度や慣行を理解し、必要であれば抵抗を認める。**

母親、教師、学校管理者、コミュニティリーダーは、男性の幼児学習への参加に抵抗を示す場合がある。これは、男性が幼児の教育に関与することが、男性の育児における経済的役割を重視する伝統的なジェンダー規範や役割と矛盾していると思なされることと関係があるかもしれない。加えて、幼児の世話や教育は、特にパートナーとの関係において、女性が主体性や権威を感じる場のひとつかもしれない。文脈によっては、サービスのためのリソースが全体的に不十分であるにもかかわらず、なぜ男性のECDへの関与を促進することにリソースを向けなければならないのか、という疑問の声も聞かれる。このような抵抗は、男性や男性の暴力が、子どもに影響を及ぼしている問題の主な原因とみなされることで、さらに強まる可能性がある。

男性の積極的な参加を促進することを目的とした取り組みの成功には、こうしたグループからの支援が不可欠である。そのため、このような取り組みを展開するための強力な論理的根拠を構築し、それをこれらのグループに明確に説明することで、彼らの支持を得る必要がある。男性の参加に対する彼らの態度や認識をよりよく理解することは、入口を特定し、個別化された説得力のある根拠を作成するのに役立つ。

iii ベナン、コモロ、ガンビア。出典 ユネスコ統計局

**ECDプログラムのスタッフを対象に、男性の参加に関する意識向上と元・現任研修の機会を促進する。この研修には、教育当局、監督者、教師、事務・支援スタッフが含まれるようにし、以下の点が配慮される。**

- 保護者と教師を、子どもを取り巻く人間関係のつながりを理解しながら、子どもを総合的に見ることができるようになるとともに、男女の子育てや幼児との接し方の違いに敏感であるようにする。
- 子どもの早期学習と教育に男性が公平かつ非暴力的に関与することの利点を強調する。
- 男性も女性と同様に、生来子どもの世話をする能力があることを示す研究や証拠を共有する<sup>66</sup>。
- 保護者/教師が男性と関わる能力と意欲を強化し、子どもの人生における男性の役割を、人間として、パートナーとして、親として認識する。
- 保護者/教師が、男性の「良い」保護者としての能力に関する自らのジェンダー意識を内省し、疑問視する機会を提供する。

**プレスクールと家庭との関係をより強固なものにし、保護者や保護者が子どもの教育により深く関わることを支援するための、より広範な過程の一環として、男性の参加を促進する。**

- 早期学習プログラムやプレスクールと保護者/保護者をつなぐ既存の活動を評価し、子どもの早期学習や教育に男性にも働きかけ、より参加させるために、これらの活動をどのように適応させるかを検討する。
- 父親が子どもと一緒に住んでいない、あるいは子どもの母親との関係が切れている可能性があることを認識した上で、幼児の学習に親や保護者の関与を高めるための活動の設計や適応に父親を参加させることで、男性を惹きつけ、彼らのニーズを満たす可能性を高める。
- ECDサービスへの男性の参加を増やす取り組みへの支持を得るために、母親を参加させる。
- ゆっくりと始め、各活動に少なくとも数人の男性を参加させるようにする。(他の場面で女性が(しばしば)少数派であるときと同じように)少数派である場合、特に不快に感じるかもしれないことを忘れないようにする。



男性の参加を促す取り組みが、母親を対象とした取り組みや、子どもの生活に関する意思決定への母親の関与を弱めたり、女性よりも男性の時間や関与を優先させたりしないように注意する。

**監督者、教育者、支援スタッフが、保護者のための活動に父親を組織的に招待し、参加させるよう支援する。**

- 子どもを登録または入園させる際には、母親に関する情報、父親または子どもの最も重要な男性保護者(実父であるか否かを問わない)の氏名と連絡先、彼が家族と同居しているかどうかを記録することを徹底するよう勧める。
- 父親を主な活動(例えば、企画された遊びの活動、おもちゃ作りのセッションなど)に招待したり、学級のボランティアとして活動したりすること、また、保護者と教師の会合などに母親と一緒に参加することを期待していることを他の父親に伝えることを勧める。
- 父親を歓迎し、父親が参加できる時間帯に会議や活動を行うようにする。活動や会議の時期を決める際には、女性よりも男性の時間を優先したり、父親だけが雇用されているため勤務時間中は参加できないと決めつけたりしないことが重要である。



監督者、教育者、支援スタッフが、例えば以下のような方法で、父親がより歓迎される早期学習スペース/プレスクールとなるよう支援する。

- 父親の写真、ポスター、コラージュ、子どもの絵など、父親の肯定的なイメージを展示し、父親の存在をアピールする。展示する画像は、女性よりも男性の保護者としての役割を優先したり、理想化したりしないようにし(例えば、父親の画像のみ、または英雄としての父親の画像を含めるなど)、コミュニティに存在するさまざまなタイプの家族構造を包摂し、描写するようにする。
- 世話の役割を担う女性だけでなく男性を描いた本や画像を探し、利用する。
- ポスター、リーフレット、看板で「親」という言葉を使うのは、母親を意味すると解釈されがちなので避ける: 学校は、代わりに「母親と父親」または「父親と母親」を使うことができる。同時に、「親愛なるママとパパ」宛ての手紙や、ヘテロ規範的な核家族構造、あるいはすべての子どもが両親のいる家庭で暮らしていることを前提とするような表現を避けることも重要である。



早期教育サービスにおいて、男性の参加を支援する環境と文化を構築することは長期的な過程であることを認識する。

教育者は、早急に多くを期待すべきではない。ゆっくり始めて、成功体験を積み重ねていくようサポートすべきである。

## 幼児期の保護者/教育者に占める男性の割合を増やすための提言と対策<sup>67</sup>

早期学習スペース/プレスクールで男性が働くことに抵抗があるかどうかを評価し、その抵抗の原因を特定するために、保護者、教師、監督者など、さまざまな利害関係者を特定し、アプローチする。

低所得国から高所得国まで、さまざまな国において、親や主たる保護者は、さまざまな理由から、幼い子どもが男性に世話や教育を受けるといった考えに抵抗を示すことが多い。

- 多くのコミュニティでは、女性であろうと男性であろうと、親は家族以外の人に子どもを預けることを快く思っていない。
- 保護者は特に、男性保護者や教師が女性保護者や教師がするような「母親」になって子どもの世話をすることができないのではないかと、子どもに厳しいのではないかと心配するかもしれない。
- 親は、「女性の領域」と見なされ、おむつ替えやトイレのしつけ、ぐずった子どもの抱っこなど、親密な接触や幼い子どもの世話を伴う仕事を選ぶ男性の動機に疑問を抱くかもしれない。

- 女性教師よりも男性の方が児童を虐待する可能性が高いことを示す証拠はないが、さまざまな状況の保護者が性的虐待の可能性について懸念を表明しており<sup>68</sup>、この恐怖はメディアによっても煽られている。

### 男性の参加を促し、よりジェンダーバランスの取れたECCEの労働力の利点を説明する。 論点の一部は以下のとおりである。

- 男性は、ステレオタイプに挑戦し、世話ができることを示す姿を見せ、子どもたちは女性だけでなく男性との関係も学び、男性教育者は、より多様な世話の仕方や教え方に触れることができるため、子どもは恩恵を受ける<sup>iv</sup>。男性教育者はまた、家庭やコミュニティにまだ男性のロールモデルがいない子どもに、肯定的な男性のロールモデルを提供することもできる。
- 男性の参加が増えれば、養育職や早期教育職の認知度や地位が向上し、労働力全体が恩恵を受ける。
- 将来の男の子やユース男性も、キャリアの選択肢が広がることで、恩恵を受ける。さらに、子どもと関わる仕事をする男性は、父親としての現在および将来の役割に自信を持つことができるかもしれない。

より広範な啓発キャンペーンやSBCCの活動の中に、ECCEの労働力における男性の参加の重要性についてのメッセージを含めることができる。例えば、男性の教育者/保護者の事例研究や、彼らが子どもや家族と築き上げた前向きな活動や関係性を取り入れることもできる。また、プレスクールやコミュニティの早期学習プログラムに携わっている父親や男性保護者が、男性の採用に積極的であるか確認することもできる。



**注意:** 女性教育者や保護者の仕事を軽視しないことが重要であり、また男性のECCE労働力への参加を促進する際に、女性の雇用と経済的機会を確保することが重要である。この仕事は常に、女性の社会的・経済的エンパワーメントを促進し、伝統的に男性の領域と考えられてきた仕事の機会へのアクセスを拡大するための仕事を含む、より広範なジェンダー平等のアプローチの中に位置づけられるべきである。

### 影響力のあるアクターとのパートナーシップ

- 地域や国の教育当局、プレスクールやコミュニティ早期学習空間の監督者、保護者会の責任者、その他の影響力のあるアクターと協力する。開始前に、彼らの懸念に耳を傾け、可能であれば、地域の事例や実例を用いて、根拠を示し、それらに対処する。
- 保育や幼児教育に関するコースを提供している地元の大学や教育機関に働きかけ、これらのコースへの男性の参加や対象者の拡大を促進する意思があるかどうかを確認する。
- 地元の中学校に、男子学生の進路として保育や幼児教育を推進できないか相談する。

### 将来の保護者や教育者として思春期の若者やユース男性を対象にすることが効果的かどうか検討する。

例えば、ヨーロッパでは、若い時期、つまり思春期の若者やユース男性を教育者として参加させることで、男性が教育者として採用されやすくなっている例もある。Child-to-Child プロジェクト、近隣の遊びグループ、コミュニティ単位の早期学習空間を促進している場合、ECCEに関心を持たせ、この分野で働く自信を持たせる方法として、こうした取り組みに男の子や思春期の男性の参加を促進するような取り組みができないか検討する。

<sup>iv</sup> さまざまな状況において、男性は教育者や保護者として、言葉やユーモアの使い方、危険の受容、身体的な遊びなど、いくつかの面で女性とは異なるスタイルを持っていることが判明している

## 保育・幼児教育コースが、より包摂的でジェンダー平等なものになるよう、コースの内容や方法を見直すことで、研修機関を支援する。

- 誰が幼児期のケアや教育を提供できるかというジェンダー的な想定に挑戦する。
- 総合的で、参加型・体験型の学習アプローチを採用し、男女両方の興味を持続させる。
- (主に女性の)同僚や保護者と良好な関係を築くための自信、認識、スキルを男性に身につけさせる - ジェンダー平等な職場関係の模範となり、それを実践する方法を含む。研修では、彼らと一緒に活動する幼児の世話をしたり、一緒に遊んだり、教えたりできるようにする。また、仕事上で遭遇するジェンダー化された前提に対処できるよう準備し、女性教育者が、母親との会話、子どもの食事、幼児の寝かしつけなど、より「女性的」と見なされる活動や 仕事に「囲い込まれる」ことを避けるよう支援すべきである。
- 女性研修生に、男性や育児に対する自身の態度を探求する機会を提供し、男性研修生とともに働き、彼らをサポートするスキルを身につけさせ、男性教育者が、父親との会話やサッカーなど、より「男性的」と見なされる活動や職務に「囲い込まれる」ことを避けるよう支援する。
- 教育者や保護者としての人の価値は、ジェンダーに基づくのではなく、その人が仕事にもたらす資質、スキル、献身、知識に基づくという事実を焦点を当てる。
- 男女両方の研修生に、子どもを暴力や虐待から守り、安全に保つために必要な知識を与える。

## 男性教育者/保護者が直面する孤立、社会的圧力、偏見による脱落を防ぐために、どのような継続的支援が必要かを検討する。これには以下が含まれる。

- 定期的な技術支援訪問により、男性および女性の教育者や保護者に指導支援および指導を行う。
- 男性教育者がセンターやプレスクールで働くことの重要性、および男性教育者が働くことで得られるプラス効果について、監督者が定期的に保護者/保護者に伝えることを支援する。
- 地域の男性幼児教育者ネットワークを立ち上げ、支援する。そのメンバーは、ECCEで働く、あるいはECCEで働くことを検討している男性に対し、助言を提供し、「耳を傾ける」役割を果たす。
- 教育者や保護者間で経験、最善策、教訓を交換するための、学習アクションセルなど、プレスクール/センターを基盤としたプラットフォームを設置する。
- プレスクールやセンター内でジェンダー平等について話し合う機会を定期的に設け、男女スタッフが潜在的な問題を回避し、協力的なアプローチを身につけ、ジェンダー間やジェンダー内の違いを認識し、大切にしよう学校長に要望する。
- 孤立感をなくすため、各学校や早期学習スペースで複数の人間が働くようにする。
- 男性保護者や教育者に、児童保護に関する懸念が提起された場合の対応について支援と助言を与える。
- これらの戦略が、女性教育者のための研修や支援への投資を犠牲にして実施されることのないようにすること。女性が取締役や管理職(教職員の大半が女性であるにもかかわらず、依然として男性が支配的な地位)への昇進を含め、キャリアアップの機会を平等に得られるようにすること。



早期学習空間/プレスクールが、男性や女性による虐待から子どもを確実に守るために、子どもの保護に関する方針と手順<sup>69</sup>を持っていること、そしてそれらが実施され、保護者や主たる保護者に伝えられていること。

自国の幼児分野の労働力政策にも影響を与える必要があるかどうかを判断すること。

- 保護者/教育者に占める男性の割合にクォータ制を導入する（ノルウェーで採用され、成功を収めた措置）。
- ECCE研修プログラムを変更し、女性だけでなく男性にも共感してもらい、その対象となるよう促す。  
– ECCE/プレスクール教員の給与、福利厚生、労働条件の改善を推進する。これは、幼児教育に携わる女性に恩恵をもたらすとともに、男性にとっても魅力的な職業選択肢となる。



© Plan International Senegal



© Plan International Ecuador

## 第4章：男性による養育ケア、ECD、妊産婦の健康への関与を促進するための医療従事者やコミュニティヘルスワーカーたちとの協働

本章では、女性の保護者の健康と幸福、そして出産前から(約)5歳までの幼児の世話と発育への男性の関与を促進するために、一次医療施設や産科サービスの医療従事者やCHWをどのように関与させ、支援するかに焦点を当てる。この章では、男性の関与を促進するための行動を、個別の追加活動を提案するのではなく、医療従事者やCHWがすでに行っていることにどのように統合できるかに焦点を当てている。以下のような内容が含まれる。

- 医療従事者やCHWと協力して男性の参加を促進することが理にかなっている理由
- 男性がMNCHIに参加する際のリスクと留意点
- 主なリソースと参考文献
- 保健施設、医療従事者、CHWが男性のMNCHへの参加を促進するための一般的な提言
- 妊産婦期間中の男性の関与を促進するための提言
- 分娩、産後期における男性の関与を促進するための提言
- 出生から5歳までの子どもに対する男性の関与を促進するための提言
- CHWのコミュニティ活動に対する一般的な提言
- 医療従事者とCHWの研修のための提言とリソース。

本書は、プラン・インターナショナル・カナダが、カナダ政府の資金援助を受けて2016年から現在に至るまで実施しているSHOWプロジェクトのために開発したリソースを幅広く活用している。

## 根拠：医療従事者やCHWと協力して男性の参加を促進することが理にかなっている理由

- 医療従事者やCHWは、他の部門(教育など)に比べ、カップルや家族と定期的に接することができる。これは、子どもの出生前から、子どもの重要な最初の3年間を通して言えることである。彼らは通常、ANC、出産、PNC、子どもの健康と成長の観察訪問、コミュニティ教育活動、家庭訪問の際に、親やこれから親になる人たちと接触する。
- 医療従事者やCHWは通常、コミュニティの他の住民から尊敬され、認められ、信頼されている人びとである。
- 保健サービス、特にANCを男性の参加の入り口として利用することは、早期に男性を参加させる機会を提供することになり、長期にわたって参加し続ける可能性が高くなる。
- MNCHへの男性の参加は、保健システムの優先目標の達成に貢献することができる。質の高いMNCHサービスが存在しても、特定の場合ではその需要が減少することがある。これには、女性がいつサービスを受けるかの決定権を持っていない場合、代わりに男性が決定権を持ち、MNCHを支援しない場合、および/または男性が妊産婦の健康の連続性に沿って女性がどのようなケアと支援を必要としているかを十分に理解していない場合が含まれる。男性が確実に関与し、パートナーや 幼児の健康、ウェルビーイング、発育を支援することは、医療従事者やCHWがサービスを提供する人びとの健康状態の改善を達成するための鍵となりうる<sup>i</sup>。参加した男性は、保健センターがより機能し、より質の高いサービスが受けられるよう、声高に主張することもできる。
- 男性が MNCH に参加することの重要性を示す証拠があるにもかかわらず、多くのコミュニティや国では、保健サービスやサービス提供者は、男性が MNCH サービスに参加することを歓迎し、支援するように訓練されていない、またはそのような体制が整っていない。これには以下のような理由がある。
  - ➔ 男性が参加しやすい時間帯に診療セッションを提供する取り決めなど、男性の参加を促進する取り決めや規則がない(これらが存在しても、医療従事者がそれを知らない場合もある)。
  - ➔ 医療従事者の間では、MNCHは女性のものであり、男性の育児能力は限られているという考え方があり。
  - ➔ もし男性がMNCHサービスに一層関与するようになれば、女性が自身の身体に関する選択の自由や医療へのアクセスを阻害するのではないか、という懸念。
  - ➔ サービスインフラが必ずしも男性の参加を促進したり、可能にするものではないという事実<sup>ii</sup>。

## 男性がMNCHケアおよびサービスに参加する際のリスクと留意点

MNCHへの男性の参加促進に関連する政策や手続きが、意図せず女性の健康や自主性を損なったり制限したりするような形で実施される危険性がある。

- 
- i 本パッケージの序章で述べたように、男性が参加することで、妊産婦ケアや PNCへの需要が高まり、技能ある出産立会人の利用が増えること、分娩時の身体的・精神的苦痛が軽減されること、女性が母乳育児を行う可能性が高まること、女性の幸福感が向上することが示されている。
  - ii 例えば、他の女性のパートナーである男性が同席している場合に、女性のプライバシー(視覚的、聴覚的の両方)を保証する措置が不十分であること、男性用の独立したトイレがないこと、待合室や相談室での男性同伴のためのスペースや家具が不十分であることなどが、よくある問題である。



このようなリスクと、それを回避する方法については、男性の参加を促進するためのMNCH介入策や研修プログラムを計画する際に、関連する政策立案者、医療施設管理者、医療従事者と話し合う必要がある。例えば以下の点などである。

- MNCH サービスに男性パートナーの同席を奨励または義務付ける政策は、同伴者のいない女性がサービスを受けることを制限されたり、拒否されたりする結果を招く可能性がある。これは、男性のANCへの参加が女性のANCへの参加に必須であるとされたり、医療従事者によってそのように解釈され、実施された場合に起こる可能性がある。その結果、男性パートナーがいない、パートナーの都合が悪い、パートナーの同席を望まないなどの理由で、男性パートナーを伴わずにANCサービスを受けようとする女性が、サービスの利用を拒否されることもある。場合によっては、女性がパートナーでない男性に同伴料を支払ってサービスを受けるといった状況も生じている。ANCへの男性の同席を推進する他のプログラムでは、医療従事者(女性よりも男性の時間を重視する可能性がある)が、パートナー同伴の女性に迅速で優先的な待遇を提供することを選択している。その結果、一人で受診する女性は、より長く待たされることになり(場合によっては、受診するために次の日に再来院しなければならなくなる)、受診を控えることになりかねない。
- 男性の参加に関連した厳しいパフォーマンス指標や成果主義の融資も、女性のアクセスを妨げる可能性がある。例えば、そのような指標や金銭的な奨励は、医療施設に対し、サービスにおける男性の参加について一定の目標を達成するよう圧力をかけることがある。その結果、女性が希望しないのに男性パートナーを同伴させられたり、一人で受診した場合にサービスを受けるのが遅れたり、拒否されかねない。
- ANCやPNC、出産、子どもの保健サービスにおいて、男性の参加が拡大することで、女性の身体や医療に関する意思決定に対する男性の支配力が高まる可能性がある。医療従事者がジェンダーに配慮した保健サービスについての訓練を受けていない場合、MNCH相談の際に男性に情報を提供し、決定するよう求めるなど、男性に委ねる可能性がある。さらに、男性パートナーの同席について女性の同意を求めないこともある。女性はまた、パートナーが同席していると、特定の健康上の懸念について話しにくいと感じるかもしれない。これは特に暴力的・虐待的な関係にある女性にとって懸念されることであり、男性パートナーが同席することでパートナーに対する支配力が増し、女性が助けを求めることが制限される可能性がある。

## 主なリソースと参考文献

本章における提言は、MNCHとSRHIにおける男性の参加に関する多くの資料から引用されており、それらもさまざまな段階で参照されている。これらには以下が含まれる。

- Promundo. [Program P Manual](#)には、妊産婦相談の場や基本的な保健診療所において男性をどのように関与させるかについて、保健専門家向けの指針が記載されたセクションがある。
- MenCare. Guide for MenCare partners on training health providers. [MNCH/SRHにおける男性の参加](#)(自己評価チェックリストの多くがここから引用されている)。
- PI Canada. [Gender responsive MNCH/SRH services. 医療施設スタッフのためのガイド](#)。
- PI Canada. [Promoting gender equality in community MNCH/SRH education. CHWの能力開発ガイド](#)。

## 保健施設、医療従事者、CHWが男性のMNCH参加を促進するための一般的提言

- MNCHサービスへの男性の参加に関しては、国の保健サービスの方針、規則、または規定に基づくこと。
- 医療施設やチームの他のメンバーと協力し、これらの方針、規則、規定を全員が知っているようにし、サービスが(女性が望む)男性の参加を必ずサポートするという点で、各チームメンバーの責任を全員が理解しているようにすること。
- 医療施設やチームの他のメンバーや地域の保健当局と協力し、男性の参加を歓迎し支援するために必要なインフラ、設備、運営(例えば診療時間)の変更を行うこと。
- MNCHへの男性の参加を促進するために働くことの潜在的なリスクを認識すること。このようなリスクをどのように軽減し、ジェンダー平等の枠組みの中で、女性の健康と身体について自律的に決定する権利を尊重しながら、男性の参加を促進する取り組み方を知っておくこと。これには、妊産婦保健の過程を通して男性パートナーに同伴してほしいか、またいつ同伴してほしいかを決めることも含まれる。
- できるだけ早く、できれば第一子が生まれる前に、男性の参加を促すこと。来るべき子育ての課題に備える手助けをすること。彼らが家族のために最善を尽くしたいと願っていることを利用し、子ども、パート、家族、そして彼ら自身など、彼らの関与がいかにすべての人に利益をもたらすかを、交流のたびに強調する。
- 女性とそのパートナーと協力する際には、それぞれのカップル特有の社会的、経済的、文化的な現実を理解するように努めること。参加したくても、仕事の都合やその他の理由で参加できない父親もいる。
- 男性に、家庭でのケア労働と育児の責任を分担するよう奨励し、育児のスキルを身につけさせ、自信をつけさせること。もちろん母乳による育児を除き、男性もすべての育児作業と責任を等しくこなせることを強調する！
- 妊娠前、妊娠中、産後のケアの問題は、母子の健康だけではないことを忘れてはならない。



© Plan International Bangladesh

父親/男性保護者に、自身の精神的健康に気を配り、体を動かすように助言し、それによって子どもの発育のための全体的な健康環境を整える。アルコールや薬物の使用、身体的・心理的暴力などの不健康な行動に伴うリスクを共有し、それらが母親と子どもの健康、幸福、発育に及ぼす悪影響について父親に助言する。

- 母親と父親が、妊娠中や幼い子どもの世話でしばしば生じる不安や懸念によりよく対処できるよう、相互支援、協力、対話の姿勢を促進する。



本章の最後に、医療従事者/CHWが、自身やその施設が提供するMNCHサービスが、男性のECD/MNCHへの参加に対して、一般的にどの程度支援的であるかを判断するために使用できる評価チェックリストを掲載した。また、医療施設やそのスタッフの支援や監督を担当する人のための観察チェックリストとして使用することも簡単にできる。

## 妊娠中の男性の参加促進に関する医療従事者とCHWへの具体的な提言

**注** 本章では、母親/女性保護者、父親/男性保護者、父親/男性パートナーという代わりに、「母親」と「父親」という用語のみを使用する。私たちの定義によれば、これらの用語はそれぞれ、あらゆる多様性を持つ女性および男性の主要保護者を包含する。

### 母親が父親または男性パートナーと同伴しない場合

- 母親が診療所(または妊産婦のためのコミュニティ・グループ)の受診時に同伴者がいない場合は、パートナーがいるかどうか、パートナーがいる場合は、その後の受診時や出産時にパートナーが同伴することについてどう思うかを尋ねる。彼女はそれを望むだろうか。
- 母親が子どもの父親または男性パートナーの同伴を希望する場合は、彼をどのように招待するか、彼の同伴を可能にするためにどのような措置が必要か(例えば、彼が仕事のスケジュールを合わせるように事前に計画を立てるなど)、彼女と話し合う。父親や男性パートナーに宛てた手紙やパンフレットを渡すことも検討する。
- 母親がパートナーの同伴を望まない場合、彼女の意見に変更の余地があると感じたら、父親が早期に関与することの重要性を伝えるが、彼女の決定を尊重する。例えばIPVなど、彼女の立場に影響を与えるような人間関係の問題がないかどうか、またそれを特定するための質問が必要かどうかを検討する。  
*注* IPVのサバイバーである女性を特定するための質問をするのは、あなたのセンターに、暴力が起こっている場合に対応するスタッフや規定がある場合に限られ、特定プロセスには、常に全国的に規定された手順や質問を用いるべきである。
- 父親となる人が別の理由で母親に同伴できない場合(2人の関係がなくなった、父親が転出したなど)、面会に同伴できる他の重要な人物(家族/友人)がいるかどうかを彼女と話し合う(母親がこれを望む場合)。
- 父親やパートナーの男性が、他の用事で母親の受診に付き添えないが続く場合は、彼女が帰宅した後、すべての情報を彼と共有し、できるだけ彼を巻き込むよう彼女に勧める。



## 父親または男性パートナーが母親と一緒にANCコンタクトやグループに参加する場合

- 父親/男性パートナーを歓迎し、来訪に感謝し、彼が座る場所を確保しておく。相談やセッション中、母親と父親/男性パートナーの両方とアイコンタクトをとり、双方に質問がないか尋ねたり、双方の質問に答えたりするなど、積極的に関与する。父親/男性パートナーを対等なパートナーとして扱い、彼は二次的なアクターではない。ただし、父親/男性パートナーが会話を引き継ぎ、母親の代わりに質問に答える場合は、母親と直接関わり、母親が自分で答えられるような場を設けること。
- 超音波検査の時など、両親の興奮と喜びが高まる瞬間を利用すること。このような重要な瞬間を利用して、父親/男性パートナーを誘い、子どもの心音を聞いたり、父親が抱くかもしれない質問や懸念に注意を払ったりすることで、父親/男性パートナーと赤ちゃんとの絆を促進する。
- 父親/男性パートナーが、妊娠中にパートナーに精神的な支えや愛情、身体的な支え(例えば、家事を同等に担うなど)、ケア(例えば、十分な栄養、十分な休息)を提供するよう動機づける。母親が妊娠中の経験(身体的・精神的)についてパートナーと率直に話すよう促す。同様に、父親/男性パートナーにも、自身の感情的な経験を共有するよう勧める。
- 父親/男性パートナーが胎児とコミュニケーションをとるよう促す。母親のお腹を触ったりマッサージしたり、子どもに話しかけたり、歌ったり音楽を演奏したりする。
- 母親と父親の双方に、妊娠のさまざまな段階と妊娠中のコンタクトの重要性を説明し、父親が今後のコンタクトや訪問に参加するよう促す。
- 産科的緊急事態を示す徴候や症状について、両親に知らせる。緊急事態が発生した場合にとるべき行動手順のリストを提供し、このような状況で父親が実際にできること、すべきことを強調する。
- 貯金も含め、共同して積極的に出産の計画を立て、準備するよう促す。
- 赤ちゃんが生まれた後のことについて話し合う。6ヶ月間母乳だけで育てるために父親ができるサポート的な役割を強調しながら、母乳だけで育てることの重要性を2人に強調する。将来の妊娠を計画したり予防したりするための避妊について話し合う。家族計画は二人の責任であることを強調する。
- 一般的には、母親と父親が心配事や心配事を率直に言えるような安全な空間を作り、そのような話題について話し合う十分な時間を設けるようにする。例えば、健康上の心配事、経済的な質問、仕事上の問題、カップル関係の問題、妊娠中や妊娠後の性行為に関する勧めなどである。

## 出産前(できればその前!)の最後のANC受診時にすべきこと

女性が分娩の際に付き添いを希望するかどうか、また誰に付き添いを希望するかを聞いておくこと。出産に付き添ってもらうことは女性の権利であり(本人が希望すれば)、その相手を選ぶ権利もあることを忘れないこと。母親の同意を得て、父親の立ち会いとサポートが出産中の母親と赤ちゃんにとって重要であることを伝える。父親の同席を促す。

母親と父親の両方に、以下のことを話すこと

- 母親と新生児が出産時や産後に必要とする物や事、そして女性が準備や荷造りをするのを手伝うことの重要性。
- 産科病棟の場所と、産婦が遠方に住んでいる場合、産科施設の近くにある分娩施設に行くことを勧めるかどうか(勧める場合はその時期)。
- 法律が存在する場合、母親と父親の育児休暇に対する権利。
- 出産に男性が付き添う場合は、出産時や分娩室での心構えや産婦を積極的にサポートする方法(例えば、産婦の呼吸を助けたり、励ましの言葉をかけたり、身体的な負担やストレスを和らげるマッサージをしたりする)を準備しておく。出産や分娩の間、女性がパートナーにどのようにサポートしてもらいたいのか、夫婦で話し合い、伝えるよう促す。



本章の最後には、医療従事者/CHWが、提供するANCサービスが男性の参加をどの程度支援しているかを判断するために使用できる評価チェックリストが掲載されている。また、医療従事者/CHWの支援や監督を担当する人のための観察チェックリストとしても簡単に転用できる。

## 出産、分娩、産後の男性の参加促進に関する医療従事者とCHWへの具体的な提言

- もし法律が許し、女性が父親/男性パートナーの同伴を望むのであれば、母親をサポートできるよう、父親/男性パートナーの同室滞在を許可すべきである。
- 出産中のカップルのプライバシーを確保する(産科病棟の他の患者の尊厳とプライバシーを守るためのスクリーンなど)。
- 出産時に行われる日常的な処置、調査、検査について、女性とパートナーの両方に知らせる。
- 分娩後、(医療施設の方針に従って)できるだけ早く父親と子どもを引き合わせる- 例えば、へその緒を切ってもらい、子どもの体重を測り、母親に引き渡すのを手伝ってもらう。
- 出産・分娩時の父親の立ち会いを母親の記録に記載する。

### 出産後、母親と赤ちゃんがまだ医療施設にいる間にすべきこと

- 母親と父親の赤ちゃんに対する愛着心を促進し、そのためにそれぞれの親に「一人の時間」を提供すること。
- 父親にとって初めての子どもであれば、抱っこの仕方を教える。父親が子どもと身体的に触れ合う準備ができていないと感じたら、時間を与える。父親が十分に心地よいと感じるには、数時間から数日かかるかもしれない。母親が出産直後に赤ちゃんとのスキンシップをとることができない場合(帝王切開のためなど)は、父親にスキンシップをとるように勧める。
- 赤ちゃんに行われる日常的な医療処置について、両親や両パートナーに事前に十分に説明すること。



© Plan International

## カップルが赤ちゃんを連れて退院するときのすべきこと

母親と父親が産科病棟を出る前に、そのプロセスへの協力に賞賛と感謝の意を表し、父親の参加に感謝することを忘れないようにすること。

母親と父親に以下のことを話すこと。

- 新生児に不可欠な即時対応。
- 十分な休息と良好な栄養状態を含む母体への配慮、会陰切開の治療に必要な配慮（患部を清潔に保つこと、定期的な入浴）、手術や合併症を起こした女性に必要な特別な配慮、推奨される期間（通常6週間前後）は性行為を控えることの重要性など。
- 産後うつ症状と、父親が母親の回復を助ける方法。
- どこで、どのように子どもの出生登録をすべきか。
- 母親と赤ちゃんの双方にとって産後訪問が重要であること、父親がパートナーをサポートするよう奨励し、母親が規定通りに産後訪問に出席するようにすること。
- 母親と父親が等しく幼児の世話に関わり、家事を分担し、互いに率直にコミュニケーションをとることの重要性。父親は母乳を与えることはできなくても、他の多くの重要な方法（子どもの世話、家事の手伝い）で母親と子どもに身体的・精神的サポートを提供できるという事実。
- 将来の妊娠を計画したり予防したりするために、どのような避妊法を使うか、家族計画は二人の責任であることを強調する。
- 二人の一方または双方にその選択肢がある場合、育児休暇の取得。
- 子どもを持つことが、お互いの親密さを含むカップル関係に与える影響。



本章の最後には、医療従事者/CHWが、提供する出産/分娩サービスが男性の参加をどの程度支援しているかを判断するために使用できる評価チェックリストが掲載されている。また、医療従事者/CHWの支援・監督を担当する人の観察用チェックリストとしても簡単に転用できる。

## 出生から5歳までの子どもの健康管理の一環として、医療従事者とCHWが男性の関与を促進するための具体的な提言

- 可能な限り、母親と父親の両方が参加できる時間帯に、小児保健診療のスケジュールを組むようにすること。同様に、CHWの場合は、父親が家にいそうな時間帯に家庭訪問を行うようにすること。
- 母親、父親、両方が受診する場合でも、彼らが検診の予約に立ち会うために行った努力（例えば、長距離を移動したり、無給で仕事を休んだり）を常に評価すること。
- 母親が一人で子どもの健康診査に参加する場合は、父親が子育てに果たす役割について尋ね、父親が積極的に関わっているかどうかを確認すること。父親の参加を増やす方法について話し合うこと。
- 実父が不在の場合（例えば、実父が子どもの父親としての責任を負っていない、夫婦が別居していて連絡を取っていない、実父が別の場所に住んでいる、実父が亡くなったなど）、その女性に男性のパートナーがいるかどうか、あるいは、子どもの人生において重要な男性保護者で、将来の医療受診に参加させたい人がいるかどうかを尋ねること。



- 父親が子どもの健康診断に出席した場合は、父親の出席と役割の重要性を強調し、今後の参加を促すこと。父親が将来参加する上で障壁となるようなこと、例えば仕事のスケジュールなどについて話し合い、その障壁に対処する方法を父親と特定すること。男性が主に家庭の意思決定者であるコミュニティで活動する場合は、夫婦で意思決定を共有し、ケア労働の責任を分担することの重要性について話し合うこと。
- 母親と父親の双方に、重要な食事や衛生習慣、応答的な養育など、幼い子どもの養育に関する明確な情報と指導を与えるようにすること。
- 子どもの心理的・情緒的発達には、両親の関与（その関与が配慮に満ちた非暴力的なものである場合）が極めて重要であることを、母親と父親に思い出させること。将来の健康診断に連れて行く、子どもと一緒に遊ぶ、おむつを替えたり着替えさせたりする、子どもに物語を聞かせるなど、幼児の成長にとって重要な活動に男性が参加するよう促すこと。自身の役割について本人が抱えている不安や心配、疑問に注意深く耳を傾ける。有益と思われるリソースやサービス、例えば親グループや父親グループなどを紹介すること。
- 母親と父親には、子育てのスタイルが異なる可能性があること、ある特定の状況（例えば、子どもが行儀が悪いと思った場合など）でどうするかを一緒に話し合うとよいことを説明すること。体罰や心理的な罰を与えずに子どもを導くことの重要性を常に強調すること。子育てのスタイルや意見が対立するような緊迫した状況では、彼らがソーシャルネットワークやその他の社会的支援サービスの支援を求めるよう提案すること。



本章の最後には、医療従事者/CHWが、乳幼児の健康と栄養に男性がどの程度関与しているかを判断するための評価チェックリストが掲載されている。また、医療従事者/CHWの支援・監督を担当する人の観察用チェックリストとしても、簡単に転用することができる。

## CHWのコミュニティ活動に対する一般的な提言

- ジェンダー規範と差別が、女性が自身と家族のために保健サービスを利用し、要求する能力にどのような悪影響を及ぼすかを考慮すること。例えば、ジェンダー規範によって、信頼できる情報へのアクセスが制限されたり、意思決定力や移動が制限されたりすることがある。女性が直面する特定のジェンダー的障壁に敏感であり、それを克服するためにどのような支援ができるか考えるべきである。
- 支援するコミュニティの女性や子どもの生活や健康に、男性が影響力を持っていることを認識すること。また、宗教指導者や伝統的に影響力のある女性（義理の母など）の影響力を認識すること。このような影響力のあるコミュニティの住人をパートナーとして巻き込み、ECDやジェンダーに対応したMNCHサービスへの男性の参加を促進するための活動を支援する方法を考えてみる。
- 家庭訪問、コミュニティでの対話、教育サービスでは、成人および思春期の女性と男性の異なるニーズ、優先事項、懸念事項を考慮すること。女性、女の子、男性、男の子の話に積極的に耳を傾け、決めつけないこと。父親である男性、これから父親になる男性、男性保護者である男性にも、どのようなニーズがあり、それに対してどのような支援が可能かを聞くこと。
- 男性も女性も参加する家庭訪問は、プライベートな空間で、秘密が守られ、じっくりと話し合う時間がある中で、ジェンダー問題について話し合う、特に良い機会であることを忘れないこと。もし、母子の健康やより広範なECDに焦点を当てた家庭訪問を実施し、訪問中に女性の保護者と男性の保護者の両方に働きかけるとしたら、男性に参加してもらうためにどのようにアプローチを調整したらよいかを考慮すること。

- ➔ 男性がいる時間を見計らって訪問すること。
- ➔ ステレオタイプなジェンダー的役割を強化することになったとしても、最初は家の構造、安全性、トイレの有無などについて話せば、興味を持ってもらえるかもしれない。それらは健康や発育に影響を及ぼし、伝統的に男性の「領域」と考えられてきたものだ。
- ➔ 子育ての実践や、ケア労働とECDにおける男性の役割について対話を始める方法として、物語を使うことを考えてみる。例えば、World VisionがCHW向けに行っているMNCHと栄養に関する「Timed and Targeted Counselling」のアプローチには、母親、父親、その他の保護者、家族のメンバーとともに、肯定的な行動と否定的な行動、家族がすでにうまく行っていること、新しい行動をとる上での障壁、そしてそれらをどのように克服できるかについて考えるための、指針となる質問とともに、具体的な問題のストーリーと肯定的な物語が描かれている。



© Plan International Bolivia

- 常に、男性の仕事の都合やコミュニティ活動への参加を妨げるその他の要因に配慮し、それらをどのように克服するかを検討すること。
- 女性が産科的緊急事態の徴候を示したり、子どもが重篤な病気の危険な徴候を示したりしたときに、迅速かつ適切に行動する方法を、両方の親/保護者に教えること。男性にも、サービスを利用する方法と、出産時の技能ある立ち会いの重要性を知ってもらう。出産計画や緊急搬送の仕組みづくりに男性のパートナーを参加させること。

## 医療従事者とCHWを訓練するためのアイデアと一般的な推奨事項

MenCare Global Campaignとプラン・インターナショナル・カナダが作成した出版物は、以下のテーマでの研修を推奨している。(具体的なセッションの展開については、各出典に詳細が記載されているので、ここでは繰り返さない)。

- ジェンダーとジェンダー平等、態度、役割、規範を理解すること、そしてそれがMNCHと幼児の発育に与える影響を理解すること(MenCareとプラン・インターナショナル・カナダ)
- ジェンダー意識、役割、規範に関連する MNCH の決定要因(プラン・インターナショナル・カナダ)
- 男性がMNCH/SRHに参加するメリット(MenCare)
- MNCH/SRHにおける男性の参加に関する法律と政策(MenCare)およびジェンダーに対応したMNCH/SRH(プラン・インターナショナル・カナダ)
- MNCH/SRH への男性の参加に関する潜在的なリスクと懸念(MenCare)
- MNCH/SRHに男性が参加するジェンダー配慮型サービス(MenCare)

- MNCH/SRHIにおける男性の参加を促進するための提言と実践的手順(MenCare、プラン・インターナショナル・カナダ)
- サービスが男性をどの程度取り込んでいるかを監視・評価する(MenCare)

一方、World VisionのTimed and Targeted Counsellingアプローチのためのファシリテーター用マニュアル、参加者用マニュアル、物語集一式は、[英語](#)と一部[フランス語](#)で入手することができる。これらは有益かもしれない！MenCareの出版物には、研修を計画するためのワークシートや、以下にコピーした一般的な推奨事項のリストも掲載されている。

## やるべきこと

- ✓ 保健省やその他の関連機関の協力を得て、研修の権威を高める。
- ✓ MNCHへの男性の参加に関する医療従事者自身のジェンダーの態度や意見を取り上げる。
- ✓ 適切な人を研修に招く。男性の参加を促進するための行動には、医療施設管理者の賛同と支援が必要であり、さらに管理者は、直属の省庁からの指導と承認を必要とする場合がある。
- ✓ 施設の医療従事者の離職率が非常に高い場合が多いので、できる限り多くの医療従事者を研修すること。そのため、複数回の短時間の研修が必要になることもある。
- ✓ MNCHへの男性の参加は、ANC受診、出産、分娩、PNC受診にパートナーを同席させるかどうかを選択する女性の権利など、ジェンダー平等の原則の範囲内で行う。
- ✓ 研修には、参加型、実践型、成人学習のアプローチを用い、対話を促進し、経験を共有し、交流する場を提供し、共有する問題とその対処法について考えるようにする。セッションは楽しいものでなければならない。ロールプレイ、事例研究、シナリオ、その他のグループ活動や相互参加型の活動を活用する。
- ✓ 研修では、ジェンダー規範やステレオタイプについて、また、それらが女性や男性、その家族の健康や幸福にどのような影響を与えるかを、各々が内省する機会を提供するようにする。
- ✓ 医療施設内の仲間に知識を伝える(例えば、新しいスタッフに)ための計画を立てること。これには、医療施設管理者および/または保健省からの賛同とリソースが必要である。
- ✓ 女性や男性の経験を共有し、男性が参加することの利点とリスクを強調する。研修にコミュニティの住民(例:カップル/保護者グループからの参加者)を招待することを検討する。
- ✓ 可能であれば、医療従事者自身が政策や規程の変更を提唱する。
- ✓ 関係当局が研修を承認するようにする: 修了証書を提供し、可能であれば継続教育単位を提供する。
- ✓ 可能であれば、国の新任前研修カリキュラムの中に、男性の参加を支援するジェンダーに配慮した母子保健サービスに関する研修を組み入れるよう、関係当局と協力する。



## してはならないこと

- ✕ 医療従事者は既にジェンダーを理解している、あるいはジェンダーやジェンダー平等政策を理解するための研修やサポートは必要ない、と決めつけること。
- ✕ 女性がサービスを受けられなくなるような方法で、男性の参加政策の実施を推進すること。
- ✕ 男性のMNCHサービスへの参加に関連するリスクについて話さないこと。
- ✕ 男性と女性の両方の医療従事者を訓練することを忘れること。男性の参加はすべての人にとって重要である、と認識すること。
- ✕ 単発の研修がすべてだと思ってしまうこと。研修が、構造的・政策的な障壁に対処するための、より広範な提言活動や制度的戦略とリンクしているようにすることが重要だ。
- ✕ 医療従事者の態度で彼らを判断すること。代わりに、ジェンダー規範が健康に及ぼす有害な影響を軽減する方法について、オープンな対話を可能にすること。
- ✕ 男性の参加は、追加的な仕事であるかのように思わせてしまうこと。代わりに、医療従事者がより良い仕事をするためにどう役立つのか、具体的な健康目標を達成するためにどう役立つのかを示すこと。
- ✕ スタッフ間のジェンダー力学や医療施設内の不平等が、医療従事者の仕事にいかに関与するかを無視すること。
- ✕ 補助職員（清掃員、警備員、受付係、事務職員など）は、女性や男性が医療施設に到着して最初に接する人たちであることも忘れてしまうこと。補助職員も、なぜ男性の参加を躊躇させてはいけないのか、なぜ男性のパートナーなしで受診する女性の入場を拒否してはいけないのかを知る必要があることを認識すべきである。
- ✕ 医療従事者だけに焦点を当てること。医療施設の管理者や政策立案者にも研修を行う必要がある（短期間の場合もある）。





### 評価チェックリスト

これらのチェックリストは、医療従事者やCHWが、自身や自身の施設が提供する MNCH サービスが、男性の ECD/MNCHへの参加をどの程度支援しているかを判断するために使用することができます。また、医療施設やそのスタッフの支援や監督を担当する人のための観察チェックリストとして使用することも簡単にできる。答えがわからない場合は、「いいえ」の欄にチェックを入れる（該当しない場合を除く）。各「いいえ」の回答に対して、実行可能な重要な行動を1つ挙げる。

#### チェックリスト1: 一般的な診療所の方針、規定、慣行: MNCHへの男性の参加

私が働いている施設では...	はい	いいえ	N/A	「いいえ」の場合に取るべき行動
1. 出産時の男性の同席を含め、妊産婦の健康管理(ANC、出産、PNC)に父親/男性パートナーをどのように参加させるかについて、国の指針/基準に沿った臨床指針または規定がある。				
2. MNCHIにおける男性の参加に関する国の規定や指針の適用が、女性やその自律的な意思決定と幸福に予期せぬ悪影響を及ぼさないことを確認する(例えば、男性の参加は女性の同意がある場合にのみ許可されるようにする)。				
3. 医療従事者、CHW、事務職員など、男性の参加を支援するジェンダーに配慮したMNCHサービスを提供するための訓練を受けたスタッフを配置する。				
4. 妊娠中のコンタクト、出産、分娩、PNCなど、妊産婦の健康管理に関する各コンタクトに父親/男性パートナーが立ち会っていかを記録する様式を使用すること。				
5. ANC/PNC相談への父親/男性パートナーの参加を支援するための十分なインフラと空間があるようにする(相談室の予備の椅子、独立したトイレ、男性の積極的な参加を示すポスターなど)。				
6. 出産時の男性の立ち会いをサポートする十分なインフラと空間があるようにする(例: 出産時や分娩室に男性が立ち会うための十分な空間とプライバシー、または父親や家族のための待合室)。				
7. 父親のために特別に作成された妊娠、出産、子どもの健康に関する教材や、母親予定者と父親予定者の両方を対象とし、母親と父親の両方を描いた教材など、男性の参加を支援するサービスを提供するための十分な資源を用意すること。				
8. 働く親のために、別の時間や曜日に診療を行うこと。				

私が働いている施設では...	はい	いいえ	N/A	「いいえ」の場合に取るべき行動
9. 出産時に父親/男性パートナーが分娩室に立ち会うことを積極的に奨励する(許可され、女性の同意がある場合)。				
10. 父親/男性パートナーも参加できる、親(妊産婦を含む)向けのワークショップを提供する(または紹介する)。				
<b>男性の参加を支援するMNCHサービスを提供するための私の知識と技能</b>	はい	いいえ	N/A	「いいえ」の場合に取るべき行動
1. 男性の参加を支援するMNCHサービスを提供するための研修を受講した。				
2. 上司から、男性の参加を支援するMNCHサービスを提供するようサポートしてもらった。				
3. MNCHケアへの男性の参加(出産時の男性パートナーの立ち会いに関する方針を含む)に関して、国レベルでも、医療施設レベルでも、方針/規定を認識する。				
4. 出生届や出生証明書への父親の名前の登録に関する国の法律について詳しく知る。				
5. 国の産休・育休に関する法律について詳しく知る。				
6. 男性がMNCHケア(ANC、出産、分娩、PNCの間)に参加することを奨励し、支援するための知識と技能を持っていると認識する。				
7. 男性に乳幼児の健康と栄養への関与を促し、サポートするための知識と技能が自分にあると自信を持つ。				
8. 男性に乳幼児の健康と栄養への関与を促し、サポートするための知識と技能が自分にあると自信を持つ。				



## チェックリスト2: ANCサービス

私の行動は...	はい	いいえ	N/A	「いいえ」の場合に取るべき行動
1. 女性が一人でANCを受診する場合、子どもの父親/パートナーの男性について尋ね、同席を希望するかどうか、それが可能かどうかを尋ねること。				
2. 女性がこの考えに抵抗があり、かつ/またはIPVにさらされている可能性がある他の兆候がある場合、国の規定に従って、その女性がIPVを経験しているかどうかを特定するために適切な質問をすること。				
3. もしその女性が暴力的な関係にないと確信が持て、彼女が望むのであれば、父親/男性パートナーを次回の面会に同伴するよう勧め、招待状を送るなど、こちらから協力できることがあるかを尋ねること。				
4. 法律で父親/男性パートナーが出産に立ち会うことが認められている場合、女性に、誰かに立ち会ってほしいか、また誰に立ち会ってほしいかを、選ぶのは女性の権利であることを伝えること。その上で、誰に立ち会ってほしいか尋ね、適切と思われ、彼女の希望であれば、父親/男性パートナーを選ぶよう勧めること。				
5. 父親/男性パートナーがANCの診察に参加する場合、父親を相談に参加させ、その参加に感謝し、今後の参加を促すような手段を講ずること。父親を参加させることで、母親との関わりを無視したり、制限したりしないようにすること。				
6. ANC、分娩、PNC、家族計画、育児休暇(関連する場合)についての一般的な指導や情報を両者に提供し、女性とパートナーの双方に質問がないか尋ねること。				
7. ケア、休息、良好な栄養状態、分娩計画、産科的緊急事態が発生した場合のサービスへのアクセス、分娩中の産婦へのサポートなどを通じて、男性がどのように母親をサポートできるかを具体的に指導すること。				

### チェックリスト3: 出産・分娩における男性の関与

私の行動は...	はい	いいえ	N/A	「いいえ」の場合に取るべき行動
1. 出産に立ち会ってほしい人を女性に確認すること。施設内で父親/男性パートナーの立ち会いが許可されている場合は、立ち会ってほしいかどうか尋ね、父親が立ち会うことの重要性を強調する。				
2. 母親の同意があり、施設内で許可されている場合に、父親/男性パートナーが分娩に立ち会うことを勧めること。				
3. 出産に立ち会う父親/男性パートナーが、女性の希望に沿った、マッサージや呼吸法の手伝いなどのサポートを提供するよう奨励し、指導すること。				
4. 医療施設が父親/男性パートナーの出産・分娩室への同席を許可していない場合、あるいは母親が同席を望んでいない場合でも、父親には近くにいることを勧め、定期的に情報を提供すること。				
5. 赤ちゃんと母親、父親/男性パートナーとのスキンシップの重要性を説明し、奨励すること。				
6. 出産後は、母親と父親/男性パートナーの両方に赤ちゃんを抱くことを勧め、必要に応じてそれぞれに指導を行うこと。				
7. 出産後、私は母親とそのパートナーの両方にPNCについての指導と情報を提供し、質問がないかどうかを尋ねること。				
8. 出産後、母親と父親/男性パートナーには、可能な限り何らかの休暇を取るように勧めること。				
9. 出産後、母親と父親/男性パートナーに、子どもを国民登録簿または人口登録簿に登録する方法(出生証明書を取得する方法)を知らせること。				

#### チェックリスト4: 乳幼児と子どもの保健・栄養サービスへの男性の参加

私の行動は...	はい	いいえ	N/A	「いいえ」の場合 - 取るべき行動
1. 母親が一人で子どもと一緒に保健所の診察に来たときは、父親のことを聞くこと。父親が一人で診察に来たときは、その逆をすること。				
2. 母親が一人で子どもの健康診断に来た場合、母親が同席に同意した場合、今後の健康診断では父親の同席を勧めること。				
3. 父親が同席している場合、今後も継続して参加するよう奨励すること。				
4. 父親が同席している場合、両方の親/保護者に子どもの健康と発達に関する情報を提供し、両者が参加するよう促すこと。				
5. 両親/保護者が同居している場合、父親が世話や家事を分担することを促すこと。				
6. ワークショップや親の支援グループ、教育の機会などがあれば、両方の親/保護者に紹介すること。				
7. ワークショップや父親クラブなど、父親参加型の活動がある場合は、母親の場合と同様に、それを紹介すること。				





© Plan International Senegal

## 第5章：コミュニティやリーダーと協力し、ECDの養育ケアへの男性の参加を促進する

この章では、信仰指導者、伝統的リーダー、年配者、政治指導者、選挙で選ばれた村の「役人」など、私たちが活動するコミュニティで影響力を持つさまざまな指導者や、広くコミュニティの住民とどのように関わり、協力していくかに焦点を当てる。本章では、以下を取り上げる。

- 用語集
- 男性の参加を促す活動において、コミュニティリーダーが重要なアクターである理由
- ジェンダー規範を変革し、男性の参加を促進するためにコミュニティリーダーと協力するための一般的な考慮事項
- ジェンダー規範を変革し、男性の参加を促進するために、信仰指導者と協力する際の具体的な留意点
- 始める前に：コミュニティリーダーを動員し、協力するための土台作り
- コミュニティリーダーと協力するための主な手順
- コミュニティリーダーを巻き込むためのワークシート

## 序論と用語集

信仰、伝統、政治など、影響力のあるコミュニティリーダーは、男性の ECD への参加を促進するための活動において、重要な味方となり得る。彼らは、男性の ECD への参画を促進するための新たな規範を作り、承認することができ、他の章で説明されている戦略をサポートすることができる。

この章は、この指針の他の章と同様、プラン・インターナショナル・カナダと Promundo が、カナダ政府から資金提供を受け、ジェンダーに配慮した MNCH プログラム「Strengthening Health Outcomes for Women and Children SHOW」<sup>70</sup> のために開発したモジュールに基づくもので、MenEngage Alliance の活動<sup>71</sup> や他の出版物<sup>72</sup> を参考にしている。本書は、より広範に子どもの権利を促進するための、コミュニティリーダーとの協働については触れていない<sup>73</sup>。ここで取り上げた提言の中には、信仰指導者に特化したものもあれば、伝統的リーダー、年配者、選挙で選ばれた村の「役人」などを含む、より広範なコミュニティリーダーに適用できるものもある。

### 本章で使用する用語集

- **信仰指導者**: 宗教や精神的な組織に正式に属し、コミュニティやより広範な市民社会で影響力のある役割を果たす男女。例えば、司祭、導師、ラビ、聖職者、僧侶、修道女、ラマ僧、シャーマンやスキアといった伝統的な現地の霊的指導者、信徒の信仰指導者などが含まれる。
- **FBO**: ひとつまたは複数の信仰の教えや原則から活動の指針を得る組織。FBO には、1つまたは複数の宗教コミュニティ/集合体によって後援または主催される慈善団体、宗教コミュニティ/集合体によって設立された、または信仰や霊的伝統や価値観に基づいて設立された NPO、および FBO の連合体が含まれる。
- **信仰に基づくコミュニティ**<sup>74</sup>: これらは、あらゆるレベルの宗教的伝統の中で信仰体系を制度化する信仰指導者（女性および男性）、主体、機構から構成される。礼拝のコミュニティ（教会、モスク、シナゴグ、寺院など）、信仰指導者（司教、聖職者、アヤトラ、ラマ僧など）、学者、神学者、宗教教育者、宣教師、ユース信仰や女性信仰のグループやネットワーク、信仰に基づく組織、宗教的・宗教内組織/傘下組織などである。
- **聖典**: 特定の宗教で神聖視される書物を指す。例えば、キリスト教では聖書、イスラム教では中心的なテキストであるコーランなど。
- **神学**: 宗教と宗教的信念の研究。
- **神学者**: 神学を研究する人、またはその専門家。
- **伝統的指導者**: 地方自治体内の慣習法を守る男女。伝統的リーダーは宗教的・精神的指導者である場合もある。しかし、伝統的リーダーの社会的地位は、主として先祖代々の結びつきによる社会的地位に基づいている。宗教的指導者とは異なるが、伝統的リーダーは多くの場合、コミュニティで同程度の権威、権力、尊敬を得ている。

# ECDへの男性の参加を促進する活動において、コミュニティリーダーが重要な役割を果たす理由

男性のECDへの参加を促進するためのプログラムに、信仰や伝統的な指導者を含むコミュニティのリーダーを動員し、パートナーとなることは、複数の理由から理にかなっている。

## 人びとの宗教的信条や価値観、文化的伝統は重要である

- 世界人口の84%が宗教団体に属している<sup>i</sup>。
- プラン・インターナショナルが活動する多くの文脈において、宗教的信条や文化的伝統は、社会規範やジェンダー規範と絡み合っている。これらはコミュニティで共有される態度や行動を決定する重要な要因である。信仰や伝統的リーダーが属する信念体系や制度は、特にジェンダーや家族関係に関して、肯定的にも否定的にも、コミュニティの規範や価値体系に強い影響を与える。
- さまざまなコミュニティにおいて、聖典の解釈の仕方や人びとの宗教的信念によって、男女の役割や責任に関する規範や期待など、差別的なジェンダー規範を支え、強化することがある。

## 信仰指導者、伝統的リーダー、年配者、選挙で選ばれた村役人は、通常、多くのコミュニティで尊敬され、合法的で影響力のあるアクターである

- このような指導者は、コミュニティ内<sup>ii</sup>で重要な地位を占めることが多く、コミュニティの住民から大きな尊敬を集めている<sup>iii</sup>。コミュニティ住民からも、政治家や政策立案者からも信頼される存在として、地域や国の政策に強力な影響力を持つことも多い。信仰や伝統的リーダーは、個人に精神的・道徳的な指導を与えることもある。また彼らは、健康、ウェルビーイング、家族関係に関連する信頼できる助言者、情報提供者として行動することが多く、宗教的・教育的活動を通じて価値観や社会的ルール（家族生活様式、生殖に関する選択など）に影響を与えようとする場合、疑惑の目で見られることはないと言われている。
- 確立された伝統的なコミュニティや宗教的な集会でメッセージが共有される場合、これらの指導者の権威や、コミュニティ住民の行動についての指針を提供するために彼らが通常使用する仕組みの受容性によって、メッセージは強化される。
- 礼拝の場はコミュニティに深く根ざしており、信徒が定期的集い、情報やメッセージを共有したり伝達したりする場として機能している。信仰指導者や信仰共同体や信徒組織はまた、しばしば広範なネットワークを持っており、最も権利を奪われ、困窮しているグループに対して大きな影響力を持っている。彼らは家族や個人に対して、外部の多くのアクターよりもアクセスしやすい。宗教団体は地球上のほぼすべてのコミュニティの一部であり、50億人近くの会員を数えることができることを考えると、彼らの行動の可能性は大きい
- 宗教や信仰に基づく組織は、多くの場合、幼稚園、学校、保健サービスなどの社会サービスの提供に携わっている。特に脆弱な国家や人道的な状況においては、宗教団体は脆弱な人びとに最も重要なサービスを提供している かもしれない。ボランティア・ネットワークも活発である。また、ニュースレター、ウェブサイト、ラジオ、テレビなど、多様なメディアやコミュニケーション・チャンネルを運営していることも多く、影響を与える活動やSBCCのために活用することができる。

i 2015年の数字によれば、キリスト教徒が世界人口73億人の31.2%に当たる23億人を擁し、群を抜いて最大の宗教グループを形成している。次いでイスラム教徒(18億人、24.1%)、ヒンズー教徒(11億人、15.1%)、仏教徒(5億人、6.9%)となっている。参照せよ: Pew Research Center (2017). Christians remain world's largest religious group, but they are declining in Europe, 5 April, <https://www.pewresearch.org/fact-tank/2017/04/05/christians-remain-worlds-largest-religious-group-but-they-are-declining-in-europe/>

ii だが、ある宗教の指導者は、他の宗教のコミュニティ住民と同じレベルのつながりを持っているとは限らない。

iii 例えば、アフリカでは74%の人が宗教指導者を最も信頼するグループとしている。参照せよ: UNICEF (2012). Partnering with religious communities for children. [https://www.unicef.org/about/partnerships/files/Partnering\\_with\\_Religious\\_Communities\\_for\\_Children\\_\(UNICEF\).pdf](https://www.unicef.org/about/partnerships/files/Partnering_with_Religious_Communities_for_Children_(UNICEF).pdf)



- コミュニティリーダーは多くの場合、優れた伝達者であり、態度や行動に影響を与え、行動を喚起し、提言活動に関与することによって、コミュニティ住民を動員し、効果的な変革の担い手となることができる。
- 多くの環境では、このようなさまざまな種類のリーダーはたいてい男性であるため、彼らは自身の生活や人間関係において、男性の参加とジェンダー平等の模範となり、コミュニティレベルで「積極的逸脱者」や「規範の潮流形成者」となることができる。尊敬され権威のある男性リーダーは、男性にメッセージを伝え、男性が参加するような会議を招集することができる。



規範が行動の原動力である場合、尊敬され影響力のあるリーダーがその変化を認めない限り、人びとは自分の行動を変えないかもしれない。これらのリーダーが規範の変化を容認すれば（そして、異なるやり方をすると口先だけでなく、異なるやり方をしてみせれば）、他の人もそれに従う可能性が高くなる。

### 男性参加活動をコミュニティ主導で行い、コミュニティ全体の変革を支援したいのであれば、コミュニティリーダーは不可欠な味方である。

私たちは、コミュニティに対して「正しいやり方」を説いても、規範の変化は起こりにくいことを知っている。コミュニティレベルでの規範、期待、実践の変化は、外部から「指示」されるよりも、むしろコミュニティが主導して介入するほうが起こりやすく、持続しやすいのである。参加者が自身の直面している課題を振り返り、その課題に対して行動するための知識やスキルを身につけるよう、介入策が促すと、この傾向はさらに強まる。コミュニティ主導の介入は、文脈の深い理解に基づいている可能性が高く、コミュニティが解決したい問題に対する文化的に適切な解決策を生み出し、住民が自身にとって重要な目標を達成するのを助け、コミュニティ自身が取るべき行動を決定し、合意する結果となる。



© Plan International Nigeria

## 信仰と伝統のリーダーは、男性の参加と女性のエンパワメントのための取り組みの強力な反対者になりうる

- 特に宗教的な指導構造（伝統的リーダーシップ構造もある）は通常、男性の社会的優位を維持し、指導的役割から女性を排除している。指導者たちは、この状況を正当化し、現状を維持するために、宗教的テキストや文化的伝統を利用することがある。コミュニティによっては、このようなリーダーが既に重要な「門番」として、あるいは男性の参加と女性のエンパワメントに対する障害として働いている。例えば、男性の女性に対する優位を是認したり、男性の世話を思いとどまらせたりする、強固で不公平な規範を推進したり、女性がサービスを利用したり、生殖に関する健康を含む自身の健康について決定したりする能力を制限する慣習を推進したりすることによる。
- 信仰指導者は、「家族」とはどうあるか、どうあるべきかについて、伝統的あるいは保守的な見解を持っているかもしれない、つまり、核家族には母親と父親が存在するのだという見解である。この見解は、女性や子どもが世帯主である家庭、未婚の親や思春期の親がいる家庭、同性愛者、両性愛者、トランスジェンダーのカップルが世帯主である家庭など、多様な状況にある異なるタイプの家族を反映していない可能性がある。これらの家庭は、脆弱であることが多く、一層の支援が必要である。従って、指導者とプロジェクトは、差別することなく、あらゆる種類の家庭を支援することが重要である。
- このようないリーダーを巻き込むことは難しいかもしれないが、反対派のリーダーを取り組みから排除すれば、プログラムの障壁となり、プログラムが期待する変化を達成できなくなる危険性がある。
- このような敵対勢力の態度や認識を変えることは難しいが、その結果、コミュニティに共有されている規範や行動を変える可能性が高まるだろう。

## 宗教指導者は、国連子どもの権利条約(UNCRC)に謳われているものと同様の価値観や誓約を共有していることが多い

- UNCRCのいくつかの重要な要素は、世界の主要な宗教的伝統と共有される価値観を反映している。その中には、子どもの尊厳に対する基本的な信念、子どもを育てる最良の場としての家庭の重視、子どもに与えられる高い優先順位、社会のすべての構成員が子どもに対する権利と義務を有するという考え方、子どもに対する全体的な概念と、子どもの身体的、感情的、社会的、霊的ニーズに対する包括的な理解などが含まれる。
- 多くの宗教はまた、平和、正義、社会的平等に対する同様の誓約を共有している。

## ジェンダー規範を変革し、男性の参加を促進するためにコミュニティリーダーと協力するための一般的な考慮事項

### できるだけ早い段階でコミュニティリーダーと関わり、長期的な過程に備える

規範や態度を持続的に変化させるために、リーダーの賛同を確実に得たいならば、通常、計画段階からプロジェクト全体を通じてリーダーを関与させる必要がある。つまり、どのようなリーダーがいて、影響力を持っているのか、また、どのリーダーと既に関係があるのか、活動の入口となる人物を特定することから始めなければならない。ジェンダー規範の変容と男性のECDへの参加を促進するために、コミュニティリーダーを含む異なるアクターと協働するには長い時間がかかることを留意すること。リーダーとの既存の関係を強化することから始め、長期的な活動に備えること。

## 相互の尊重とお互いの価値観に基づいた活動を行う。中核となる価値観を反映した聖典や先祖伝来の伝統について、子どもや女性の権利と一致するような別の解釈を見出すよう指導者を支援する

パートナーシップは、相互の尊重、信頼、オープンな対話、優先事項の共有、そしてそれぞれの当事者（自分の組織とコミュニティリーダーやその組織）が、他方との協働について抱いているであろう懸念の認識がある場合に、最も生産的なものとなる可能性が高い。宗教指導者との話し合いや活動は、常に共通の価値観と共通の優先事項に基づいて行う。共通の基盤がどこにあるのか、また関連する場合は、協力の出発点となるような行動がすでに行われているのかについて明確にし、合意する。子どもの固有の尊厳、子どもの生活における家族の重要性、最貧困層への支援の重視に焦点を当てた価値観の共有が、出発点となり得る。

懸念や相違が発見された場合は、その根本原因を特定するよう努める。それは、宗教的信条や文化的伝統、あるいは人権を等しく表現するための言葉の誤解によるものなのか。子どもの権利の原則と相容れない、根本的で深く根付いた信念によるものなのか。ジェンダー正義、平等、男性の有意義な参加を支援するような、精神的、信仰的、宗教的価値観や聖典の肯定的解釈を見出すよう、信仰指導者を支援する。同様に、伝統的なリーダーが、重要な文化的価値を反映し、それに沿った、代替となる肯定的な実践を見つけるよう支援する。



[Tearfund](#) と [We Will Speak Out](#) 連合は、宗教指導者に「信仰を剥奪」しようとしているのではないことを示し、パートナーシップを強調し、聖典と特定の文化的文脈の中で活動することが重要であると指摘している。彼らのアプローチは、文化的に即した代替的な行動様式を示すことで、宗教指導者（および信仰コミュニティ）が、信仰とジェンダー平等は相互に排他的なものでも、相容れないものでもないことを知る助けとなる。

## コミュニティリーダーに、自身のジェンダーの考え方や男性性の経験を振り返る場を提供する。研修や教育よりも、対話と内省に重点を置く

多くの信仰や伝統的なリーダーシップ構造や信仰共同体そのものが家父長的であり、女性を差別し、正式な意思決定の場から女性を疎外し、リーダーシップの地位を否定しているのではないかと、懸念が事実かどうか確認することが重要である。多くの場合、信仰指導者は、このような状況を正当化し、説明し、自身の特権を守るために、聖典を先例として用いることもある。リーダーとの対話は、このような複雑な概念を解き明かす上で有益である。それは、ジェンダー平等をめぐる彼ら自身の態度や、男性性についての彼ら自身の経験を省みる重要な機会となる。

## 男性リーダーとの仕事には、常に女性リーダーを加えるよう努める

信仰や伝統的な指導者の大半は、ほとんどの状況において男性であるが、女性の指導者を認め、関与することが重要であり、信仰グループの女性やコミュニティリーダーの女性のパートナーもまた、大きな影響力を持ちうることを認識する必要がある。これらの女性は、保守的なコミュニティで女性と女の子に接触し、助言を与えることも多い。



# ジェンダー規範を変革し、男性の参加を促進するために、 信仰指導者と協力する際の具体的な留意点

## 宗教団体とその会員は均質ではないことを忘れてはならない

宗教団体は、その機構、メンバーの信条、指導者が聖典をどのように解釈し実行するかという点で、一様ではない。同じ信仰やコミュニティ内の指導者でも、男性の参加やジェンダー平等に対する理解や受け入れの度合いが異なる場合がある。対話とパートナーシップの入口となり、協力すべき相手を特定するためには、この複雑さと多様性を理解する必要がある。

## 必要であれば、さまざまなレベルで、さまざまな宗教の指導者と協力する

教会、寺院、モスク、またはコミュニティで、信仰指導者一人ひとりと直接関わりたいかもしれない。ジェンダーの問題に関しては、信仰指導者と共に活動するのはデリケートな場合があるため、宗教的な階層や構造の上層部、地域レベルで信仰指導者個人に影響力を持つ人と関わる必要があるかもしれない。このことは、活動が全国的なアクターによって共同所有され、承認され、支援され、その結果、文脈に関連したものであることを保証するのに役立つ。活動は「指導者」の賛同を得、持続可能なものとなり、反発を和らげることもつながる。信仰に基づく女性グループやユースグループ、宗教的な学生団体もまた、コミュニティにおいて重要で影響力があることを忘れてはならない-彼らはプログラムにとって重要な味方になり得る。

宗教は、多くの状況において極めて政治的な問題であり、政治的な問題に将来なりうる可能性を持つ。そのため、信仰に基づくコミュニティと関わる努力は、公平で超党派的であることが重要だ。公平性を確立するにはタイミングが重要である。異なる信仰や霊的伝統の主要な指導者は、同時に関与すべきである。状況によっては、公認の宗教間組織との活動を優先することが望ましい場合もある。どのような状況においても、影響力のあるさまざまな信仰に基づくコミュニティすべてと協力し、その過程の一部として、異なる指導者間の協力を促進するために、宗教間対話を促進するよう努めることが望まれる。

規範や慣習を変革するために、信仰に基づくコミュニティと協働するには、多方面からのアプローチが必要であることも忘れてはならない。聖典の解釈や、それがジェンダーや男性の参加とどのように関係するかについて、指導者自身との協働と並行して、神学者との関わりも必要である。

## 信仰指導者と協力するための準備

宗教コミュニティとの協働の経験から、信仰指導者やそのコミュニティと効果的かつ建設的な協働を行うためには、スタッフが十分な知識、スキル、態度を持つことが重要であることは明確だ。宗教的伝統をよりよく理解し、宗教的コミュニティと関わるための架け橋となることができるため、あなたの組織内またはパートナー組織内で働く信仰を持つ人は、この過程において特に重要な存在となりうる。

知識という点では、以下のことができるようにサポートすることを意味する。

- 活動するコミュニティで重要な宗教的伝統の基本的な概念、原則、教えを学ぶこと。これは、本を読んだり、インターネット上の情報にアクセスしたり(あなたの国に宗教省またはそれに相当するものがあるならば、それも含めて)、また探求の精神をもって信仰コミュニティのメンバー(組織で共に活動する人も含めて)と関わることによって行うことができる。
- 子どもの権利の促進と保護において、信仰コミュニティが既に果たしてきた役割を明らかにすること。

- 信仰コミュニティとの交流の中で、論争を呼び、分裂を招く可能性のある人権と子どもに関する問題を特定し、理解しようと努め、潜在的な同盟者を疎外したり失ったりすることなく、それらに対処する方法を見つけること。

姿勢という点では、以下のようなサポートが必要だ。

- 宗教的・霊的伝統への素直さと好奇心を培うこと。宗教的伝統の多様性を認め、特定の伝統が子どもの権利を前進させているのでは、という先入観を避けること。
- 宗教、霊的精神、特定の宗教的伝統に属する人びと、あるいは自身とは異なる宗教的伝統に属する人びとに対する自身の感情や潜在的な偏見に気づくこと。自身とは異なる信仰や実践に対して、批判的でない態度を保ち、複数の信仰と提携する際には公平性を追求することができるようにすること。
- 関わる可能性のある信仰コミュニティと共通の価値観や原則を模索すること。
- 差別的なジェンダー規範を支える要因は宗教的信念だけではないことを認識すること。宗教に根ざしていると理解されている態度や行動の中には、実際には他の社会的規範や文化的伝統に根ざしているものもあり、その中には宗教的聖典よりも古い場合もある。他の文化的伝統や社会的規範に基づく行動や実践は、信仰指導者によって異議を唱えられ、対応される可能性があるため、この区別は重要である。
- パートナーシップの過程を充実させ、相互尊重を促進するために、信仰コミュニティのメンバーと会う際には、適切な服装、挨拶、礼儀作法を通じて敬意を示すこと。

スキルという点では、以下のことができるようにサポートする。

- 伝統的価値観に耳を傾け、学び、尊重すること。それらが子どもや女性の権利と相容れないと思われる場合、宗教的伝統との共通点を見出すための仲介や交渉ができるようにすること。
- 信仰コミュニティのより一般的に理解されている言葉や信条で、権利という言葉を変換し、有意義に伝えることを学ぶこと(例えば、権利という言葉そのものを使わずに権利について話すことは、時として即座に断ち切ることになりかねない)。
- 信仰コミュニティが提示する、子どもと女性の権利に対する根本的な課題に、敬意を持って、しかし直接的に立ち向かうこと。
- 特定の信仰コミュニティや指導者の信条や実践が、子どもや女性の権利の原則から大きく逸脱しており、これ以上の交流を追求すべきではない場合を特定できるようにすること。

### プログラムのために、宗教学者や神学者、あるいはFBOのスタッフの支援を得る必要がある

プラン・インターナショナルを含む多くの組織は、ECD や妊産婦の健康、幸福、エンパワーメントにおける男性の参加を支援する聖典を解釈し、特定するために必要な専門知識を持っていない可能性がある。男性による養育ケアやECDへの参加を支援するためのリソースはすでにいくつか開発されているが、プログラムで使用できる聖典を特定するのに役立つ宗教学者や神学者と協力する必要があるかもしれない。同様に、介入コミュニティで活動し、この取り組みの提携や支援に関心を持つ可能性のある宗教団体(FBO)を特定することも重要だ。これらの団体は、現地で新たな信仰指導者にアプローチしたり、特定の信仰共同体のリーダーシップ機構と交流したりするのに役立つかもしれない。

## 信仰指導者と協力する女性スタッフを支援する

女性は信仰指導者と活動する際、しばしば特定の障壁や課題に直面する。例えば、特定の場所から排除されたり、その場所での行動が制限されたりする。女性スタッフを危険にさらすことなく、女性スタッフが信仰指導者との交流に男性スタッフと同等に参加できるようにするために、これらの障壁にどのように対処できるかを男女スタッフと話し合う。これはしばしば、最初は信仰共同体の規定と期待に従うことで受容と信頼を得、徐々に女性の参加とリーダーシップを制限している家父長的規範に慎重に挑戦し、解体していくことを意味する。

## 時間をかけて、また可能であれば、宗教指導者が代表する家父長制的制度のジェンダー不平等についての質問や考察を、彼らとの交流や行動に組み込む

信仰は、概して、ジェンダーの社会化の場であり、ジェンダーの階層が維持されているということを話し合う必要がある。最初からは難しいが、指導者やその組織と十分な相互信頼を築き、受け入れられるようになれば、彼らとの交流の中にこのような質問や考察を取り入れることができるようになる。

# 始める前に: コミュニティリーダーを動員し、協力するための土台作り

## 可能な限り、既に協働しているコミュニティリーダーに働きかけ、巻き込むことから始める

プラン・インターナショナルのように、既に多くのコミュニティで長年活動している組織であれば、スタッフはコミュニティの有力なリーダーを既に知っており、彼らと共に活動してきていることが多く、また地域の信仰共同体や信徒の一員であることもある。新しい男性性、男女の新しい役割、女性のエンパワーメントを促進するためのプロセスに、コミュニティリーダーを参加させることは、あまりデリケートでない共通優先課題での協働を含め、彼らとの信頼関係がすでに構築されていれば容易であろう。可能な限り、「ゼロから始める」のではなく、このような既存の関係を基盤にする。

## この仕事の重要性をリーダーに納得してもらうための証拠を準備する

これは、どこで働くか、その土地の文化的信条は何か、どの宗教的伝統が普及しているか、その教えは何かによって異なる。必要な証拠には以下のようなものがある。

- 幼児期の発達と女性の健康と幸福の重要性に関する証拠。
- ECD、妊産婦の健康、幸福に関する地域の状況と、それに関連する格差や問題についての証拠。
- ECDや、子ども、女性、家族、コミュニティ、そして男性自身の幸福のために、男性の参加が重要であることを示す証拠(地域の男性の証言を含む)。
- ジェンダー平等と男性のECDへの参加、妊産婦の健康/幸福の支援を聖典の中に位置づけるツール。宗教の教義は、コミュニティ内の不平等なジェンダーの力学を正当化するために使われることが多いので、これらは特に有用である。



宗教学者やフェミニスト学者は、聖典が女性の権利やジェンダー平等な規範を促進する多くの方法を記録しており、それらを説明し記述した資料も存在する。(詳しくはボックス3を参照。)

- 同じ国や他の国で、その宗教や伝統の指導者が、ECDのために男性の積極的な参加を支援する主導的な役割を担っている、他のコミュニティについての情報。(事例研究はボックス1を参照。)

## プログラムに対する抵抗や反対をどう軽減できるかを特定する

ジェンダー規範や関係を変革するために伝統的な指導者や信仰の指導者と協力する場合、反発や抵抗、反対は十分ありえることである。

- 抵抗や反対は指導者自身から起こることもあり、指導者は排除されていると感じたり、男性がECDやケア労働、妊産婦の健康に関わっていること、また女性の意思決定権が高まっていることを、自分たちの慣習や信念に反していると感じたりすることもある。
- 信仰指導者との協働に対する抵抗は、女性組織や活動家からも生じる可能性がある。彼女たちは、こうした指導者との協働を、不公平な規範や家父長制的制度の力を強化するものとみなすかもしれない。
- ジェンダー規範の変化や男性の参加を促進するための活動に関わる信仰指導者自身が、仲間や宗教団体、コミュニティからの反発や反対に苦しむかもしれない。スティグマ(男性の参加やジェンダー平等プログラムを支援する指導者を辱めたり、積極的に辱めたりする経験も含む)も、考慮し対処する必要のある障壁となりうる。

以下、コミュニティリーダーとの協働を計画する際に考慮すべき、いくつかの軽減策を紹介する。



© Plan International Senegal

潜在的リスク	軽減策
<p>信仰、伝統、その他のコミュニティリーダーやそのコミュニティからの反対や反発は、プロジェクトが「外」からの信条を輸入した、と認識する可能性がある</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 取り組みの計画中、できるだけ早い段階でリーダーを参加させる。</li> <li>● 上位のリーダーと、そのリーダーシップまたは調整機関の関与を確実にする。支援と賛同を得るために、研修フォーラムや対面会議を開催し、彼らとの対話を促進する。</li> <li>● 宗教指導者（または学者）や伝統的リーダーに、他の宗教指導者や伝統的リーダーとの意識啓発や反省会で使用する資料や議論ガイドの内容を確認してもらう。</li> <li>● コミュニティや他のリーダーからの反発に対処するため、メディアと協力して、プロジェクトにおけるコミュニティリーダーの支援とそのリーダーシップ体制が強調されるようにする。メディアへの働きかけにおいて、プロジェクトに参加したリーダーの声を強調する。</li> </ul>
<p>女性の権利団体や活動家が、信仰、伝統、その他のコミュニティリーダーとの協働を、その組織や（主に）男性リーダーの家父長制的権威を強化するものと受け止め、反対したり反発したりすることがある</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コミュニティリーダーに働きかけを始める前に、最初から女性の権利運動やグループに参加してもらう。プログラムについて説明し、リーダーを参加させる理由を説明する。</li> <li>● 活動家や女性組織の代表をプロジェクトの諮問グループに招く。</li> <li>● 女性組織や活動家と協力し、コミュニティリーダーとの活動をデザインする。彼女たちの懸念を探り、その提言をプロジェクトに取り入れる。</li> <li>● 活動家や女性組織を巻き込んで、コミュニティリーダー、特に信仰指導者との考察や対話の機会を設計し、提供する。</li> <li>● 宗教指導者と女性組織や活動家の交流を促進する。これは、指導者が女性の意見を聞く機会をつくり、女性組織が信仰指導者とのかかわりを深め、責任を追及することを可能にする。</li> <li>● プロジェクトにおけるジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチと女性の積極的なリーダーシップが、メディア報道の中で強調されるよう、メディアと協力する。メディアへの働きかけにおいて、関係する女性組織や活動家の声を強調する。</li> </ul>
<p>不公平な規範や慣行に異議を唱え、男性の参加を促進する信仰や伝統的な指導者に対して、仲間の指導者、宗教団体、地域社会から反発がある</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 関与している信仰や伝統の指導者に継続的な支援を提供する。彼らに会い、彼らが行った前向きな変化を評価する。必要であれば、安全や治安に対する緊急の脅威に対処できるよう支援する。</li> <li>● ジェンダー規範に挑戦し、ECDへの男性の参加を促進している信仰や伝統的なリーダーの支援グループやネットワークを構築する。</li> <li>● 上位の宗教指導者や伝統的指導者、そしてその指導者や調整機関の関与を最初から確保することで、上層部からの支援を確保する。</li> </ul>

## 監視と評価(M&E)の枠組みが、コミュニティリーダーとの活動の有効性を理解するための証拠を生み出すものであること

これには以下が含まれる。

- コミュニティリーダーの知識、態度、行動の変化の評価
- 男女の行動、役割、意思決定権に関してリーダーが期待していると住民が感じることの変化
- ECDへの男性の参加を促進するために、コミュニティリーダーが実際に何をしているのか、彼らが促進するメッセージがどの程度ジェンダー・トランスフォーマティブなのかの監視
- 事例研究や「最も重要な変化」のストーリーを収集すること。コミュニティレベルで、またより広く変化のストーリーを共有するための強力な方法である。

モニタリングと報告は、ジェンダー平等に関連する成果に対する進捗状況についての洞察も提供すべきである。

### ボックス1: 信仰指導者との協力に関するパートナーの経験

インドネシアでは、Rutgers WPFはMenCare+(Laki Laki Peduli)を通じてイスラム指導者と協力し、男性の世話とジェンダー平等を推進してきた。同団体とそのパートナーは、個人的・職業的な役割においてジェンダー平等を推進する宗教指導者との協力で成功を収めた。ドキュメンタリー『A Little Piece of Heaven in Bondowoso』は、イスラム教の教師であるUstadz Muhammad Nur Salimの物語と、平等と男性性の代替形態を促進する彼の活動を捉えている。参照: <https://men-care.org/resources/surga-kecil-di-bondowoso-small-paradise-in-bondowoso/>

イスラム教徒が多数を占めるナイジェリア北部では、イスラム学者が聖典の一節を用いて、妊産婦ケアや家族計画、子どものワクチン接種に反対してきた、それは彼らがイスラム教では禁忌であると信じているからである。これに対し、開発研究プロジェクトセンターは、Saving Lives at Birthの資金援助を受けて、こうした医療に反対するイスラム学者をMNCHの擁護者にするプログラムを立ち上げた。この組織は、妊産婦医療に疑念を抱いている男女の宗教指導者を意図的に探した。そのうちの15人は、エジプト家族計画協会やアル・アズハル大学の代表を含む、イスラムの教えと妊産婦の健康を専門とするエジプトの学者たちによって訓練された。[NPR](#)で記事について話を聞く。

## コミュニティリーダーと協働するための主な手順

本セクションでは、男性の育児と発達への参加を促進するために、コミュニティリーダーと協働するための推奨事項とともに、いくつかの重要なステップを概説する。最後には、各ステップの質問を掲載したテンプレート/ワークシートがある。地元の状況に応じて、これらのステップを自由に適応・調整すること。ただし、これはハウトゥーものではない！

### ステップ1: 活動する地域の有力なコミュニティリーダーを特定し、地図を作成する

コミュニティで尊敬され、正統性、権力、影響力を持つ、伝統的、宗教的、政治的なリーダーに焦点を当てる必要がある。そのために

- ➡ コミュニティをよく知るスタッフ(対象コミュニティのいずれかに住んでいる可能性もある)と話をする。
- ➡ コミュニティ住民に相談し、家族の健康や幸福に関する助言、相談、サービスについて、どのリーダーを頼りにしているかを調べる。異なる年齢、世代、グループの男女から情報を得るようにする。男女両方のリーダーや配偶者を特定するよう努力する。



- ➡ コミュニティは多様であることを忘れないこと。一つのコミュニティ内に複数のグループや影響力のあるリーダーが共存している場合がある。コミュニティで影響力のあるリーダーをすべて特定し、一つのグループだけが権力や影響力を持っていたり、同じ信念を持っていると決めつけないようにする。
- ➡ 信仰やその他のコミュニティリーダーが参加している、あるいは彼らを通じて連絡を取ることができる組織(FBOを含む)、ネットワーク、傘下団体を特定する。これらは、活動の味方になる可能性がある。また、女性グループ/ネットワーク、日曜学校、ユースグループなど、宗教指導者と関わりのあるようなグループも特定する。

## ステップ2:どのリーダーや機関と関わり、提携し、影響を与える必要があるかを特定する

このような影響力のあるリーダーのうち、男性参加活動を支持または反対する可能性のある人物を特定する必要がある。

- ➡ コミュニティ住民に相談し、プログラムに関連するサービスを提供するリーダーやその機関(地域保健ネットワーク、コミュニティ・プレスクールなど)を見つける。
- ➡ 女性グループや保護者グループのメンバーに相談し、現在の言動から、ジェンダー規範や役割の変化を支持し、ECDへの男性の参加を促進することができる指導者は誰か聞いてみる。同じように、どの指導者がこのような変化や行動に反対するかを尋ねる。
- ➡ コミュニティ開発の推進役やメンバーに相談し、これらの指導者と関わるのにどのような入り口が良いかを理解する。彼らがリーダーに働きかける必要があるのか、それともあなたが直接働きかけることができるのか。話し合いの入り口として使えるような、リーダーにとって特に優先事項があるか。
- ➡ パートナー組織や自治体に相談したり、文書を調査したりして、ステップ1で特定した指導者や機関について、ECD やジェンダー平等への男性の参加にどのような立場をとっているのかを調べる。
- ➡ 同じステップで、ステップ1で特定した信仰の指導者や組織のリーダーシップ機構について詳しく調べる。正式な、中央集権的な、あるいは階層的な特定の指導者制度があるのか。それとも、よりコミュニティレベルに近いところでリーダーシップが発揮される分権的な構造なのか。地元の指導者は、その組織内の上位レベルの影響をどの程度受けているか？ 地区レベルなどコミュニティレベルのリーダーと協働するために、上位レベルのリーダーと話をする必要があるか。

## ステップ3:影響力のあるリーダーに近づき、プログラムについて説明する。彼らの立場を理解し、「対象」となり得るリーダーを特定する機会とする

どのコミュニティプロジェクトや 社会規範やジェンダー規範を変える介入にも言えることだが、プロジェクトの実施前の計画段階から、コミュニティ住民(リーダーを含む)を巻き込むことが重要である。ECD の介入に男性が参加することを提案するため、話し合いを持ち、介入について説明し、コミュニティリーダー の見解を聞くことで、彼らとその介入を支持する見込みがあるのかどうか、以下の点を判断できる。

- ➡ コミュニティレベルのリーダー に直接アプローチする必要があるのか、それとも(特に信仰指導者の場合は)まず宗教団体の上位レベルの指導者にアプローチする必要があるのかを確認する(上述の通り)。
- ➡ リーダーやコミュニティリーダーシップ機構の主要な代表者にプログラムについて説明する。計画中の活動について、彼らの意見を聞く。適切な場合には、政府、開発関係者、コミュニティ住民をこうした話し合いに参加させる。

- ➔ 適切な言葉を使って、ECD、男性の参加、リーダーの支援の重要性について、説得力があり、取り組みの必要性についてリーダーを納得させられ得る情報や証拠を共有する。
- ➔ リーダーに、彼らのコミュニティにおける優先事項を聞く。ジェンダー平等や男性の参加、あるいはECDを広く支援する、あるいは支援できそうなプログラムを既に実施しているか。
- ➔ 誤った期待を抱かせることなく、リーダーの関心を引くような形で、提案する活動を組み立てる。男性のECD活動への参加と既存の取り組みが、どのように補完し合い、強化し合えるかを探る。
- ➔ 男性のECDプログラムへの参加に賛同し、支援する意思があるかどうかを探る。もしそうであれば、彼らはどのように男性のECDへの参加とジェンダー平等への支援を支援し、貢献することができるか。また、男性がECDに参加し、ジェンダー平等を促進するために、どのようなリソースや支援が必要だと考えているか。
- ➔ 特定された影響力のあるリーダーが活動に反対を表明した場合、彼らの懸念について話し合い、理解するよう努める。活動に対する誤解を解き、権利に基づくジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチに沿った方法で、彼らの懸念に対処する方法を特定するよう努める。
- ➔ これらの交流と、すでに集めた情報に基づいて、どのリーダーを対象に、どうするかを決める。同盟者と組むのか、敵対者と組むのか、あるいはその両方と組むのか。それぞれの選択肢で、どんなチャンスがあるのか。それぞれの選択肢のリスクは何か、そしてそれらにどう対処できるか。
- ➔ 対象とするリーダーを決めた上で、その人たち一人ひとりに対して、どの程度アプローチを調整する必要があるかを検討する。取り組みに強く反対するリーダーとは一切交流しないと決めたとしても、将来の対話のために「ドアを開けておく」ことは良い考えである。

## ボックス2: 味方、敵対者、あるいはその両方との協力が: チャンスとリスク

- ジェンダー平等をある程度支持していることを既に示しているリーダーは、男性の参加を受け入れやすく、より寛容である可能性がある。
- 変革に抵抗するリーダーを排除すれば、彼らがあなたのやろうとしている仕事にさらに強く反対するようになるかもしれない。
- コミュニティによっては、反対派が味方よりも多かったり、影響力のある味方が少なかったりする場合があります。このような場合、味方だけで活動することにしても、彼らの集団的影響力は弱く、大きな変化を促すことはできないかもしれない。
- より困難ではあるが、反対者の態度や認識を変えることに成功すれば、規範や人びとの行動を変える可能性が大きくなるかもしれない。

## ステップ4: コミュニティリーダーに、ECD、ジェンダー平等、男性の参加に関する内省と共同学習の機会を提供する

コミュニティリーダーが、ECDへの男性の参加を促進するために、コミュニティの男女を支援し、協力しようとするのであれば、まず自らの態度や期待を振り返る機会が必要であろう。

このような考察の中心は、ジェンダー平等と男女の役割、男性性についての彼ら自身の経験、そして既存のジェンダー規範や態度が彼ら自身や他の人にとってどのように有害であるかについてである。また、妊産婦の健康やECDに男性が関わることで、女性や子ども、そして男性自身の生活がどのように改善されるかを伝えるために、リーダーたちは情報やツールを必要とすることが大半である。共に考え、学ぶ機会を持つことで、リーダーが男性の参加とジェンダー平等を支持し、それが男性に期待される行動であることをコミュニティに伝えることになるのが理想的だ。また、指導者自身がパートナーとして、父親として関与することにもなる。そうすることで、期待される行動という点で新しい「普通」を作る手助けをすることになり、周囲の人もそれに従う可能性が高くなる。

- ▶ 味方と反対者の両方と活動する場合は、各グループに合わせたアプローチが必要かどうかを判断する。男性グループやカップル・グループ(第2章参照)を実施する場合と同様、まず味方と協力することから始め、次にその味方が、同じコミュニティで反対派である他のリーダーに働きかけ、協力してもらえよう支援するのがよいだろう。
- ▶ プロジェクト設計の段階で、男性がECDに関与する根拠について共通の理解を築く。
- ▶ リーダーとの話し合いや内省のために使用するガイドの内容が、女性の権利やジェンダー平等の原則や国内公約に基づいたものであることを確認するために、女性団体や女性問題やジェンダー平等の関連省庁や部署と連携する。このようなパートナーは、状況が適切であれば、ガイドの設計や改訂、内省セッションの実施を支援することができる。
- ▶ 複数のタイプのコミュニティリーダーと協働する場合、各タイプのリーダーに対して異なるアプローチを採用する必要があるかどうかを検討し、別々の内省セッションを実施する。このことは、信仰の指導者と他のタイプの指導者、あるいは複数の信仰の指導者と関わる場合には、特に重要であろう。
- ▶ 信仰指導者と共に使用する話し合いや内省のガイドを作成する際には、その内容やテーマについて、信仰指導者やそのリーダーシップ機構から意見を得る。この過程を、争点となる問題や懸念事項を率直に話し合い、聖典を特定し活用する機会として活用する。最終的な話し合いや内省に関するガイドが適切なものであり、指導者の賛同を得られるものであるように、セッションが始まる前に、指導者がそれを見直す機会を持つようにする。
- ▶ コミュニティリーダーとの内省セッションを進める人びとを特定し、準備し、適切に支援する。男性とそのパートナーへの働きかけに関する第2章では、これらのセッションにも同様に関連するファシリテーターに対する一般的な推奨事項を示している。FBOの代表者やパートナースタッフを、信仰指導者との内省セッションのファシリテーターとして参加させ、研修することもできる。
- ▶ 男性やカップルのグループセッションと同様に、ジェンダー平等、規範、役割、関係性についての考察に移る前に、ECDの重要性や幼児が成長し発達するために必要なこと、また妊産婦の健康や幸福の重要性など、あまり機微ではないテーマからコミュニティリーダーとの話し合いを始めることを検討する。不必要に抵抗を生み出さないよう、ジェンダーについて話し合う際の言葉遣いには気をつけること。



### ボックス3:内省のためのリソース

「[Fathers Club Manual](#) for the Multi-Country SHOW Project」には、コミュニティリーダーと一緒に使えるセッションがある。Wits Centre for Diversity Studies、Institute of Development Studies、Sonke Gender Justiceが開発した[Faith, Gender and Sexuality Toolkit](#)にも、特に信仰指導者との内省セッションや会談で使える内容がある。すべてのリーダーに対して、ロールプレイやゲームを含めることは不可能であるか、適切でないかもしれないが、議論、内省、対話を促進するために、指針となる質問と重要なメッセージを使用することができる。また、[Global MenCare の映画](#)をいくつか共有して、話し合いのきっかけを作ることができる。以下は、役に立つと思われる活動例:

- ジェンダーの考え方と役割 活動3: 価値観の明確化、活動5: 男の箱、活動6: ジェンダーステレオタイプ (SHOW Fathers Club Manualより)
- 宗教におけるジェンダー規範(宗教指導者向け)。信仰・ジェンダー・セクシュアリティ・ツールキットの「問題を討論する」という活動
- カ。活動7: 人と物(SHOW Fathers Club Manualより)、または活動 誰が一番上か (Faith, Gender and Sexuality toolkitより)
- 健全な人間関係 活動13: 決定を下すのは誰か; 活動14: 暴力とは何か; 活動16: 健全な人間関係 (SHOW Fathers Club Manualより)。宗教指導者にとっては、これらのトピックについて話し合う際に、宗教のテキストに健全で公平な人間関係が記述されているか、あるいはどのように促進されているかについて話し合うことは、特に有益である。

### ステップ5:コミュニティにおける男性のECDへの参加を促進するため、リーダーと協働する

内省セッションや話し合いを通じて、どのリーダーが参加する意思があるかを確認する。コミュニティとどのように協力できるか、どのようなリソースやサポートが必要かを尋ねる。変化を促進するために、コミュニティリーダーを支援する方法はさまざま:

- ➡ コミュニティリーダーは、自らが参加する男性であることを示すことで、新しい行動が「普通」であることを示すことができる。
- ➡ コミュニティリーダーは、ECD、妊産婦の健康、男性の参画、ジェンダー平等を支援するための行動をとることを誓い、また他の人に積極的な行動を求めることができる。例えば、提言活動や他のリーダーとのセッションで、育児やANCへの男性の参加を促すために、リーダーを招き、自らの取り組みを発言してもらうことができる。
- ➡ コミュニティリーダーは、金曜礼拝、日曜礼拝、コミュニティフォーラム、結婚相談など、既存の機構や定期的な行事を通じて、男性の参加と ECD に関する情報を提供できる。リーダーが日常的な活動の一環として使用できるよう、明確で正確なメッセージの入ったツールやリソースを提供することを検討する。
- ➡ コミュニティリーダーは、「早期受入者」、つまり、幼い子どもの発育を支援する保護者としてすでに関与している男性(たとえそれがコミュニティの共通の期待を反映していない場合でも)を特定し、早期受入者の支援グループを構築する手助けをすることができる。
- ➡ コミュニティリーダーは、ECD、男性の参加、ジェンダー平等について、コミュニティ住民と深く分かち合い、批判的な内省と対話の機会を設けることができる。例えば、集会を開いたり、現在進行中の他の過程における男性の参加について話し合う場を設けたりすることができる(ボックス4参照)。

- ➡ コミュニティリーダーは、多くの状況において政策立案者に影響力を持っていることを認識し、政策変更を求める強力なパートナーとなり得る。特定の問題について発言するよう、主要なリーダーを招待することもできるが、明確で統一されたメッセージが伝わるよう、厳選し、支援することが必要である。

#### ボックス4: ジェンダー規範と男性の関与に関するコミュニティの対話と批判的内省の場の創出

コミュニティリーダーを支援し、より広範なコミュニティのために対話と話し合いの機会を設けることができるかどうかを検討する。これは、変革の必要性と、どのような変革が可能かについての合意について、コミュニティ全体の意思決定を支援する重要なステップとなり得るからである。男性グループと同じように、コミュニティ主導の効果的な対話では、ファシリテーターは、参加者が持つべき「理想的な」ジェンダー規範や「正しい」振る舞い方を「教える」べきではない。そうではなく、参加者が自身の生活体験が、コミュニティ内のさまざまな個人やグループの福祉、健康、幸福にどのような影響を及ぼしているかを共有する手助けをするのである。多くの場合、さまざまなステップが含まれる:

- 啓発(コミュニティの誰もが同じ意見、経験、優先事項を持っているという暗黙の前提を見直し、それに挑戦する機会を含む)
- コミュニティ住民の間で、大切な価値観や守りたい価値観を共有し、どのように変わってほしいかという願いを共有すること
- 今後どのような行動が典型的で適切とみなされるかについて、集団的な意思決定を行うこと

男性グループと同じように、コミュニティの批判的内省を支援するには、通常、ジェンダーと権力を中心とするデリケートな会話を管理できるファシリテーターが必要であり、また、親切で、思いやりがあり、和やかで、非難や言いがかりをつけたり、「人を怒鳴る」ことを避けられる人が必要である。このようなコミュニティの対話と内省の過程には、(連続した短いワークショップではなく)数ヶ月かかることもある。男性の参加だけに焦点をあてた「単独」のプロセスではなく、差別的なジェンダー規範や、それが影響する行動(例えば、早すぎる強制された結婚など)について、コミュニティでのより広範な対話の中にこの問題を織り込む方法を検討することもできる。

以下の文書は、ジェンダー規範変革のためのコミュニティの批判的内省と対話に関する有用な情報を提供している。

- Beniamino Cislighi (2019). *The potential of a community-led approach to change harmful gender norms in low- and middle-income countries*. ALIGN
- Prevention Collaborative (2018). *Training and Mentoring Community Facilitators to Lead Critical Reflection Groups for Preventing Violence Against Women*.

#### ステップ6: 男性の参加促進に取り組むコミュニティリーダーを継続的に支援する

社会変革を促進するためのコミュニティリーダーとの協働には、多くの場合、関係や信頼を築くための時間を含む長期的な関与が必要となる。規範や権力構造を変えようとするとき、あるいは新しい行動の普及を図るとき、コミュニティからの抵抗や圧力に直面するリーダーは、継続的な支援を必要とする可能性が高い。

- ➡ コミュニティとの協働を始める前に、リーダー自身がこの活動で何らかのリスクに直面する可能性がないか、また、それをどのように軽減できるかを検討する。プロジェクトが継続する間、このリスク評価を定期的に行うようにする。

- ➔ リーダーとの定期的な面談またはピア対話セッションを実施し、課題の特定、解決策の支援、前向きな変化の検証と支援を行う。プロジェクト資金が終了する前に、こうした話し合いをどのように継続するかを計画する。
- ➔ 参加するリーダーのための支援ネットワークの構築を検討する。宗教指導者の場合、異なる宗教指導者間のつながりを育むために、宗教間対話の開催を検討する(適切な場合)。
- ➔ 経験豊富な信仰や伝統の指導者を支援に参加させる。彼らには実体験があり、潜在的な障壁や反発に対処する方法を提案することができる。また、メンターシップを行うことで、内省セッションの後も指導を続けることができるため、持続可能性を高めることができる。
- ➔ 可能かつ必要な場合には、内省と学びのために、更なる知識の共有やネットワーキングのためのイベントや再教育セッションを開催する。



コミュニティリーダーを巻き込み、動員するための主要ステップを示したワークシート

調査すべき質問/テーマ	情報/データ
<b>ステップ1: リーダーの特定とマッピング</b>	
1) このコミュニティ/これらのコミュニティにはどのような宗教または宗教団体が存在するか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• このコミュニティ/これらのコミュニティには、男女を問わずどの宗教指導者がいるか</li> <li>• このコミュニティで最も権力を持ち、影響力を持つ宗教指導者や宗教団体はどこか。人は誰に注目し、耳を傾げるのか</li> <li>• これらのコミュニティで活動しているFBO、ネットワーク、グループはあるか。コミュニティにとって影響力のあるのはどれか。特定した影響力のあるリーダーと協力しているのはどれか</li> </ul>	
2) このコミュニティ/これらのコミュニティには、男女を問わずどのような伝統的リーダーがいるか。このコミュニティで最も権力と影響力を持っているのは誰か。人は誰に注目し、耳を傾げるのか。	
3) このコミュニティ/これらのコミュニティには、政治的リーダー(たとえば、選出された村の役人)がいるか? このコミュニティで最も権力と影響力を持っているのは誰か。人は誰に注目し、耳を傾げるのか。	
4) 男性であれ女性であれ、宗教的/伝統的/政治的リーダーでなくても、コミュニティで影響力があり、思想的リーダーと見なされている大人は、他にいるか。いる場合、それは誰か。	
5) 特定した影響力のあるリーダーは、ネットワーク、連合、または傘下団体に参加しているか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• これらのリーダーと、既に協力関係を築いているだろうか。そのどれかが、まだ関係のないリーダーと関わるための手段になり得るだろうか。</li> </ul>	



## ステップ2: どのリーダーや機関と関わり、提携または影響を与える必要があるかを特定する

- 1) これらのリーダーの中に、父親を歓迎するよう支援できるような、コミュニティに根ざした介入プログラム(子育てプログラム、コミュニティ保健ネットワーク、コミュニティ・プレスクールなど)を監督している人はいるか。もしあれば、どのプログラムを支援しているか。
- 2) コミュニティメンバーによると、影響力のあるリーダーは、ECD、ジェンダー平等、女性の健康とエンパワーメントにおける男性の関与について、どのような見解を持っているのか。
- 3) コミュニティの男女は、どのようなリーダーがジェンダー規範や役割の変化を支え、男性の ECD への参加を促進できると考えるのか。
  - リーダーはどのような発言をし、どのような行動で支持を示したのか。
  - これらのリーダーは、日々の行動やコミュニケーションにおいて、家庭の意思決定、育児、家事などのジェンダーステレオタイプの役割にどの程度挑戦しているか。
- 4) コミュニティの男女は、ジェンダー規範や役割の変化、ECDへの男性の参画に反対するリーダーは誰だと考えているのか。
  - リーダーは何を言い、どのような行動で反対の意思を示したのか。
- 5) コミュニティで影響力を持つリーダーは、変化を起こすためにどれだけの力を持っているのか。誰がその力を持っているのか。
  - 宗教指導者が所属する宗教団体内の意思決定構造はどのようなものか。組織内には、正式な中央集権的あるいは階層的な指導体制があるのか。それとも、コミュニティレベルの信仰指導者が独立して意思決定を行い、行動できるような分権的な構造になっているのか。
  - 伝統的リーダーまたは政治的リーダーは、どのような意思決定構造の中にいるのか。
- 6) 影響力のあるリーダーと関わるための最良の切り口は何か。
  - コミュニティレベルのリーダーにアプローチする前に、より高いレベルの組織(宗教、政治など)のリーダーに話をし、彼らの賛同と支持を得る必要があるのだろうか。
  - 異なるレベルの信仰指導者にアプローチしたい場合、遵守すべき宗教界の規定とは何か。
  - 伝統的リーダーにアプローチする場合、遵守すべき伝統的リーダーシップ構造の規定とは何か。
  - 政治リーダーにアプローチする場合、地方自治体や機関の規定はどうであるか。
  - 異なるレベルのリーダーと接触し、アプローチする機会となる特定のテーマやイベントがあるだろうか。

調査すべき質問/テーマ	情報/データ
7) ジェンダー的役割、期待、人間関係に関して、これから活動する地域に存在し、影響力を持つ宗教的コミュニティの価値観、原則、教義、教えは何か。	
<b>ステップ3: 影響力のあるリーダーにアプローチし、プログラムを説明する。彼らの立場を理解し、「対象」となりうるリーダーを特定する機会として活用する。</b>	
1) どのような証拠やメッセージが、こうしたリーダーに有効なのか。使えるデータはあるか。(宗教的、伝統的、政治的)リーダーがジェンダー規範の変化や男性のECDへの参加を支援している事例を、活動地域や他のコミュニティから集めたか。	
2) 特定した影響力のあるリーダーにどのようにアプローチする予定か。例えば、1対1の面談なのか、コミュニティや自治体・地区でのイベントなのか。紹介を促進するための人脈が必要か。	
3) 影響力のあるリーダーへのアプローチにどのスタッフ(男性、女性)が関わるかを特定し、彼らがその過程に十分に備えられるようにしたか。	
4) 提案されているプロジェクトについて説明するためのリーダーとの最初の話し合いに基づいて、どのリーダーをこの取り組みの対象にするかを決めたか。	
5) 参加を期待しているリーダーにとってのリスクは何か、そのリスクをどのように軽減するのが最善かを特定したか。	
<b>ステップ4: ECD、ジェンダー平等、男性の参加に関する内省と共同学習の機会をリーダーに提供する</b>	
1) どのリーダーを内省と学習のセッションに招く予定か。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• これらのリーダーは、ECD、男性の参加、ジェンダー平等に関する研修を受けたことがあるか。</li> </ul>	
2) この内省セッションの目的は何か。これらの目的を達成するために、どのような内容にする必要があるか。	
3) 話し合いや内省の手引きとその内容/テーマについて、誰が意見を提供し、見直すべきか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 宗教指導者の場合、関与すべき主要な宗教指導者、神学者/宗教学者、政府代表者または代表者がいるか。もしあれば、彼らに参加を呼びかけたか。</li> <li>• また、話し合い/内省の手引きやその内容/テーマを作成する諮問委員会に、女性の権利団体の代表が加わっているようにしたか。</li> </ul>	
4) 誰がリーダーとの話し合いやセッションを進行するのか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 彼らに十分な準備をさせたか。</li> <li>• ファシリテーターがリーダーとのセッションを実施するために必要なリソースやサポートを備えているか。</li> </ul>	

調査すべき質問/テーマ	情報/データ
5) リーダーをその過程にどのように引きつけ、参加させ続けるのか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 上級リーダーもその過程に参加させることができるか。個々のニーズに合わせてプログラムをどの程度調整する必要があるか</li> <li>• 反対者を対象とする前に、(味方など)何人かのリーダーを先に対象とする必要があるか</li> </ul>	
<b>ステップ5: コミュニティにおける男性のECDへの参加を促進するために、リーダーと協働する</b>	
1) 各リーダーと、彼らがどのように彼らの共同体/コミュニティと働きたいか、また、彼らがこれを行うのに役立つリソースを特定したか。	
2) リーダーの活動を支援するリソースを開発または提供したか。例えば、男性に参加させる根拠の要約や、男性に参加させるための戦略に関する明確な指針などである。	
3) 男性の参加と ECD を支持することを示すために、リーダーが公の宣言をすることが可能であり、妥当であると思われる場所を特定したか。	
4) 地域や 国レベルで、リーダーが関与し影響力を行使できる可能性のある提言活動を特定したか。そのような活動への参加を促進したか。	
<b>ステップ6: ECDとジェンダー平等への男性の参加を促進するために、リーダーを継続的に支援する</b>	
1) この活動に携わるリーダーが直面する可能性のあるリスクを継続的に特定し、プロジェクト・リスク・マトリックスなど、その特定方法を確保したか。	
2) リーダーが定期的に集まり、進捗状況を振り返り、課題への対処方法を確認する機会を支援しているか。	
3) リーダーの継続的な学習と内省の機会を支援しているか。	
4) リーダーには、ネットワークや経験豊富な仲間からの指導など、何らかの支援体制が必要か。その場合、その導入をサポートしたか。	
5) プロジェクトが終了した後、このようなサポートや継続的な学習メカニズムをどのように持続させるかについて計画したか。	





© Plan International Philippines

## 第6章：男性の参加を支持する、ECDおよび社会保護政策の変化への影響力

本章は、養育ケアと ECD への男性の参加を可能にし、支援するために、法律、政策、政府の規制を変えることを目的とした、影響力と提言活動の指針を提供する。この章では、提言活動計画の全てのステップや手段について深く説明するわけではないが、特に ECD（保健や早期教育を含む）や社会保護政策において、男性の参加を促すような公共政策の変さらに影響を与えるための政策提言活動計画を体系的に立案し、実施する国を支援するのに十分な情報を提供することを目的としている。内容は以下の通りである。

- 政策と政策変更の意味についての説明を含む序論
- 影響力戦略の設計と実施における主な手順
- 各ステップのテンプレートとワークシート

## 序論

本章では、Promundoとプラン・インターナショナル・カナダが2016年から現在まで実施し、カナダ政府の資金援助を受けているSHOWプロジェクトを通じて作成した「[Mencare \(2018\) Advocacy Guide for Mencare partners: male engagement in maternal, new-born and child health/sexual and reproductive health<sup>75</sup>](#)」を大いに活用している。この提言活動の手引きにあるように、政策提言とは、**公共政策**、すなわち政府（または地方、国、地域、国際的な影響力を持つその他の統治機関）が採用し、支持する法律、政策、戦略、その他の種類の規制、およびこれらを実施するための計画や予算の**変更に影響を与えることを目指す過程**を意味すると理解されている。**process that aims to influence changes in public policy**

効果的な政策提言は、以下の結果を生み出す。

- 既存の政策や規制の実施（専任の人的・財政的資源を通じたものを含む）
- 既存の法律や政策で必要な改善や変更（例えば、人権の枠組みと整合していなかったり、不明確であったり、誤って解釈されていたり、特定の個人や集団に悪影響を及ぼしているため）
- 新しい政策や規制の制定

男性参加型プログラムの場合、影響を与えるための大まかな目標は以下のようになる。

「地方自治体と国家政府は、幼い子どもの世話、養育、発育に対する男性の共同責任と、女性保護者の幸福、健康、主体性を男性が支援することを促進する政策とプログラムを実施する」

政策提言のプロセスは通常、以下を含む。

- 既存の政策を分析し、何を变えるべきかを特定する
- 政策決定プロセスを分析し、政策提言の機会を特定する
- 政策ポジションと提言、および政策ブリーフィングの作成
- ロビー活動、対面での面談、政策ブリーフィングやイベントなど、さまざまな方法を通じて、主要な対象である法律や政策の意思決定者に直接影響を与える
- キャンペーン、コミュニティ動員活動、教育活動などを実施することで、メディア、コミュニティ住民、その他の主要な利害関係者といった二次的な対象者ととも、あるいは二次的な対象者を通じて、これらの意思決定者に間接的に影響を与え、その結果、彼らが一次的な対象者に影響を与えるようにする。

## 影響力戦略の設計と実施における主なステップ

以下のセクションでは、主要なサービスが男性の参加を支援し、公共政策やプログラムが全体として男性の育児やケア労働の分担責任を促進し、男性がジェンダー平等を支援するよう、政策変さらに影響を与える戦略を立案・実施するために通常とられる主要なステップを説明する。

ステップ1: 状況を分析する: 男性はどのように関与しているのか、また、男性の関与が限定的である背景にはどのような政策ギャップがあるのか

ステップ2: 男性の参加に関連する政策に権力と影響力を持つ人物を特定する

ステップ3: 優先的な政策変更、提言活動目標、具体的な目標を特定する

ステップ4: 対象を確認し、影響力のある人物、味方、潜在的な敵対者を特定する

ステップ5: 潜在的なリスクと意図しない悪影響を特定し、それらをどう軽減すべきか

ステップ6: 対象者や影響力のある人に響く主要メッセージを作成する

ステップ7: 政策提言の実施計画を練る

ステップ8: 実施と継続的モニタリングの開始

これらのステップ全体を通じて、効果的な働きかけの土台となるのは、現場に根ざした経験、証拠、そして人間関係であることを忘れてはならない。このため、働きかける活動は、あなたの組織の男女との活動に根ざしたものであることが不可欠であり、また、関連性があれば、同じ男女が働きかける戦略の異なるステップに参加することを支援する必要がある。

これらのステップに忠実に従うことを期待されてはいないことに留意すること: 順番を変更したり、いくつかのステップを並行して実施したりすることもある。計画を立てる際には、求めている変革の性質によっては、目標達成に何年もかかる場合もあることも忘れないこと。「早い者勝ち」のチャンスもあるかもしれないが、中長期的な計画が必要なことも多い。また、目標達成に向けた進捗状況を把握できるよう、中間的な成果を出すことも極めて重要だ。

### ボックス1: MenCareの教訓: 統合的なプログラムと働きかけによる相乗効果の機会の創出

可能な限り、男性の参加を促進するプログラミングと影響力のプロセスを統合することが重要である。ジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラムに参加している男性やカップルは、働きかけに情報を与え、強化するために欠かせないパートナーである。ルワンダでは、ANCや出産への男性の参加に対する障壁を取り除くよう提唱しているMenCareのパートナーが、父親グループの男性を医療従事者向けの研修セッションに招待した。保健省とともに企画されたこのセッションは、医療従事者や政策立案者にとって、男性や女性の実体験を聞くまとない機会となった。これにより、男性がより深く関わろうとする際に直面する課題について重要な対話が生まれ、保健当局の具体的な約束につながった。このような機会は、あなたの働きかけが抽象的な概念を超え、さまざまなサービスにおける男女の経験の現実スポットライトを当てるのに役立つだろう。

### ステップ1: 状況を分析する: 男性はどのように関与しているのか、また、男性の関与が限定的である背景にはどのような政策ギャップがあるのか

政策提言の優先順位と目標を設定する最初のステップは、入手可能なデータや情報(例えば、二次データ、プロジェクトの基本方針のデータ/情報、因果関係分析(ジェンダー分析を含む)、形成的調査など)を用いて、**証拠に基づく状況分析**と政策分析を行うことである。最初のステップの目的は、以下を特定することだ。

- 男性の養育ケア/ECDおよび/または妊産婦の健康への関与の度合い
- 主要なサービス(MNCH、栄養サービス、ECCEサービスを含む)レベルにおいて、男性の参加に障壁や障害があるかどうか
- ECD(および妊産婦の健康/幸福)への男性の参加に関連して、現在どのような政策があるのか、また、それらが男性の参加をどの程度可能に・促進・阻害しているのか
- ECDおよび妊産婦の健康/幸福への男性の参加をより促進し、可能にするために、既存の政策を適応または改善する必要があるかどうか、またどのようにすべきか
- 男性のECDと妊産婦の健康への関与を促進し、可能にするための全く新しい政策が必要なのはどこか

検討すべき政策分野には以下のようなものがある。

- ➔ ECDや関連分野の政策(MNCHやECDなど)は、男性が幼児の養育や発達に関与することや、妊産婦の健康や幸福を男性が支援することを、どの程度可能にしているのか、あるいは妨げているのか。



- ➡ 関連サービス(MNCHやECCE/就学前教育サービスなど)の規制や基準は、男性の参加をどの程度可能にしている、あるいは妨げているのか。
- ➡ 国のECD人材政策は、報酬、研修、評価、キャリアアップの面で、ECDや小学校低学年指導を、男女にとって価値ある魅力的な選択肢としてどの程度位置づけているか。ECD研修への登録やECD人材への採用において、男性はどの程度対象とされているか。
- ➡ 社会的保護政策は、女性だけでなく男性もどの程度利用でき、どの程度受け入れているか。育児休暇制度はあるか。産休だけでなく配偶者出産休暇もカバーしているか。ケア労働の再分配と男性のケア労働への参加を促進する政策があるか。

本章の最後にある政策分析テンプレートを使って、養育ケア、ECD、妊産婦の健康/幸福への男性の参加に影響を与えるような政策、戦略、規制/規定、予算があなたの国で実施されているのか、そして誰がそれらを形成し、実施する責任があるのかを特定し、評価することができる。このテンプレートには、分析が可能な法律、政策、規制、手続きの例がいくつか含まれている。



場合によっては、男性の参加に関する政策目標や公約は、国や地方の女性政策やジェンダー政策・戦略、あるいは保健、社会保護、教育サービスにおけるジェンダー配慮に関する具体的な政策に明示されている場合がある。さらに、男性のECDへの参加や妊産婦の健康支援に影響を与えるような政策は、国、州、県、小地区、またはサービスレベルで存在し、保健省、教育省、社会問題省、国の教育委員会、県の保健局、または地域の保健委員会など、さまざまなレベルの個人や機関によって実施または施行される可能性がある。従って、既存のジェンダー政策、関連する分野別政策(保健、教育、社会保護)、異なるレベル(国、県、地域)で存在する政策を見直すことが重要である、これらのすべてがECDや妊産婦の健康への男性の参加に言及したり、促進したり、妨げたりする可能性があるからである。また、異なるセクター(例:保健や教育)や異なるレベルの政策に相違や矛盾がないかを確認することも重要である、なぜならこのような矛盾は最終的に提言活動の優先事項となり得るからである。

## ステップ2: 男性の参加に関連する政策に権力と影響力を持つ人物を特定する

この時点で、(ステップ1で特定した)さまざまなレベルの主要な法律や政策の意思決定者、つまり、男性の参加のための政策変更を支援し、主導するよう働きかける必要があると思われる機関や個人、つまり、あなたの提唱対象となる可能性のあるアクターを確認する必要がある。また、男性の参加を支援する政策変さらに反対する影響力のあるグループがあるかどうかを確認する必要がある。例えば、いくつかの国では、ジェンダー平等や女性のエンパワーメントの取り組みは行き過ぎた、あるいは男性や男の子を軽視したと主張する男性(そして一部の女性)の組織化されたグループからの「反発」がある。このようなグループは少数派かもしれないが、目に見え、声も大きく、環境によっては影響力を持つ可能性もあり、ジェンダー化された力関係や規範についての対話を頓挫させるように働くかもしれない。

男性の参加促進政策に関して、誰が権力を持ち、誰が関心を持ち、誰が影響力を持っているかを特定するには、以下のような簡単なマトリックスが役立つ。これは、誰が主要な提唱対象者となり得るかをマッピングするのに役立つ。

	低い影響力	高い影響力
高い関心		
低い関心		
利害の対立		

### ステップ3: 優先的な政策変更、提言活動目標、具体的な目標を特定する

本章の冒頭で述べたような広範な影響を及ぼす目標、つまり、**幼児の世話、養育、発達に対する男性の共同責任を促進する政策やプログラムを地方や国が実施すること、また、女性の保護者の幸福、健康、主体性を男性が支援することを促進すること、に貢献するさまざまな政策的要請があるかもしれない。**

政策や提言活動を効果的に行うには、焦点を絞り、明確な政策「要請」を作成することが重要である。優先順位の高い「要請」は、通常、前のステップで特定したギャップのうち、変更が可能だと思われるものを反映させる。

優先事項の「要請」は、常に新しい政策に言及する必要はなく、また常に国家レベルである必要もないことを忘れないこと。政策要請は、地域レベル、国レベル、州レベル、県レベル、小地区レベル、コミュニティレベルで行うことができ、主要な個人や機関に以下のことを求めることができる：

- 新たな政策を策定する
- 既存の政策を変更する
- 検討中または草案段階の政策を採択する
- 否定的な結果をもたらすと評価される政策の採用を阻止する
- 既存の政策や戦略を実施する、あるいは(人的・財政的)リソースを十分に投入する
- 既存の政策の実施を監視・評価する
- 政策や戦略のための資金調達を増加や多様化
- 政策開発、検討、実施、モニタリングに市民社会の主要な利害関係者を参加させる

理想的には、政策的な要請をできるだけ具体的に定義するようにすべきだ。具体的な要請は以下のようである。

- ➡ 男性のMNCHサービスへの参加や存在を禁じている規制上の障壁を取り除く。
- ➡ 男性のMNCHサービスへの参加を促進・支援する規定またはSOP(診療所管理規定など)を設ける(例えば、(母親だけでなく)働く父親にも対応できるよう、夜間や週末に代替診療時間を設けるなど)。
- ➡ 医療サービスのインフラを改善する(例えば、出産病棟にはプライバシーを守る仕切りがあり、女性が(希望すれば)出産時に男性パートナーを立ち合わせることができる)。
- ➡ 公立の就学前教育機関で働く就学前教師が、男性のECDと早期学習への参加を促進・支援するために必要な訓練を受け、必要なスキルを身に付けていること。

優先政策が決まったら、**提言活動の目標と目的、そして進捗を測るための指標を定めること**。目標、目的、指標は、優先する政策的要請に直接関連し、それを反映したものでなければならない。

**提言活動目標**は通常、貢献しようとする影響のことを指す。それはより高い目標であり、将来のビジョンを伝えるものである。そのため、通常は長期的なものだ。例えば、男性参加を促進する活動が貢献しようとする全体的な目標は、以下のようなものが含まれるかもしれない。

- 保護者から養育と保護を受け、身体的、社会的、情緒的、認知的発達が順調な子どもの数を増やすこと。
- 推奨されている8回のANC訪問に出席し、技能を有する出産立ち会い人のもとで出産する女性の数を増やすこと。

男性の参加がこのような高い目標にどのように貢献するのか、また、男性の参加が活動の目的ではなく手段であることを説明することが重要だ。そうすることで、法律や政策決定者が、具体的な政策的要請や男性参加の目標が、**その政策や戦略で説明されている健康や開発の全体的な目標に**どのように貢献することを目指しているのかを理解することができる。

一方、**提言活動目標**とは、この大きな目標やビジョンに到達するために必要な、段階的で現実的な手順を指す。提言活動目標は、政府、機関、組織の政策、プログラム、立場において、達成を目指す具体的な変化を概説するものでなければならない。また、時間に制約があり、的を絞った測定可能なものでなければならない。特定の機関の主要な意思決定者が取る具体的な行動を明確にする必要がある。

前のステップでは、政策提言活動を通じて影響を与えたいさまざまな法律、政策、戦略、規制の策定や施行の責任者がどの機関の誰であるかを確認した。これらの人びとが第一の対象者であることが多い。しかし、最も明白な「対象者」、例えば保健省や教育省の政策立案者が、必ずしも最も影響力のある重要な人物であるとは限らないことを忘れてはならない。例えば多くの国では、財務省が、どの政策が予算化され、財源が確保されるかを決定する重要な役割を担っており、その結果、政策が完全に実施される可能性が高くなる。

明確で具体的な提言活動目標を持つことで、政策立案者や意思決定者(変化を起こす力を持つ人)は、彼らが何を求められているのかを理解しやすくなる。要請が明確でなければ、あなたの努力が望むような変化をもたらす可能性は低い。最後に 明確な目的を持つことは、採用すべき最適な提言や戦略を特定する上でも役立つ。



© Plan International Dominican Republic



## 指標の定義

目標と目的を特定したら、それに対する進捗を追跡するための指標を定義する必要がある。指標には3種類ある。

- プロジェクト/提言活動目標の指標
- 具体的な提言活動目標の達成に向けた進捗状況を把握するための指標
- 第一の対象者(法律や政策決定者)の知識、態度、行動の変化を測定する指標であり、これらのアクターが政策の変更を主導したり支援したりする前に必要とされるもの。



本章の最後にあるステップ3のワークシートを使って、男性の養育ケアやECD(そして妊産婦の健康/幸福)に対する提言活動目標と目的を定義し、記述できる。この表は、後のステップであなたの働きかけ戦略の策定に役立てることもできる。このテンプレートでは、例として、男性のMNCHへの参加に関する提言活動目標、目的、指標のアイデアを示している(これらはPIカナダ/Women and Their Children's Health project [SHOW]から引用したものである)。

## ステップ4: 第一対象を確認し、影響力のある人物、味方、潜在的な敵対者を特定する(第二対象)

ステップ2で行ったマッピングは、この問題を提唱する上で味方となりうる個人や組織を特定するのにも役立つ。同じような目標や関心を持つ他の組織と協力すれば、より強い発言力を持つことができる。また、他のアクターや組織は、あなたの第一対象者や潜在的な反対者に対して、より大きな影響力を持つかもしれない。つまり、政府内にこの問題を支持する影響力のあるアクターがいるかどうか、あるいは、あなたの政策の優先事項に関連する提言活動を行っている他の組織や団体がいるかどうかを確認するのだ。最も重要な潜在的味方は、通常、高い関心を共有し、高い影響力を持つ組織である。

第一対象、第二対象の情報は、下記の簡単なテンプレートに登録できる。

ステップ4 ワークシート: 対象者、影響力のある人、味方を特定する	
探求すべき質問/テーマ	コメント
1. 養育ケア、ECD、妊産婦の健康と幸福への男性の参加を促進するために、どのような政策を目標とするか。	
2. 男性のECDや妊産婦の健康と幸福への参加を促進するために、具体的にどのような政策「要請」(または望ましい政策変更)があるか。	
3. 求める変化を実現する力を持ち、それゆえに提言活動の第一対象となるのは、どのような個人または組織か。	
4. この問題を提唱する上で、どのような個人や組織が味方となるか。この問題を支持する影響力のある政府関係者はいるか。現在、この問題を支持して提言活動を行っている他の組織や団体はあるか。	
5. この政策変さらに反対しそうな個人や組織はあるか。彼らの影響や影響力を最小化し、誰がその手助けをできるか。	

## ステップ5: 潜在的なリスクと意図しない悪影響を特定し、それらをどう軽減すべきか

ECDや妊産婦の健康への男性の参加を提唱することは、妊産婦や新生児の健康、子どもの発達と学習、ジェンダー平等の改善に貢献する、より大きなジェンダー・トランスフォーメティブ戦略の一部である。そのため、提言活動戦略を策定する際には、ECDや妊産婦の健康への男性の参加に関する政策変更を提唱することが、女性の健康や主体性、自律性に与えるリスクを認識することが重要だ。例えば、良かれと思って行った政策変更が、意図しない結果を招き、女性の健康や自律性を損なう、あるいは制限するような慣行や行動につながったり、男性をさらに優遇したりする可能性がある。従って、男性参加に向けた政策変更を提唱する際には、特定の状況下で起こりうる結果を考慮し、それを軽減する方法を決定することが重要である。

ボックス 2 では、MNCH や SRH への男性の参加を促進する際に、いくつかのプログラムで発生し、考慮する必要のある意図せざる負の結果について説明する。あなたの状況に特有のリスクは他にもあるかもしれない。これらの例は特に MNCH について言及しているが、ECD における男性の参加を促進する場合の原則は同様である。

### ボックス2: MNCH/SRHへの男性の参加に伴う、政策への働きかけの潜在的リスクと悪影響

MNCHやSRHにおける男性の関与を促進する政策が、意図せず女性の保健サービスへのアクセスを制限する形で実施されているケースもある。例えば:

**女性のサービスの利用を減らす、あるいは拒否する。** 男性参加を促進する政策が、ANCへの男性の参加を義務的なもの、つまり女性がサービスを利用するためには男性パートナーの同伴が必要であるとしている場合がある。また、政策が不明確であったり、政策に対する理解が不十分であったりするために、医療従事者が男性参画政策を女性のパートナー同伴を義務付けるような形で解釈・実施したり、女性が望まない場合にパートナーを同伴させるよう、圧力をかける場合もある。その結果、男性パートナーがいない、パートナーの都合が悪い、パートナーの同席を望まないなどの理由で、男性パートナーを伴わずにANCサービスを受けようとする女性は、ANCサービスの利用を拒否されるケースがあり、健康に重大なリスクをもたらす。さらに、一部の政策では、男性パートナー同伴の女性を優遇することで、男性の関与を促進しようとしており、先に到着した単独の女性より先にサービスを提供していた。保健施設の特にMNCHやSRHサービスに男性を参加させるための厳しい実績指標(または金銭的奨励)は、この問題の一因となり、女性がサービスを受けられず、権利を否定されることにつながる。

**女性の健康と意思決定に対する男性の支配を強める。** 家族計画、ANC、出産などのMNCHやSRHサービスへの男性の参加を促進することは、女性の身体やヘルスケアに関する決定を男性が支配する状況を作り出すことで、ジェンダー平等の努力を意図せず損なう可能性もある。医療従事者がジェンダーに配慮した保健サービスに関する訓練を受けていない場合、MNCHやSRHの相談時に男性に譲ったり、女性自身のヘルスケアに関する決定を男性に求めたりすることがある。

このような状況では、女性の健康とジェンダー平等を促進することを意図した政策変更が、女性、特に思春期の女の子やユース女性に有害な影響を及ぼしている。MNCHおよびSRH政策への男性の参加は、女性の保健サービスへのアクセスを抑止または否定するような方法で、あるいは女性が自らの身体に関する意思決定を制限するような方法で、決して推進されるべきではない。

このようなリスクをどのように軽減するか、最初から決めておく必要がある。評価されたリスクが大きすぎて対処できない場合もあるだろう。その場合は、この特定の政策の変更を推進する時機ではない、あるいは政策を変更する必要があると判断してもよい。

Promundoの経験では、こうしたリスクや悪影響を回避するための唯一の戦略や答えはない。彼らが推奨するのは次のようなことだ。

- まず、政策がうまくいった例と、意図しない悪い結果を招いた例を挙げる。なぜ結果が違っていたのかを分析し、その情報を政策立案者と明確で利用しやすい方法で共有する。例えば、提案する政策変さらに関連する既存の証拠及び好事例をまとめた政策概要書を作成することができる。
- すべてのメッセージングで、男性の参加方針がジェンダー平等の原則に立脚していることを保証することの重要性を強調するようにする。これらの原則には、ANCの訪問、出産、またはPNCにパートナーを同席させるかどうかを選択する女性の権利が含まれる。男性の参加を促進する政策は、男性の参加を義務付けてはならないし、女性のケアよりも男性の参加を優先させてはならない（例えば、男性パートナー同伴の女性を優遇するなど）。すべてのメッセージはジェンダー・トランスフォーマティブであるべきであり、男性の参加を女性への厚意と決めつけることは避けるべきである。
- 政策や手続きの変さらに関する提言活動には、その実施を担当する公的機関への適切な研修への投資に関する提言活動も含まれる。
- 男性の参加に関連した成果目標や 奨励金を含めるよう主張することは避ける。経験上、これらは否定的な結果をもたらす傾向がある。例えば、奨励金がなくなれば、（男性参加は重要であるという信念ではなく、これが彼らの活動の原動力であったため）男性参加に取り組むのをやめるかもしれないし、ボックス2で説明するように、男性同伴でない女性はサービス提供の優先順位が下がるかもしれない。

主要な味方や 潜在的なパートナーを啓発し、協働し、世論の支持を集めることで、提案した政策変さらに関連する潜在的な反発やリスクをさらに軽減することができる。これについては、次のステップで説明する。

以下の簡単なテンプレートを使って、潜在的なリスクとその軽減方法を登録することができる。

質問	コメント
<p>男性の参加に関する具体的な提言活動目標や 目的に付随する、女性の健康、主体性、自律性に対する潜在的なリスクは何か。男性自身や 幼児にとってリスクはあるか。（当該国や他の文脈で、男性の参加活動中に現れたリスクを特定することができる）</p>	
<p>特定されたリスクは軽減できるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● もしそうなら、どのように</li> <li>● もしそうでなければ、政策「提言」の内容を変える必要があるか</li> </ul>	
<p>このようなリスク軽減戦略では、誰を対象にする必要があるか。</p>	



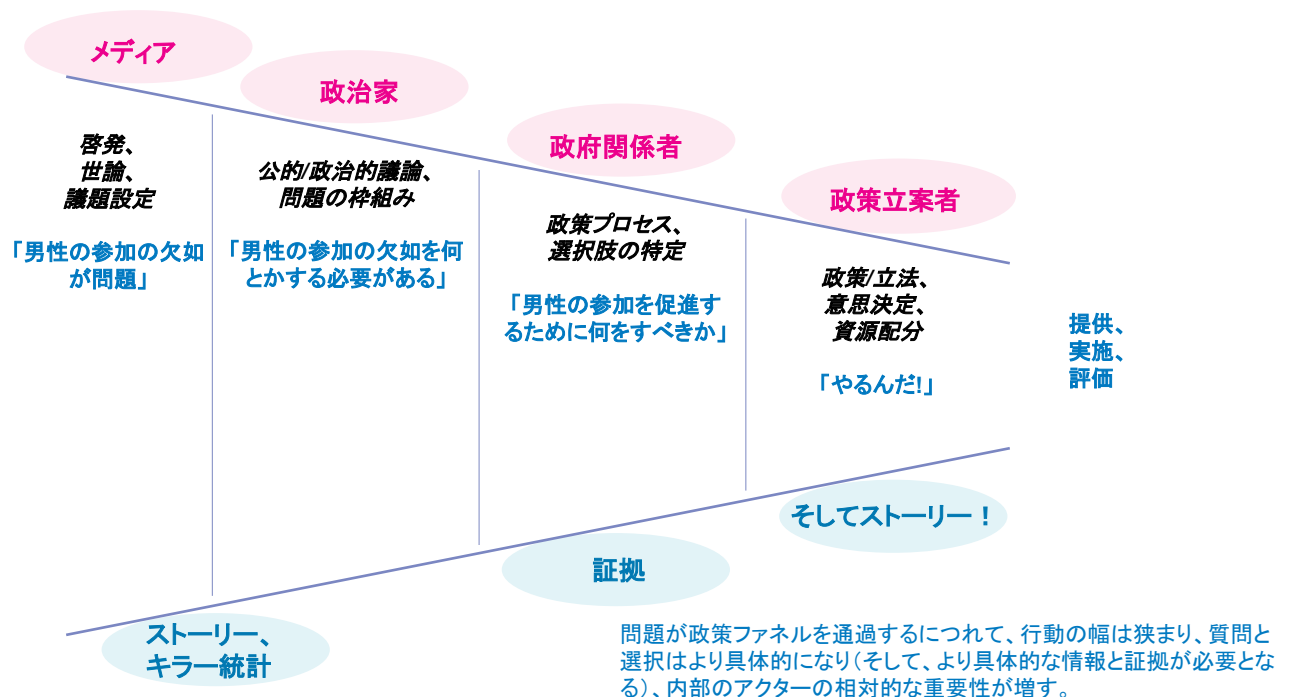
## ステップ6: 対象者や影響力のある人に響く主要メッセージを作成する

ステップ 1 で特定した量的データと質的情報の両方を用いて、ステップ 3 で特定した提言活動の要請を説明し、立証するための主要なメッセージと論点を明確にする。メッセージは、何が求められているのか、誰から、いつまでに、なぜそれが重要なのか、保健やECDの広範な目標にどのように貢献するのかを伝えるものでなければならない。異なる意思決定者に変革の必要性を納得させるためには、異なる証拠や根拠を伴う、異なるメッセージが必要になるかもしれない。

異なる証拠、情報、メッセージが、異なる時に必要とされるのも普通である。例えば、政策過程の初期においては、その問題を人びとの関心の的とすることが目的であるため、人びとの生活と共鳴するような「キラー」統計や説得力のあるストーリーが効果的である可能性が高い。その後、政策立案者や公的機関とより直接的に仕事をするようになれば、状況や効果的な方法についてのより具体的な技術的情報が必要になる(ストーリーが役に立つことに変わりはないが)。

つまり、メッセージを共鳴させ、説得力のあるものにするためには、影響を与えたい政策変更の責任者ごとにメッセージを調整する必要がある。

### 政策ファネル



Dan Jones, Director of Innovation and Change, Centre for Ageingより引用

以下は、キーメッセージを作成する際に役立つ5つの指針的質問だ。

1. どの法律や政策の意思決定者が第一の対象なのか、また、この問題に関連する彼らの役割は何か。
2. どのような証拠、あるいはどのようなメッセージが、こうした個人や組織を説得し、望ましい変化をもたらすのに最も効果的なのか。
  - その要請が、対象者の組織的・制度的優先事項をどのようにサポートするかを示すことができるか。政策変更が、その個人の組織の具体的な目標やその人の具体的な職責(再選のため、国家行動計画の達成のためなど)の達成にどのように貢献するかを示すのを助けるだろう。

例えば、その政策変更は、MNCH戦略や国家ECD戦略の実施や目標の達成にどのように役立つのか、あるいは、その政策変更は、市長や地区の保健・教育担当官が年間業績目標を達成するためにどのように役立つのか、などである。

- **政策変更の重要性、緊急性、有用性を強調するために、入手可能なデータをどのように利用できるか。**影響を与えようとする人の心に響くような情報を集めるべきである。メッセージは相手によって伝え方を変える必要があるかもしれない。例えば、以下のようなことが考えられる。

→ **経済的な事例はあるか。**例えば、医学部や看護学校の全学生を対象に、MNCH/SRHIに男性を参加させるための研修を国家カリキュラムに含めることで、単発の研修セッションを企画・提供する長期的なコストを削減することができる。

→ **公衆衛生の事例があるか。**例えば、パートナーが妊娠により深く関与している女性は、健康な妊娠のために重要なANCの受診回数が多いという証拠があるため、男性のMNCHへの関与を促進・支援することは重要である。

→ **個人的な訴えであるか。**例えば、これはその人個人の経験上重要な問題なのか。それとも、この個人にとって、選挙区のメンバーから直接政策変更の要請を聞くことが重要なのだろうか。

3. **二次対象**(メディア、保護者会、医療従事者団体など、一次対象に対して影響力を持つと特定したアクター)に**変革の必要性を納得させるには、どのような証拠やメッセージが最も効果的**と考えられるか。先ほどのアイデアは、ここでも使うことができる。

4. **方針変更に対して、どのような反対があり得るか。**Yあなたの提案する政策変更に反対するために使われる反対意見を予測し、その反対意見に対抗するための議論やデータを準備しておく必要がある。

- **主な反対意見は、政策変更は高コストであるということかもしれない。**初期費用がどのように長期的な節約に貢献するのか、情報を提供できるか。例えば、政策変更は、健康状態を改善したり、医療や社会サービスに高いコストをかけるような健康状態の悪化を抑止することで、節約に貢献するのだろうか。



- あるいは、提案した政策変更が地元の伝統や文化に反すると見なされるかもしれない。このような変更を支持し、地元の文化に支えられていることを示すコミュニティの例を共有できるか。
- あるいは、政策立案者が誤った、あるいは不完全な知識に基づいて、政策変更が意図しない悪影響をもたらすことを懸念している場合もある。例えば、就学前教育の男性教員を増やすと、子どもに対する虐待や暴力のリスクが高まるというようなことである。不正確な認識を覆す証拠を準備しておく必要がある。

#### 5. メッセージは、提言活動から生じる潜在的なリスクや悪影響に対処し、軽減しているかどうか。

求める変化を提唱する際の潜在的なリスクは、ボックス2で取り上げたような女性の権利や自律に対するリスク、あるいはあなたの組織や影響力のあるパートナーに対するリスクなど、すでに特定されているはずだ。すべてのメッセージは、このようなリスクに対処し、軽減または排除するように作成されるべきである。

この過程を通じて、協力しているコミュニティの女の子、男の子、女性、男性、そしてパートナーの声、認識、優先事項、証言を取り入れることを忘れないこと。

#### ボックス3:効果的なメッセージの要素

強いメッセージとは、信頼性があり、簡潔で、関連性があり、説得力があり、価値を伝えるものである。

- **信頼性。** 事実に基づいて正確であり、主張を裏付ける情報を提供し、そのテーマについて信頼できる人によって提供される。
- **簡潔さ。** よいメッセージは明確でシンプルである。人びとが理解し、記憶できる簡潔なメッセージは、長かったり、政策の瑣末な点を語るメッセージよりもはるかに効果的である。
- **関連性。** 相手の興味、つまり相手が既に知っていること、考えていることから出発し、相手をあなたの望む場所に移動させる。
- **説得力。** 人の心を揺さぶり、行動を起こさせる。
- **価値を伝える。** 人の核となる価値観(公正、平等、自由、正直など)に共鳴するように組み立てられたメッセージは、最も強力である。

Center for Health and Gender Equality (n.d.)より。Creating and Communicating an Effective Message. [http://genderhealth.org/files/uploads/change/Tools\\_for\\_Advocacy/Communicating\\_an\\_Effective\\_Message.pdf](http://genderhealth.org/files/uploads/change/Tools_for_Advocacy/Communicating_an_Effective_Message.pdf)

#### ステップ7:政策提言の実施計画を練る

直接的に、あるいはメディアや世間などの二次的なアクター/影響力を持つ人を通して、第一対象者にリーチし、感化させるためには、さまざまな戦略を用いることができる:

- 一対一での、もしくは対面面談
- 政策ブリーフィングと(ハイレベル)イベントや対話
- マスメディアへの働きかけ
- 指針、研究、出版物の作成 - 効果的であることを実証するプログラムに基づいて可能な限り構築すること
- コミュニケーションとキャンペーン - SBCCを含む
- 志を同じくする組織や個人と連合や同盟を組むこと

どのような戦略を展開するかは、第一対象者にどの程度アクセスできるか、関連パートナーや味方の数、利用可能な予算によって異なる。例えば、どのパートナーも第一対象者への有力なアクセス力を持たない場合、第二対象者に影響を与えることから始め、その第二対象者が第一対象者に影響を与えることができるかもしれない。多くの場合、複数の戦略を組み合わせることが最も効果的である。



どの方法で第一対象者にアクセスするにせよ、事例を述べる準備が必要だ:

- ➔ 背景を説明する:なぜ男性の参加が重要なのか。
- ➔ 男性の参加を促進するための政策変更がなぜ重要なのか(データ、ストーリー、証拠を挙げて)。
- ➔ 政策的要請とは何か:いつまでに、誰が、どのような政策変更を行うべきか。
- ➔ その政策変更を行うことで、どんな結果や成果がもたらされる可能性があるのか:どのような利益をもたらすのか、どのような目標の達成に役立つのか。



このモジュールの最後にある、このステップのためのワークシートを使って、パートナーや味方と働きかけの計画を練ることができる。

## ステップ8:実施と継続的モニタリングの開始

働きかけは一度限りのものではない。長期的な関係構築、コミュニケーションと教育、そしてフォローアップが必要だ。

- 計画で特定した各活動を実施した後、フォローアップが必要かどうかを判断する必要がある。例えばお礼の手紙は必要か、より多くの情報やリソースを提供することに同意したか、政策決定者は、フォローアップが必要な公約をしたか、など。
- 各活動は、提言活動対象者や味方とのフォローアップを必要とする場合がある。
- このため、提言活動計画は、常に更新・改訂される生きた文書であると考えべきである。また、重要な場面や集会の記録(いつ、誰が、何を話したか)を残し、いつ、誰がフォローアップを行うかを決めておくことも有効だ。このような出来事を内部で記録しておくことで、進捗状況を監視し、時間の経過に伴う政策環境の微妙な変化を追跡する能力も向上する。

働きかけ、計画を実行する一方で、現在の状況やこれまでの道のりを振り返り、評価するための時間も設ける必要がある。必要に応じて、例えば月毎や四半期毎に、戦略やメッセージを再調整する必要があるかもしれない。パートナーとともに振り返りを行う際、目標を達成するために異なる戦略や追加の戦略が必要かどうかを判断するために、以下の質問が役立つ。

- 前回の評価/振り返り以降、次の段階で取り組むべき、あるいは活用すべき、特定の課題や成功があったか。
- 政策環境のプラスマイナス双方の変化で、取り組みに好機となるようなもの、あるいは障壁となるようなものはあるか。例えば、検討中の新しい政策や法律はあるか。
- 提言活動を支える新しい証拠や情報はあるか。例えば、新しい人口動態健康調査や多指標クラスター調査から得られた知見は、男性の参加の必要性を裏付けているか。
- 提言活動の新たな、あるいは追加的な対象はあるか。例えば、政権交代があったか。政府内で、この問題を前進させることができる新たな「擁護者」を特定したか。
- 協力や関与が可能な新しいパートナーや味方はいるか。例えば、問題に関心や支援を示している組織やネットワーク、連合体はあるか。
- 提言活動は、抵抗や反発を生み出しているか。例えば、他の組織や主要なリーダーがあなたの問題に反対しているか。

## ステップ1: 政策分析テンプレート

1. 法律/規制: 養育ケア、ECD、妊産婦の健康への男性の参加を奨励または禁止する法律、政策、規制はあるか

例えば

- 妊産婦健診やPNC訪問、分娩室を含むMNCH相談において、男性パートナーの同席を禁止または奨励する法律や政策があるか。これらの法律や政策は、女性の同意の重要性を考慮しているか。
- 関係省庁や機関(特に保健と教育)において、男性の MNCH や 幼児の学習・教育への参加を妨げるような非公式な立場や声明があるか。
- 社会保護政策は、育児や家事を含め、男性の共同世話責任をどの程度促進しているか。
- 男性に配偶者出産休暇および/または育児休暇を与える法律または政策があるか-ある場合はその期間、休暇は有給で振替可能か振替不可か。

2. 公共サービスの規定や手順: 養育ケア、ECD、妊産婦の健康への男性の参加を奨励または禁止するような保健・教育制度の規定、規定、手順があるか

例えば

- 父親や男性の保護者などのように関わるのが最良かについて指針を示す、医療施設の管理規定やその他の質保証の仕組みはあるか。
- 男性がパートナーと一緒に参加できるように、医療施設は診察時間の延長やセッションを行うことが期待されているか。
- プレスクールには、幼児の教育に関連した話し合いや活動に男女の保護者を参加させることに言及した管理規定があるか。
- 医療サービス規制は、男性の参加を可能にするためにインフラを調整する必要性について言及しているか(例えば、診療所では男性用にトイレを設置したり、産科病棟では男性が他の女性の邪魔にならないように出産に立ち会えるようにプライバシーを守る仕切りを設けるなど)。

どの機関の誰が、これを策定または施行する責務を負うのか。

何が存在し、どう施行されているかという点で、最も重要なギヤップは何か。

誰がこれらのギヤップに対処する責任を負うべきか。

どの機関の誰が、これを策定または施行する責務を負うのか。

何が存在し、どう施行されているかという点で、最も重要なギヤップは何か。

誰がこれらのギヤップに対処する責任を負うべきか。

## ステップ1: 政策分析テンプレート

3. 公共サービスの人材：教育や保健に携わる人材とその研修は、養育ケア、ECD、妊産婦の健康への男性の参加をどう促し、あるいは妨げているのか

例えば

- 教育や保健のスタッフは、父親や男性の保護者を保健サービスやプレイスクールに招き入れたり、直接コミュニケーションをとったり、子どもや健康や養育に対する男女の共同責任を促進したりするなど、彼らを歓迎し、関与させるための訓練を受けているか。
- ECDや妊産婦の健康への男性の関与の利点や、それらが保健セクター全体や子どもや子どもの発育目標にどのように関連しているかを理解するよう、スタッフは訓練を受けているか。
- 教育省は、ECDの訓練を受け、専門職として採用され、長期間働き続ける男性の数を増やすために、効果的なメカニズムを導入したか。
- 男性が MNCH や教育サービスに立ち入りたり、参加したりするのを妨げる可能性のある補助職員（受付係、清掃係、警備員など）も、男性の参加の重要性や、こうしたサービスへの男性の参加を支援する方法について研修を受けているか。
- 公共サービスと連携しているコミュニティの保健・児童発達支援ワーカーは、ECDや妊産婦の健康に男性が関わることの利点や、コミュニティの健康増進活動や子育てグループなどにおいて、父親や男性の保護者をいかに関与させるかを理解するための訓練を受けているか。

どの機関の誰が、これを策定または施行する責任を負うのか。

何が存在し、どう施行されているかという点で、最も重要なギャップは何か。

誰がこれらのギャップに対処する責任を負うべきか。



ステップ3 ワークシート: 提唱目標、目的、指標

提言活動目標: プロジェクト、特に男性のECD(および/または妊産婦の健康)への関与が達成に貢献する包括的な目標。

提言活動目的: 提言活動目的は、複数ある場合もあるだろう。目標は、具体的、測定可能、達成可能、現実的、期限付き(SMART)であるべきである。また、言葉を選び、説明すべきである: 何を変えたいのか。誰が変化をもたらすのか。どのような方法で、どの程度変えるのか。いつまでに変化を起こすのか。

提言活動の第一対象者の変化: これは、第一対象者である主要なアクターが政策転換を主導または支援する前に必要となる、知識、態度、政治的意志などの変化を示すものである。

目標/目的/成果

例: 推奨される8回のANC訪問に出席し、技能のある出産立ち会い人のもとで出産する女性の数の増加。

例 1. 2022年までに、保健省は新しい国家MNCH計画の中で、男性のMNCHへの参加を促進するための戦略を定め、予算を計上する。

例2: 2021年までに、保健省は医療従事者向けに、男性の参加を含むジェンダーに配慮したMNCHサービスマニュアルの手順と指針を策定した。

例 3. 2021年までに、地区保健委員会は医療施設規則を改定し、出産時に男性が立ち会おうことを禁止する条項をすべて削除した。

例 1. 2020年までに、国や県の保健当局が、ジェンダーに配慮したMNCHの重要性と、妊産婦の健康にとって男性の参加が有益であることを認識する。

例2. 2021年までに、国と県の保健当局は、男性の参加を支援するジェンダーに配慮したMNCHサービスマニュアルの政策変更を決定し、計画するための参加型プロセスを推進・支援する。

指標

妊娠中に訓練を受けた保健ワーカーによるANCを少なくとも8回受けた15~49歳の女性の割合。

過去2年間に出産した15~49歳の女性のうち、直近の出産時に技能のある医療従事者の立ち会いを受けた女性の割合。

新しい国家MNCH計画が、サービスマニュアルに配慮したものであり、男性の参加を促進するものであるようにするための戦略を定め、予算化している度合い。

男性の参加を支援するジェンダーに配慮したMNCHサービスマニュアルを提供している保健施設の割合。

女性が男性パートナーの同伴を希望し、男性が立ち会った出産の割合。

MNCHへの男性の参加を促すために適応可能な政策を2つ以上定めることができる政策立案者の数。

男性の参加を支援するジェンダーに配慮したMNCHサービスマニュアルに関する政策変更の必要性について、主要な政策立案者または意思決定者が公に承認した数。

主要な政策立案者または意思決定者が、男性の参加を支援するジェンダーに配慮したMNCHサービスマニュアルの政策を定め、計画するための参加型メカニズムを設置し、支援している地区の数。

ステップ7: 政策提言行動計画テンプレート						
提言活動上の課題または政策要請						
提言活動目的						
目標1						
目標2						
潜在的なパートナーまたは味方(ステップ4ワークシートで特定)						
パートナー1			パートナー4			
パートナー2			パートナー5			
パートナー3			パートナー6			
リスクと軽減策(ステップ5ワークシートで特定)						
潜在的リスク			リスクレベル (低/中/高)			軽減策
活動						
活動	対象	時機	責任	リソース	影響	男性
目標達成のために、何をするか。	誰がこの活動の対象となるのか。第一対象者が第二対象者か。	活動はいつ行われるのか。	誰にまたはどの組織に責任があるのか。どの程度か。	どのような人的、物的、経済的資源が必要か。	この活動は、提言活動目的と提言活動目標にどう貢献するか。	どのように活動を追跡し、効果を評価するか。



## 第7章：男性のECDへの参加を促進するためのSBCCキャンペーンのメッセージ策定

本章では、男性参加へのSBCC戦略の指針を示す。以下が含まれる。

- 社会・行動変容とSBCCを説明する序論
- SBCCのメッセージとアプローチを特定する前に考慮すべきこと
- 男性がECDに参加するためのSBCCメッセージ作成の手順
- メッセージの共有と適応に関する最終的な提言

内容の多くは、プラン・インターナショナル・カナダとPromundoが、Global Affairs Canadaの資金援助を受けて、Strengthening Health Outcomes for Women (SHOW) プロジェクトの一環として作成した [The Communications Guide for MenCare Partners: Male engagement in MNCH/SRHR](#)、および MenCare Global Campaignの経験から抜粋したものである。



## 序論：社会・行動変容とは、そしてSBCCとは何か

人びとがどう行動するかは、個人的な要因だけでなく、個人的、社会的、物質的、社会的/構造的要因（社会規範やジェンダー規範を含む）の複雑な相互作用によって決まることが多い。多くの国やコミュニティで、男性の参加が限られている理由は、以下の通りである。

- 幼児の世話と養育は女性の独占的責任であるというジェンダー規範
- 幼児を養育し、愛情をもって世話をする可能性を男性が持っているかという、否定的な認識や信念
- 男性が幼児の世話と養育に関与することがプラスに働くという認識は限定的である

### 社会・行動変容とは何か

社会・行動変容の活動には、人びとの行動に影響を与えるさまざまな要因を分析し、コミュニケーションも含めたさまざまな戦略を用いて、これらの要因の変化に影響を与え、変化を阻む障壁を取り除き、肯定的な規範、期待、態度、優先順位を促進することが含まれる。目的は、個人、コミュニティ、社会レベルでの変化の転機に到達することである。これは、十分な数の人が新しい行動を採用し、それがコミュニティや社会の他のメンバーに「広がり」、止められなくなり、持続するようになるポイントである。

社会・行動変容は、以下のようなさまざまな目標達成のために役立つ。

- 新しい行動や実践に関する個人の知識と積極的な態度を強化する。
- 社会規範やジェンダー規範に影響を与え（例えば、否定的な規範の放棄と肯定的な規範の創出を促進する）、コミュニティや集団レベルでの集団的慣行や行動の長期的な変化を支援する。
- 新たな行動を支援する環境づくり—例えば、主要なサービスを提供するサービス提供者の態度やスキの向上を通じて。
- 特定の行動や慣行に関して、意思決定者や政策決定者の態度に影響を与える<sup>76</sup>。

### 社会・行動変容コミュニケーション(SBCC)とは？

態度や信念を変え、男性のECDへの参加を促進するような新しいジェンダー規範を作るには、通常、複数の戦略が必要となる。これらの戦略には、(個人間の)行動変容のためのコミュニケーションと、社会変容のためのコミュニケーションの両方が含まれ、要するにSBCCである。

SBCCとは、個人の信念、態度、実践だけでなく、社会規範や期待、そしてそれらを支持・強化する政策にも影響を与えるよう設計された、さまざまな媒体(メッセージング、マスメディアやソーシャルメディアの利用、教育娯楽など)を使ったコミュニケーションである。

- SBCCは、社会・行動変容のための重要な戦略のひとつである(他のモジュールでは、グループによる批判的考察や対話、政策提言などについても触れている)。SBCCは、サービスに影響を与え、拡大し、政策を進展させ、実践に関する訓練を提供するための直接的な行動や参加と組み合わせられたときに、最も効果的である。
- SBCCは通常、人がどのように行動し、何が人を動機づけ、行動を促すのかを理解しようとする形成的な調査に基づいている。SBCCの活動は、通常、対象となる人びとが参加する協議プロセスを通じて設計されるべきである(人間中心設計など)<sup>77</sup>。
- SBCCのメッセージは、テレビ、ラジオ、劇場、ソーシャルメディア、ポスターなど、複数の伝達メカニズムを通じて共有することができる。

# SBCCのメッセージとアプローチを特定する前に考慮すべきこと

SBCCは通常、他の機関、組織、または重要な個人と連携して実施することで、その範囲と影響が拡大する。計画を始める前に、メディア組織やその他のNGOなど、このプロセスのパートナーとしてすでに協働している、あるいは協働できそうな他の組織があるかどうかを確認する。同様に、政府高官、著名人、政治家、地域のリーダーなど、ECDや妊産婦の健康への男性の参加の「擁護者」となりうる個人との協力関係があるかどうかを検討すること。既にパートナーとして、また父親として関わっている「模範」となるような男性は、特に重要な擁護者となるため、できるだけ早い時期から参加してもらうように努め、彼らが父親としてだけでなく、公平なジェンダー関係の真の模範となるように常に注意を払う必要がある。

また、効果的なメッセージの重要な要素は、信頼性があり、簡潔で、関連性があり、説得力があり、価値観を伝えるものであることに留意すること<sup>78</sup>。

- **信頼性。** 事実に正確で、主張の裏付けとなる情報を提供し、その事柄について信頼できる人びとによって伝えられる。
- **簡潔さ。** 良いメッセージは明確でシンプルである。人が理解し、記憶できる簡潔なメッセージは、長いメッセージや政策の瑣末な点を語るメッセージよりもはるかに効果的である。
- **関連性。** その人の興味、つまりその人が既に知っていること、考えていることから始め、その人をあなたの望む方向へ向かわせる。
- **説得力。** 人びとの心を揺さぶり、行動を起こさせる。
- **価値を伝える。** 人の核となる価値観（公正、平等、自由、正直など）に共鳴するように組み立てられたメッセージは、最も強力である。

メッセージはまた、常に実現可能な変化や行動を提案すべきである：遵守するのが難しいメッセージは、無視されることが多い（例えば、保健センターに行くたびに男性がパートナーに同行するよう提案することは、ほとんどの家族にとって実現不可能であろうが、少なくとも1回、あるいは初診のときに男性がパートナーに同行するよう提案することは、より現実的であろう）。

## 男性がECDに参加するためのSBCCメッセージ作成のステップ

以下は、SBCCのメッセージを特定し、コミュニケーション資料を策定するために踏むべき重要な手順の一部である。これらは、Promundoとプラン・インターナショナル・カナダが2016年から現在までカナダ政府の資金援助を受けて実施しているSHOWプロジェクトのために作成したSBCC Guidance Noteから引用したものである。これは、MenCare Global Campaignの経験に基づくものである<sup>ii</sup>。レシピ本のように、これらに厳密に従う必要はない状況に応じて意味のあるものを使用すること。

- 
- i キャンペーンによっては、ロールモデルとなる父親を使ったが、その父親が平等なパートナーでないことがわかり、メッセージを台無しにし、他の不公平な規範を強化することになった。ロールモデルや擁護者を起用することは効果的ではあるが、慎重な検討が必要である。
- ii [MenCare: A Global Fatherhood Campaign](#)は、世界40カ国超で活動している。その使命は、母親、父親、そして子どものために、家族の幸福、ジェンダー平等、健康を達成するために、公平で非暴力的な父親、そして保護者としての男性の参加を促進することである。MenCare Globalのメッセージやイメージは各国で自由にアレンジすることができるが（ウェブサイト上のリソースを参照）、男性が積極的に子どもの世話に関わることを奨励する方法については、いくつかの最善策が出ている。プログラムPの手引書のセクション3にも、MenCareキャンペーンのための追加的指針が記載されている。

## 問題と、促進したい新しい行動を明確に定義する

「問題行動」と、促進したい新しい行動が明確に定義されていれば、明確で簡潔なSBCCのメッセージを策定しやすくなる。

プロジェクトの状況分析では、活動するコミュニティにおける男性のECD(または妊産婦の健康/幸福への支援)への参加に関する主要な問題を特定する必要がある。また、プロジェクトの成果枠組みでは、影響を与えたい男性の行動における優先的变化を特定する必要がある。変化すべき既存の行動と促進したい新しい行動を列挙すること。

## 既存の証拠を収集し、状況を理解する

「問題」行動を変えるために効果的に貢献するSBCCのメッセージを作成するためには、その根底にあり影響を及ぼす信念、態度、規範を理解することが必要である。

プロジェクトの状況分析やその他の信頼できる情報源から得た情報やデータ(量的、質的の両方)を使って、男性がなぜそのような行動をとるのか、以下の点を分析する。

- 男性は現在、幼い子どもの世話や発育、ケア労働、妊産婦の健康管理などにどのように関わっているのか。
- なぜ男性はこうした行動をとるのか。男性が一層ECDに参加するためには何が障壁となるのか。
- ECD(および妊産婦の健康)への男性の参加について、プロジェクトの対象コミュニティの男女、コミュニティや政治的リーダー、サービス提供者などがどのように考えているか。
- 男性も女性も、幼児の世話と発育に男性が関与することのプラス効果について、どの程度知っているのだろうか。

## 証拠が示唆する、SBCCのメッセージングを通じて影響を与える必要がある知識、態度、期待、規範を特定する

前のステップに基づき、あなたが優先順位をつけた男性(女性、サービス提供者、コミュニティ住民も同様)の「問題行動」の最も重要な要因は何か特定する必要がある。

- 誤った知識や実際の信念(例えば、男性は幼児の保護者になれないという誤った信念)が、男性の参加を阻む重要な障壁となっているのか。
- 幼児の世話における男性の役割が、限定的なものであることを正当化するために、宗教的信念や文化的伝統が共有されているか。
- 男女に期待される役割と責任を規定するジェンダー規範が、男性の行動や限られた関与を助長しているのか。
- 仕事のために家を離れなければならない男性がいるということは、幼児の世話や発育にどれだけ関わることができるかに影響するのか。
- 他の男性がパートナーや父親としてしていることについての男性の予想は正しいのか。または、世間が思っているよりも多くの男性が家庭と関わり、支えているのだろうか。
- 地域のサービス(特に医療と教育)は、男性の参加をどの程度支援しているか。



この分析に基づき、特定する。

1. どの知識、信念、態度、規範が、もし影響を受けた場合、男性の行動変容に最も大きな影響を与えるのだろうか。
2. 誰が、知識、信念、態度に影響を受ける必要があるのか-男性、女性、リーダー、サービス提供者、または彼ら全員か。

## 新しい行動を促進し、既存の行動の原動力に対処することが可能かどうかを特定する

効果的なSBCCは、潜在的な予期せぬ結果を特定し、それらに対処する。それは、地域の状況における男性と父親の現実を反映したものである。

### 評価

- その行動の主な原動力が、「大規模」メッセージにより影響を受ける可能性があるかどうか。例えば、男性が幼児の世話や発育にあまり関与しない主な要因が、仕事のためにコミュニティから離れることである場合、SBCCやメッセージングは効果的な戦略とはなりにくい。
- 男性が新しい行動を採用した場合、(女性にとって、男性にとって、子どもにとって)否定的な結果が生じる可能性があるか。例えば、男性に妊産婦訪問に参加するよう勧めることで、女性が自身の自律性が脅かされているように感じる可能性はないか。あるいは、男性に家事への参加を促すことが、コミュニティのスティグマや辱めにつながる可能性はないだろうか？このような悪影響を避けるために、さらに進める前にメッセージングを慎重に行う必要がある。

## 男性、女性、年配の家族、サービス提供者など、対象となるグループとの協議を重ねながら、主要なメッセージを作成する

以下のチェックリストは、SBCCメッセージの作成(フォーカスグループまたは1対1の面談を通して)において、対象グループのメンバーと協働するために使用できる。また、これは、できるだけ多くの人にメッセージを届けるために、どう普及させるのが最善かを決定するためにも使用できる。

このチェックリストは、プラン・インターナショナル・カナダ/Promundo SHOWの文書から引用したもので、MenCare Global Campaignの例を用いて、男性の参加を促すメッセージの作り方を説明している。男性とのフォーカスグループや1対1の面談のための指針となる質問も含まれており、男性に合わせたメッセージの定義を支援する。これらの質問は、個別のメッセージを作成したい場合に、他のグループにも適用することができる。

国によっては、これらのメッセージを政府関係者に提出し、そのフィードバックと承認を得る必要がある。

### 1. 個人的な話をする

行動変容の必要性を個人化し、緊急で重要であると感じさせることが重要である(つまり、なぜこのことに関心を持たなければならないのか、なぜこの問題が重要なのか)。

個人的なストーリーや体験は、キャンペーンを一変させ、親しみやすくし、その影響力を高めることができる。対象グループには、取り上げる顔や声のなかに自身の姿を見てもらうのだ。

MenCareのひとつの手法は、子どもの声を使い、「You are my father」という文言を繰り返しキャンペーン資料に掲載することである。別の戦略は、男性や女性自身の言葉を使うことだ。

### 指針となる質問

- 男性として、妊産婦の健康や幼児の世話や発育に深く関わる上で、障害となるものは何か。
- より積極的に関与することで、起こりうるマイナスの影響に対する恐れや懸念はあるか。それは何か。
- 自身の生活の中で、妊産婦の健康や育児にもっと関わるようになった経験はあるか。説明いただきたい。
- 父親として母親の健康や育児に深く関わるようになったきっかけは何か。



あなたは私を抱きしめることを恐れない。あなたは私の父です。

年配者には理解できないかもしれない。友人も、たとえ子どもがいても、理解できないかもしれない。でも、あなたは違う。人前で家族への愛情を示したり、子育ての責任を分担したりすることを恐れない。

父親が速く、支度的で、心を閉ざしていると感じている子どもがあまりにも多いこの世の中で、あなたは要する人を家へ思いやり、感謝、それを示すことを恐れない父親になるチャンスを手に入れている。

父親と愛情について詳しくは: [www.men-care.org](http://www.men-care.org)

MenCare is coordinated by

MenCareの世界的なポスターは、父親に向かって直接語りかける子どもの声を使い、子どもが彼らを見るのと同じように、父親としての可能性、重要性、責任を認識するよう、父親自身にも促している。

愛情をテーマにした上のMenCareのポスターは、「You are not afraid to hold me close. You are my father.」というフレーズで、男性の子どもに注ぐ愛情、思いやり、養育の重要性について力強いメッセージを送っている。

ポスター: <http://men-care.org/resources/affection-global-poster/>

## 2. ポジティブでいること

否定的な言動が人を消極的にさせ、励まされるより責められていると感じることがある。

調査によれば、例えば父親が家事や育児をする姿を見た男の子は、彼らもそうする傾向がある。意欲的なメッセージを用いて、男性が父親として肯定的な観点から関与することは、「ケアのサイクル」を再構築するのに役立つ。また、参加し続けさせ、希望に満ちた流れを作ることできる。

### 指針となる質問

- 幼児やパートナーの健康、発達、幸福に関して、あなたが最も望んでいることは何か。
- 健康、発育、幸福に関して、子ども、パートナーにどのような未来を描いているか。
- 父親が子どもやパートナーの健康、発達、幸福に与えることができる最大のプラスの影響とは何だと思うか。



あなたは私の未来に平等を見ている。  
あなたは私の父です。

より希望に満ちた、より平等な未来は可能だ。子どもが知れば知るほど、学校で学べば学ぶほど、彼らの未来は大きくなる。そしてその未来は、女の子でも男の子でも、家庭から始まるのだ。

男の子でも女の子でも、異なる背景を持つ人でも、ゲイでもストレートでも、すべての人が平等に敬意をもって扱われるべきだと子どもに教えることは、彼らがチャンスと平等に満ちた未来を享受する権利があると教えることでもある。それは、子どもが一生覚えていく力強い教訓だ。

平等の教育については: [www.men-care.org](http://www.men-care.org) MenCare is coordinated by:  

MenCare は、男性やその家族、コミュニティが男性の世話を支援するよう鼓舞し、奨励するために、前向きなメッセージの力を活用している。平等に関する MenCare のポスターは、未来への希望と、子どものためにより良く、より平等な世界を創造する個々の父親の能力を強調することによって、これを実現している。

ポスターには以下が記載されている「より希望に満ちた、より平等な未来は可能です...男の子でも女の子でも、さまざまな背景を持つ人でも、ゲイでもストレートでも、すべての人が平等に敬意をもって扱われるべきであると子どもに教えることは、彼らも機会と平等に満ちた未来を享受する権利があると教えることでもあるのです」。

ポスター: <http://men-care.org/resources/equality-global-poster/>



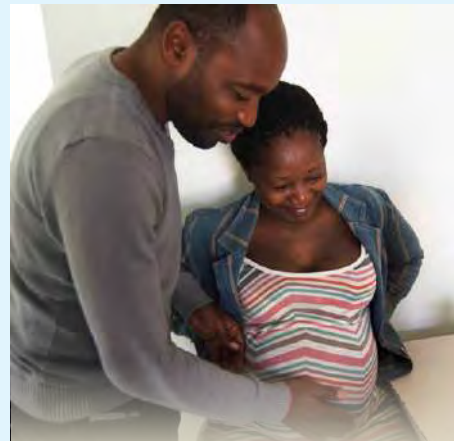
3. 「メリット」を強調することから逃げてはいけない

男性が妊産婦の健康や子どものケアと発育に関わることは、女性、男性、子どもの心身の健康と幸福だけでなく、幼児の早期発育にも大きな利益をもたらす可能性がある。短期的にも長期的にも、こうしたメリットについて話すことは、行動変容を促し、意欲を高めるのに役立つ。

指針となる質問

- 妊産婦の健康や 幼児の世話に深く関わることは、パートナーにどのようなメリットをもたらすと思うか。
- 妊産婦の健康や 幼児の世話に深く関わることは、子どもにとってどのようなメリットがあると思うか。
- 妊産婦の健康や幼児の世話に深く関わることは、あなたにとってどのようなメリットがあると思うか。

注:これらの質問は、有意義であれば、特定の習慣や行動を強調するように変更することもできる。例えば、パートナーが妊娠している間、男性が産前訪問を含め、パートナーのケアにもっと関与することで、どのような利点があるのかを探ることができる。



出産前の診察を欠かしません。  
あなたは私の父です。

父親になるという、一生産の冒険を始めるのだ。あなたは最初から必要とされている〜学ぶこと、関わること、責任を持つこと、そして母親のケアをすること。父親として、妊娠のあらゆる段階で母親をサポートすることで、間違いを正すことができる。

あなたが自分について知らなかったことを発見できるだけでなく、子どもと母親にとって安全で快適な出産の可能性が大きく増えることを助ける。

父親としての自覚と責任について、www.Men-Care.org

MenCare MenEngage Health Justice

MenCareの前向きなメッセージには、父親の関与がすべての人にとって有益であることが強調されている。Sonke Gender Justiceが企画した南アフリカのMenCareキャンペーンに採用された以下のポスターは、父親に直接語りかけるように、妊娠中のあらゆる段階で母親をサポートすることで、「自身について知らなかったことを発見できるだけでなく、子どもと母親にとって安全で快適な出産の可能性を大幅に高めることができる」と説明している。

ポスター: <http://men-care.org/resources/south-africa-english-poster-7/>

#### 4. 有害なステレオタイプを強化しない

私たちは常に、ジェンダー平等の推進とジェンダー変革の達成という最終目標を念頭に置きたいと考えている。「スーパーヒーローの父親」を示すのは楽しいかもしれないし、それが理にかなっていることもある。しかし、父親を救世主、ヒーロー、守護者、あるいは「解決策」として描くことは、権力的不平等を強化する可能性があり、母親や女性保護者の仕事を軽んじる結果になりかねない。

#### 指針となる質問

- コミュニティで男であることの意味は何か(例えば、強く、タフであること、生計を立てること、またはそれ以外の何か)。
- 男性が妊産婦の健康や子どもの世話・発育に関わるためには、理想的な男性像のステレオタイプを変える必要があると思うか。
- 男性が妊産婦の健康や子どもの世話や発育に関わることは、家族の長期的な幸福にとって重要か。その理由と方法は。



MenCare スリランカ・フィルム『Steven's Story』では、妻が家族を支えるために海外で働く傍ら、息子たちの世話をする第一の保護者としてのStevenの役割が描かれる。この映画では、彼が家庭やコミュニティでジェンダー的役割に関する有害なステレオタイプに挑戦していく中で、主な保護者であることの喜びと困難の両方がリアルに描かれている。

Steven は、「私をからかう男性もいた。髪を伸ばしていたから、『女性の役をうまく演じている』と言われた。私は彼らを気にしなかった。私が洗濯をしていると、女性たちは私のことを見ていた。彼女たちは同情をもって私を見ていた。私がしている良いことは、必ず自分に返ってくると。その言葉は私の胸を打った。彼女たちの励ましに、私は大きな安らぎと力を見出した。そこにいるだけで幸せなのだ。抱っこしてキスをされると、あるいは抱っこして髪を引っ張られるときも、鳥肌が立つ。本当に幸せな気分になる。男性的である必要性が突然消えてしまうんだ」。

映画: <http://men-care.org/resources/mencare-sri-lanka-film-2/>

5. 機械的なアプローチは禁物

メッセージは、男性にパートナーの健康や子どもの世話と発育をサポートするような行動を求めるだけでなく、根底にあるジェンダー不平等を問うものであることを確認することが重要である。

メッセージは、その特定の社会で男性であること、女性であることの意味を積極的に問いかけ、差別的なジェンダー規範や力の不均衡に敏感に挑戦するものでなければならない。

メッセージは、男性、女性、子どもの視点から書くことができる。どのような視点に立つにせよ、メッセージは男性(女性も同様)の家族のため、人間関係のための長期的な目標に訴えるものでなければならない。例えば、以下のようなメッセージは、妊産婦の健康や子どもの世話に男性が参加することを促すものではあるが、必ずしも根底にある思いこみに異議を唱えたり、長期的に彼らの参加を促したりするものではない。このようなメッセージをどのように書き直すかについての提案も含まれている:

X「妊娠中、出産時に妻を励まし、サポートする」

- 変更の提案:「妊娠中、出産時に妻を励まし、サポートすることで、生涯にわたるつながりの舞台を整えることができました」

X「妻の産前訪問に同行することが重要」

- 変更の提案:「妻と一緒に産前訪問に参加することで、私たちは最初から家族の健康と幸福に気を配ることができました」

X「危険なら妻を病院に連れて行きなさい」

- 変更の提案:「妻の妊娠が危険であることを見分ける方法を知ったとき、私は妻を病院に連れて行きました。子どもが安全で健康的なスタートを切れるように、一緒に努力しています」

X「積極的に子どもの世話をし、育てる人になる」

- 変更の提案:「毎日、今日から、私は子どもの人生に有意義な役割を果たすことを選ぶことができる。私が子どもと一緒に時間を過ごすとき、私たち全員が勝利する」



健康と社会正義のためのセンターが企画したインドのMenCareキャンペーンでは、マハラシュトラ州の男性が、父親業とジェンダー平等に関するグループ教育に参加した後、養育に携わるようになった話が記録されている。これらの男性の体験談は、単に特定の活動への参加を促すのではなく、家庭での人間関係の変化を強調している。

ある映画の関係者は、「伝統的な役割が私たちの人生を息苦しくしていると感じています」と言う。パートナーや子どもとの関係を変えようと努力した後、彼は「私たちの人生全体がこのように、甘く幸せに過ごすべきだと感じています」と続ける。

全シリーズ: <http://men-care.org/resource/s/?type=videos&country=india#more-videos>



一方、上のMenCareのポスターは、子どもが健康的な生活を送るために父親が果たせる役割を強調している。ポスターには:「あなたの息子は医者を怖がっていますが、予防接種を受けさせ、健康を維持することが正しいことであり、父親としてできる最も重要なことのひとつであることを知っています。[.....] 子どもが健康に育つようにし、医者の診察を少しでも怖くなくするために必要な勇気を与えることができるのです。」

ポスター: <http://men-care.org/resources/health-global-poster/>



指針となる質問

- 家の中で、家族の健康や幸福を含め、家庭内の意思決定について誰が責任を負っているか。
- コミュニティにおける「男であること」あるいは「女であること」という考えは、この力学をどのように強化しているか。
- 一方のパートナーが他方よりも権力を持ったり、責任を負ったりすることは、どのような結果をもたらすと思うか。そのことが、女性が妊産婦保健サービスを利用する能力や、幼児に提供されるケアにどう影響するか。
- 女性との長期的なパートナーになるために、コミュニティの男性ができることは何だと思うか。

これらの質問も、有意義であれば、特定の習慣や行動を強調するように適応させることができる。

6. ケアを当たり前にする

仲間や隣人も新しい行動を受け入れていると思えば、個人は変わる気になるかもしれない(ジェンダー規範が、男性の関与を制限する主な要因となっている場合は特にそうである)。

愛情を注ぎ、愛し、関わるのが「普通」であること、そして小さな変化(赤ちゃんを近くで抱きしめる、健康診断に連れて行く、一緒に遊ぶ、家事をする、など)を簡単に起こせることを示すことが重要である。

指針となる質問

- パートナーの健康や幸福、あるいは子どもの発育をサポートするために、毎日何をしているか(あるいは何ができるか)。
- パートナーの健康増進や子どもの成長に関して、パートナーから頼まれたこと、あるいはあなたの助けがありがたいと思われることは何か。
- パートナーの健康増進と、子どもの世話と養育の責任を分担するために、コミュニティの男性がよく行うことは何か。

これらの質問も、特定の習慣や行動を強調するように変えることができる。例えば、他の男性が家事の責任を分担しているのを見ているか。あるいは、幼児の入浴や食事について。



あなたはいつも私たちを導いてくれる。  
あなたは私の父です。

偉大な父親は生まれるものではなく、作られるものだ。参加し、最善を尽くし、日々挑戦し、一歩ずつ前進すること。たとえその一歩が、放課後に娘を柔道教室に連れて行くことであつたとしても。

子どもの世話に時間を費やすことで、彼もが得をする。子どもがあなたとの関係に積極的になるだけでなく、母親は自身やキャリア、そして家族に投資する時間を増やすことができる。そしてあなたも、父親であることがもたらぬほどのメリットがあることだと気づくだろう。それが日々家になっているのだ。

父親とケア労働: www.men-care.org

MenCare is coordinated by:

MenCare のポスターや映画は、誰でも積極的に参加する保護者への小さな一歩を踏み出すことができることを示すことで、養育が当たり前となることを目指している。養育に関するこのポスターには:「偉大な父親は生まれるものではなく、作られるものです。参加し、最善を尽くし、日々、一歩ずつ挑戦しましょう。たとえその一歩が、放課後に娘を柔道教室に連れて行くことであつても。」

ポスター: <http://men-care.org/resources/carework-global-poster/>

### 7. 男性ばかりを取り上げないこと

男性の行動変容がSBCCのメッセージングの目的かもしれないが、彼らの行動は人間関係やより広範なコミュニティという文脈の中で生まれる。男性が有意義に関わるためには、パートナーや家族、より広いコミュニティからの支援が必要な場合が多い。このことは、コミュニティで見られるカップルや家族(養父母、片親、ゲイの親など、多様な家族構成)の姿を見せることで明確にすることができる。また、妊産婦の健康、養育、家事における男女のコミュニケーションと協力を促進するような描写を強調することでも、このことを明確にすることができる。

#### 指針となる質問:

- 妊産婦の健康や 幼児の世話に関連する行動で、パートナーと共に行ったことがあるもの、または行うことを想像できるものは何か。
- 妊産婦の健康や 幼児の世話に関連する行動で、行ったことがあるもの、または他の家族と一緒に行うことを想像できるものは何か。それは誰か。
- パートナーとして、また父親として、より積極的に関わるためには、誰のサポートや励ましが必要か。

これらの質問もまた、特定の実践や行動を強調するために適応させることができる。



ニカラグアのMenCareキャンペーンは、Red de Masculinidad por la Igualdad de GéneroとFundación Puntos de Encuentroが企画したもので、尊敬、意思決定の共有、非暴力に基づいた健全なカップル関係の重要性を強調するイメージと文言を使用している。このニカラグアのポスターのキャッチコピーは「あなたが私の母を尊重してくれるのが好きです。あなたは私の父です」である。

ポスター: <http://men-care.org/resources/nicaragua-poster-4/>



Rwanda Men's Resource Center (RWAMREC) が企画したルワンダのMenCareキャンペーンは、家族計画を含むMNCH/SRHの重要な意思決定を男女が協力して共有することに焦点を当てたイメージと文言を使用している。このルワンダのポスターのキャッチフレーズは「妻と私は一緒に家族計画を立てる」である。

ポスター: <http://men-care.org/resources/rwanda-poster-9/>

## 養育ケアとECD(および/または妊産婦の健康/幸福)への男性の参加に関するメッセージを作成する際の注意点

### 8. 高品質の写真や映画に投資する

リソースは限られていることが多いが、魅力的な写真やビデオを使うことで、聴衆の注意を引き、意図したメッセージを吸収しやすくすることができる。メッセージ伝達手段として、ポスター、映画、パフォーマンス、物語の活用を検討してみる。

#### 指針となる質問

- TVを視聴するか。どのくらいの頻度で、どんなチャンネルや番組なのか。
- ラジオを聴くか。どのくらいの頻度で、どのチャンネルや番組なのか。
- ソーシャルメディアに参加しているなら、何を使っているか。
- 他にどんなメディアや 娯楽手段を使うか。

### 9. 知名度の高い父親や親と関わる

有名人の支持を得ることは難しいかもしれないが、その人の価値観がキャンペーンの価値観と一致していれば効果的である。コミュニティで尊敬されている人(有名人、権力者、宗教指導者など)の声を利用することで、メッセージとその影響を増幅させることができる。有名人の行動は、ジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチに沿ったものであるべきで、父親としての関与とジェンダー平等な関係の両方をモデル化するものでなければならない。

#### 指針となる質問

- 尊敬する人(有名人、仲間、リーダー)は。
- パートナーや 子どものケアや 幸福に関わる男性として、誰か(有名人、仲間、リーダー)が良い例だと思うか。
- コミュニティで他者に影響を与える力を持っているのは誰か(有名人、仲間、リーダー)。

## MenCare の例: A Global Fatherhood Campaign



世界中の多くのMenCareキャンペーンが、プロの、あるいは才能ある写真家や映画制作者を起用して、質の高いコミュニケーション資料を制作している。MenCare ブラジルの映画『Marcio's Story』は、父親としての役割と養育について感動的なメッセージを込めた映画の一例である。

「これは子どものためだけではありません。父親だけでなく、女性にもメリットがある。これはコミュニティを変容させる力を持っています」と父親業や世話に男性を参加させる取り組みについてMarcioは言う。

映画: <http://men-care.org/resources/mencare-brazil-film-marcios-story/>



Rutgers WPFインドネシアが企画したインドネシアでのMenCareキャンペーンは、子どもやパートナーの人生に男性が積極的に関わることの重要性を訴えるために、国内の有名人を起用した。インドネシアのテレビ司会者であるErsa Mayoriと俳優のLukman Sardiの2人がキャンペーンの広報役として起用され、テレビでキャンペーンが広く注目されるようになった。

「私は、MenCareと、子どもの世話に喜んで関わろうとする何百万人もの父親を支援します」とLukmanは言う。「私の夫と私は、MenCareと、家族のために前向きな変化を起こそうとしている何百万人もの父親を支援する約束をします」とErsaは言う。

Lukman のクリップ: <http://men-care.org/resources/mencare-tvc-lukman-sardi/>

Ersaのクリップ: <http://men-care.org/resources/mencare-tvc-ersa-mayori/>



### 10. 親近感を持たせる

知名度の高い父親や男性保護者を登場させることで、メッセージを多くの人びとに届け、影響を与えることができるが、対象グループが集まるコミュニティ空間に、親近感のある男性、女性、家族のビジュアル(コミュニティの男性/ロールモデルを使用)を入れることで、対象グループがメッセージが自身に関連していると感じることができる。そのためには、対象グループが誰で、どこで情報を得ているのかを理解することが重要である。

#### 指針となる質問

- 居住地は地方か都市か。
- 学歴は。
- 友人と集まる場所はどこか(カフェ/屋台、バス停、ショッピングモールやマーケット、コミュニティセンター)。
- 家族の世話や幸福に関連するメッセージをどこで入手するか(メディア、保健センター、コミュニティ集会)。



ペルーのMenCareキャンペーンは、Plataforma de Paternidades Perúが企画し、この取り組みに参加しているコミュニティの父親を紹介する一連のポスターを作成した。このポスターでは、MenCareの参加者であるEduardo(34歳)が、パートナーのFiorella(26歳)と、産前診察を行うJorge Arias Tayo医師と一緒に写っている。ポスターのキャッチフレーズは、「もっと良くなりたいたい、あなたとここで」。

ポスター: <http://men-care.org/resources/peru-2/>

## メッセージの共有、メッセージの適応

上記のステップの最後には、対象者(地元、国、地域、国際レベル)の心に響くような、重要なメッセージとビジュアルが定義されているはずだ。また、対象者がどのように情報を受け取るのか、そのためにどのメディアを利用すればよいのかも考えておくべきである。保健所やその他のコミュニティ空間に貼られるポスター、コミュニティラジオやテレビのソープオペラでの物語、ソーシャルメディアでの活動、地域のドラマやオープン劇場などである。

メッセージを発信する場所や方法には、以下の要素が影響する。

- 浸透度/到達度: 対象者/利害関係者に最も直接的に、最も多くアプローチできる場所はどこか
- 実効性: 対象者/利害関係者がメッセージに注目しやすいのはどこなのか、また、彼らにとってより効果的な媒体は何か
- リソースの利用可能性: さまざまな媒体を通じてSBCCメッセージの普及を支援するために、どのような財政的、人的リソース、パートナーシップを利用することができるか

開発したSBCC教材をどのように使えば、話し合いや対話のきっかけを作り、促すことができるかを考えておくこと。これは通常、単に資料を共有したり伝達したりするよりも効果的である。なぜなら、何が普通で何が期待されているか、また他の人が何をしていて何を期待されていると思うかについて、彼らの信念を共有する機会となるからである。例えば以下の点を確認する必要がある。

- コミュニティの演劇グループと協力して、このようなメッセージの骨組みとなる短い劇や寸劇を開発し、コミュニティで上映して、その後に話し合いを行うことは可能か。
- ラジオ用の番組を制作しているのであれば、コミュニティがラジオ討論グループを立ち上げるのを支援できないか。このグループでは、コミュニティ住民が集まって番組を聴き、あらかじめ用意された質問を使って、番組の内容についてどう思ったかについて話し合う。
- また、作成したポスターやビデオは、男性グループや保護者グループ、コミュニティフォーラムでの話し合いの出発点として利用できることを忘れずに！

最後に、SBCCキャンペーンは一度限りのイベントではない。社会規範や行動の変容には時間がかかるため、キャンペーン期間中にメッセージを変更する必要がある。定期的にパートナーと会い、進捗状況进行评估し、何がうまくいき、何がそうでなかったかを分析し、新たに参加できる擁護者がいるか、新たに語るべき物語があるかについて合意し、メッセージングを調整する必要があるか、新たな普及形態を検討する必要があるかを確認する。

# 卷末資料

- 1 Promundo, Culturasalud and Redmas (2013). [Program P](#): A Manual for Engaging Men in Fatherhood, Caregiving and Maternal and Child Health
- 2 子どもの権利委員会。General Comment No. 7 (2005) Implementing Child Rights in Early Childhood. [online]. <https://www2.ohchr.org/english/bodies/crc/docs/AdvanceVersions/GeneralComment7Rev1.pdf>
- 3 Lancet (2016). “Advancing Early Childhood Development: from Science to Scale”. [online] <https://www.thelancet.com/series/ECD2016>
- 4 Men Care (2015). State of the World’s Fathers, [online] <http://sowf.men-care.org/> (accessed February 2016)
- 5 Men Care (2015). *op. cit.*
- 6 Men Care (2015). *op. cit.*
- 7 Abosse Z., Woldie M. and Ololo S. (2010). “Factors Influencing Antenatal Care Service Utilization in Hadiya Zone”. *Ethiopia Journal of Health Science* 20(2): 75-82
- 8 Comrie-Thomson L., Mavhu W., Makungu C., Nahar Q., Khan R., Davis J., Luchters S., Hamdani S. and Stillio E. (2015). Men Matter: Engaging Men in MNCH Outcomes. Toronto, Canada: Plan International Canada.
- 9 Davis J., Luchters S., Holmes W. (2012). Men and Maternal and Newborn Health: Benefits, Harms, Challenges and Potential Strategies for Engaging Men. Melbourne, Australia: Compass: Women’s and Children’s Health Knowledge Hub.
- 10 Yargawa J., Leonardi-Bee J. (2015). “Male involvement and maternal health outcomes: Systematic review and meta-analysis”, *Journal of Epidemiology & Community Health*, 0: 1–9.
- 11 Chowdhury R.I., Islam M.A., Gulshan J., Chakraborty N. (2007). “Delivery Complications and Healthcare-Seeking Behaviour: The Bangladesh Demographic Health Survey, 1999-2000”, *Health & Social Care in the Community*, 15(3): 254–64.
- 12 Rahman M.M., Haque S.E., Zahan M.S. (2010). “Factors affecting the utilization of postpartum care among young mothers in Bangladesh”, *Health & Social Care in the Community*, 19(2): 138–47.
- 13 Yargawa J., Leonardi-Bee J. (2015). *op. cit.*
- 14 Men Care (2015). *op. cit.*
- 15 Doyle K., Kato Wallace J., Kazimbaya S., Barker G. (2014) Transforming gender roles in domestic and caregiving work: preliminary findings from engaging fathers in maternal, newborn, and child health in Rwanda. *Gender and Development*.
- 16 Men Care (2015) *op. cit.*
- 17 Edström, J.; Hassink, A.; Shahrokh, T. and Stern, E. (eds) (2015). “Engendering Men: A Collaborative Review of Evidence on Men and Boys in Social Change and Gender Equality”, EMERGE Evidence Review, Promundo-US, Sonke Gender Justice and the Institute of Development Studies [online].
- 18 Organisation for Economic Co-Operation and Development. (2019). The OECD Social Institutions and Gender Index. Cited in 2019 State of the World Fathers Report
- 19 Addati, L., Cattaneo, U., Esquivel, V., & Valarino, I. (2018). Care work and care jobs for the future of decent work. International Labour Organization. Cited in 2019 State of the World Fathers Report
- 20 MenCare (2015). *op. cit.*
- 21 United Nations, Division for Social Policy and Development (2011). Men in Families and Family Policy in a Changing World. New York: United Nations



- 22 Barker, G., Contreras, J.M., Heilman, B., Singh, A.K., Verma, R.K. and Nascimento, M. (2011). *Evolving Men: Initial Results from the International Men and Gender Equality Survey (IMAGES)*. Washington, D.C.: International Center for Research on Women (ICRW) and Rio de Janeiro: Instituto Promundo
- 23 Van der Gaag, N., Heilman, B., Gupta, T., Nembhard, C., and Barker, G. (2019). *State of the World's Fathers: Unlocking the Power of Men's Care*. Washington, DC: Promundo-US.
- 24 MenCareのGlobal Fatherhood Campaignを参照。<http://men-care.org/>
- 25 Comrie-Thomson et al. (2015). *op. cit.*
- 26 Swartz, S., Bhana, A., Richter, L., Versfeld, A. (2013). "Promoting Young Fathers' positive involvement in their children's lives". HSRC Policy Brief [online] <http://www.hsrc.ac.za/uploads/pageContent/3323/03%20Young%20Fathers.pdf>
- 27 Paschal, A.M. (2004). "I'm Doing What I Have to Do: African American Teens and their Experiences of Fatherhood," *Dissertation Abstracts International, A: The Humanities and Social Sciences* 64, 2663-A
- 28 Gettler, L.T., McDade, T.W., Feranil, A.B., Kuzawa, C. (2011). "Longitudinal evidence that fatherhood decreases testosterone in human males". *Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America*. September 12, 2011, doi:10.1073/pnas.1105403108
- 29 Doyle K. et al. (2014). *op. cit.*
- 30 Ditekemena, J., Koole, O., Engmann, C., Tshefu A., Ryder, R., Colebunders, R. (2012). "Determinants of Male Involvement in Maternal and Child Health Services in Sub-Saharan Africa: A Review." *Reproductive Health* 9 (2012).
- 31 Raikes, H.H., Summers, J.A., and Roggman, L.A. (2005). "Father involvement in Early Head Start programs", *Fathering*, 3(1): 29–58.
- 32 Swartz, S. et al. (2013). *op. cit.*
- 33 OECD (2011). *Doing Better for Families*. Paris: OECD Publishing.
- 34 Mencare (2016). The Mencare Parental Leave Platform. <http://genderjustice.org.za/publication/mencare-parental-leave-platform/> Accessed January 2018
- 35 World Bank Group. (2019). *Women, Business, and the Law 2019: A Decade of Reform*. Washington, DC: The World Bank. [online] <http://pubdocs.worldbank.org/en/702301554216687135/WBL-DECADEOF-REFORM-2019-WEB-04-01.pdf>
- 36 Van der Gaag, et al (2019). *Op Cit.* .
- 37 Samman E., Presler-Marshall E., Jones N. et al. (2016) 'Women's work: Mothers, children and the global childcare crisis', London: Overseas Development Institute
- 38 Panter-Brick C. et al. (2014). "Practitioner Review: Engaging fathers – recommendations for a game change in parenting interventions based on a systematic review of the global evidence" *Journal of Child Psychology and Psychiatry* 55:11 (2014), pp 1187–1212
- 39 Heilman B, Levtov R, van der Gaag N, Hassink A, and Barker G (2017). *State of the World's Fathers: Time for Action*. Washington, DC: Promundo, Sonke Gender Justice, Save the Children, and MenEngage Alliance.
- 40 Comrie-Thomson, L., Tohki, M., Ampt, F., Portela, A., Chersich, M., Khanna, R., Luchters, S. (2015). "Challenging gender inequity through male involvement in maternal and newborn health: critical assessment of an emerging evidence base". *Culture, Health & Sexuality* 17(S2): S177-S189
- 41 Barker G and Das A. (2004). "Men and Sexual and Reproductive Health: The Social Revolution". *International Journal of Men's Health* 3(3): 147-153.
- 42 Doyle, K., Kato-Wallace, J. Hamdani, S. (2018). *Guide for Mencare Partners. Male Engagement in Maternal, Newborn, and Child Health/Sexual Reproductive Health and Rights*. <https://men-care.org/wp-content/uploads/sites/3/2016/12/Male-Engagement-in-MNCH-SRHR-Guide-Web.pdf> Accessed July 2019
- 43 Doyle K. et al. (2014). *op. cit.*
- 44 Comrie-Thomson, Tohki et al. (2015). *op. cit.*

- 45 Promundo, UNFPA (2010). “Engaging Men and Boys in Gender Equality and Health – A global toolkit for action”. Rio de Janeiro, Brazil: Promundo, United Nations Population Fund.
- 46 Van der Gaag et al (2019). *Op Cit*.
- 47 Comrie-Thomson et al. (2015). *op. cit*.
- 48 Menengage alliance (n.d.) Critical dialogue on engaging men and boys in social justice: summary report. [http://menengage.org/wp-content/uploads/2016/06/e-Dialogue-Report\\_V5.pdf](http://menengage.org/wp-content/uploads/2016/06/e-Dialogue-Report_V5.pdf) Accessed February 2020
- 49 ルワンダのカップル向けMNCHグループ教育ファシリテーターが、ファシリテーターになる前に自身が参加者であったことの重要性を指摘したときの言葉。
- 50 The Prevention Collaborative (2018). “Programming to prevent violence against women: Practice Brief”, [online] [https://prevention-collaborative.org/wp-content/uploads/2018/11/PRACTICE-BRIEF\\_Training-and-Mentoring-220818-Low-Res.pdf](https://prevention-collaborative.org/wp-content/uploads/2018/11/PRACTICE-BRIEF_Training-and-Mentoring-220818-Low-Res.pdf). Accessed May 2019
- 51 Cislaghi, B., Denny, E.K., Cissé, M. et al. (2019). “Changing Social Norms: the Importance of “Organized Diffusion” for Scaling Up Community Health Promotion and Women Empowerment Interventions”. *Prevention Science* 20: 936 <https://doi.org/10.1007/s11121-019-00998-3>
- 52 Levto, R.G., Barker, G., Contreras-Urbina, M., Heilman, B. and Verma, R. (2014). “Pathways to Gender-equitable Men: Findings from the International Men and Gender Equality Survey in Eight Countries”, *Men and Masculinities*, November 2014: 1–35.
- 53 Promundo, CulturaSalud and REDMAS (2013). Program P – A Manual for Engaging Men in Fatherhood, Caregiving, Maternal and Child Health. Rio de Janeiro, Brazil and Washington, D.C.: Promundo.
- 54 定義はAdvocates for Youth, [www.advocatesforyouth.org/publications/publications-a-z/608-creating-safe-space-for-qlbtq-youth-a-toolkit#tips](http://www.advocatesforyouth.org/publications/publications-a-z/608-creating-safe-space-for-qlbtq-youth-a-toolkit#tips) とSafe Space Network, <http://safespacenetWORK.tumblr.com/Safespace> より引用。
- 55 World Health Organization (2009). Practical guidance for scaling-up health service innovations. Geneva: World Health Organization
- 56 McAllister, F., Burgess, A., Kato, J. and Barker, G. (2012) *Fatherhood: Parenting Programmes and Policy – A Critical Review of Best Practice*. London/Washington D.C.: Fatherhood Institute/ Promundo/ MenCare
- 57 McAllister, F. et al (2012) *Op Cit*.
- 58 McAllister, F. et al (2012) *Op Cit*.
- 59 Care (2018). “Tipping Point Social Norms Innovation Series”. Brief 4: Tea Stall conversations Available from <https://www.girlsnotbrides.org/wp-content/uploads/2017/11/care-tipping-point-tea-stall.pdf>
- 60 Ashburn, K., Kerner, B., Ojamuge, D., Lundgren, R. (2016). “Evaluation of the Responsible, Engaged, and Loving (REAL) Fathers Initiative on Physical Child Punishment and Intimate Partner Violence in Northern Uganda.” *Prevention Science* (2017) 18: 854–864
- 61 McBride, B., Rane, T. (1996). “Father/Male Involvement in Early Childhood Programs”. ERIC Digest <https://www.ericdigests.org/1997-2/father.htm>
- 62 Harty, M.A. (n.d.). “An exploration of the influence male childcare workers have when working with children”, in *Childlinks: Men in early childhood care and education*. Barnados, Ireland [online] <http://www.donegalchildcare.com/wp-content/uploads/2015/08/Barnados-childlinks-men-in-childcare.pdf>
- 63 UNESCO Institute of Statistics (n.d.). “Percentage of female teachers by teaching level of education”, <http://data.uis.unesco.org/index.aspx?queryid=178> (accessed February 2018)
- 64 MenCare and Fatherhood Institute (n.d.). “Bringing Fathers In” Factsheets, <http://men-care.org/resources/bringing-fathers-in/> (accessed June 2016)
- 65 Bartlett D. (2015). “Men into Childcare. How can we achieve a more gender-balanced early years and childcare workforce?” Fatherhood Institute. <http://www.fatherhoodinstitute.org/wp-content/uploads/2015/04/Men-into-Childcare-PDF.pdf>

- 66 Eyal, A., Hendler, T., Shapira-Lichter, I., Kanat-Maymon, Y., Zagoory-Sharon, O. and Feldman, R. (2014). "Father's Brain Is Sensitive to Childcare Experiences," Proceedings of the National Academy of Sciences, 27 May, <https://doi.org/10.1073/pnas.1402569111>
- 67 Bartlett D. (2015). *Op Cit*.
- 68 Woltring, L. (n.d.). "Get the Good Guys in and the Wrong Guys out". Prevention of Abuse Embedded in Good Quality Management. Childlinks: Men in early childhood care and education. Barnados, Ireland [online] <http://www.donegalchildcare.com/wp-content/uploads/2015/08/Barnados-childlinks-men-in-childcare.pdf>
- 69 Woltring, L. (n.d.). *Op Cit*.
- 70 See: MenCare (2018). *Guide for MenCare partners on working with religious and traditional leaders: Male engagement in maternal, newborn and child health/sexual and reproductive health*. <https://men-care.org/wp-content/uploads/sites/3/2018/07/Reli-Leaders-guide-FINAL.pdf>
- 71 MenEngage Alliance (2016). *Faith-based Approaches to Transforming Masculinities for Gender Justice & Equality: A Two-Day Consultation*. Washington, D.C.: MenEngage Alliance.
- 72 UNDP (2014). "UNDP Guidelines on Engaging with Faith-based Organizations and Religious Leaders", New York: UNDP; Care Norway (2017). *Engaging Religious Leaders In Gender Transformative Work: Faith & Masculinities*, Geneva: Care International
- 73 この点に関する有益な提言については、以下を参照: [UNICEF \(2012\). Partnering with religious communities for children](#). New York: UNICEF
- 74 [UNICEF \(2012\). Partnering with religious communities for children. \[online\]](#).
- 75 Mencare (2018) Advocacy Guide for Mencare partners: male engagement in maternal, new-born and child health/sexual and reproductive health. <https://men-care.org/wp-content/uploads/sites/3/2018/07/Advocacy-Guide-%E2%80%93-Final.pdf>
- 76 参照: Health Communication Capacity Collaborative (n.d.). "Designing a Social and Behavior Change Communication Strategy". Johns Hopkins University, [online] <http://sbccimplementationkits.org/courses/designing-a-social-and-behavior-change-communication-strategy/>
- 77 参照: Defining Social Behavior Change Communication - Manoff Group - (2012) available from <https://europa.eu/capacity4dev/iesf/documents/defining-social-behavior-change-communication-manoff-group-2012>. For more on human-centred design, see also Ideo's "HCD Design Kit", <https://www.ideo.com/post/design-kit>
- 78 Center for Health and Gender Equality (n.d.)より引用。"Creating and Communicating an Effective Message", [online] [http://genderhealth.org/files/uploads/change/Tools\\_for\\_Advocacy/Communicating\\_an\\_Effective\\_Message.pdf](http://genderhealth.org/files/uploads/change/Tools_for_Advocacy/Communicating_an_Effective_Message.pdf)





## プラン・インターナショナルについて

私たちは、世界中の女の子のために子どもの権利と平等を推進するために努力している。私たちは、子ども一人ひとりの力と可能性を認めている。しかし、それは貧困、暴力、排除、差別によって抑圧されがちである。そして最も影響を受けているのは女の子だ。

独立した開発・人道支援団体として、私たちは子どもやユース、支援者やパートナーとともに、女の子やすべての弱い立場の子どもが直面する課題の根本原因に取り組んでいる。生まれてから大人になるまで子どもの権利を支援し、子どもが危機や逆境に備え、対応できるようにする。私たちの活動範囲、経験、知識を活用し、地域、国、世界レベルで実践と政策の変革を推進する。85年超にわたり、子どものために強力なパートナーシップを構築し、80カ国超で活動している。



## Promundoについて

Promundo は男性や 男の子と協力してジェンダー平等を推進し、暴力を防止する世界的なリーダーであり、女性や女の子、あらゆるジェンダー・アイデンティティを持つ個人とパートナーシップを結んでいる。私たちは、有害なジェンダー規範や不平等な力関係を変革するために男性や男の子と協力することが、ジェンダー平等を達成するための解決策の重要な部分であると信じている。変革的で持続可能な変化のためには、男性と男の子は自身がそのプロセスにおけるパートナーであると認識しなければならない。有害な規範に挑戦することで、男性や男の子も利益を得ることができる。私たちの調査、プログラム、提言活動は、「男性とは何か」の肯定的なモデルを探求し、健全で尊敬に値する男性性を促進することが、女性や女の子の生活、男性自身の生活、そしてあらゆるジェンダー・アイデンティティを持つ個人の生活の改善につながることを示している。Promundoは、アメリカ、ブラジル、コンゴ民主共和国、ポルトガル、チリに加盟団体を持つ国際組織である。

### Plan International

Global Hub  
Dukes Court,  
Duke Street,  
Woking,  
Surrey  
GU21 5BH, United Kingdom

**Tel:** +44 (0) 1483 755155

**Fax:** +44 (0) 1483 756505

**Email:** [info@plan-international.org](mailto:info@plan-international.org)

[plan-international.org](http://plan-international.org)

Published in 2021. Text © Plan International.

This Guidance can be reproduced and/or translated in whole or in part for educational or training purposes with the inclusion of an acknowledgement of the source. Reproduction and/or translation requires prior written permission from Plan International. It cannot be reproduced and/or translated for commercial use or sale.

Plan International is eager to learn from the experience of organizations using this Guidance. Please reach out to us at [ECD@plan-international.org](mailto:ECD@plan-international.org) for more information and to share your feedback.

[facebook.com/planinternational](https://facebook.com/planinternational)

[twitter.com/planglobal](https://twitter.com/planglobal)

[instagram.com/planinternational](https://instagram.com/planinternational)

[linkedin.com/company/plan-international](https://linkedin.com/company/plan-international)

[youtube.com/user/planinternationaltv](https://youtube.com/user/planinternationaltv)